

2004(平成16)年度

講義内容

教職課程・資格講座

 駒澤大學

講義内容（教職課程・資格講座）

目 次

I 教 職 課 程	11
II 学校図書館司書教諭講座	125
III 社会教育主事講座	133
IV 博物館学講座	149
V 社会福祉主事講座	171

※上記の教職課程および資格講座授業科目の講義内容が掲載されていますが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりです。
 （履修についての詳細は、『教職課程・資格講座履修要項』を参照すること。）

学部・学科		課程・講座	教職課程	学校図書館司書教諭講座	社会教育主事講座	博物館学講座	社会福祉主事講座
仏 教 学 部			●	●	●	●	●
文 学 部			●	●	●	●	●
経済学部	経済学科フレックス A・商学科		●	●	●		●
	経済学科フレックス B（平成12年度以降入学生）		●	○	○		
	経済学科フレックス B（平成11年度以前入学生）		●				
法学部	法律学科フレックス A・政治学科		●	●	●		●
	法律学科フレックス B（平成12年度以降入学生）		●	○	○		
	法律学科フレックス B（平成11年度以前入学生）		●				
経営学部	第1部経営学科・経営学科フレックス A		●	●	●		●
	第2部経営学科（平成12年度以降入学生） 経営学科フレックス B		●	○	○		
	第2部経営学科（平成11年度以前入学生）		●				
医療健康科学部							●

（注意）○印は、フレックス A の時間帯を履修することにより取得可能。

講義内容（教職課程・資格講座）の配当学科表記について

文学部地理学科地域文化研究専攻
文学部地理学科地域環境研究専攻

は、「地理」でまとめて表記しています。

I 教 職 課 程

I 教 職 課 程

〔フレックスA・第1部〕

(1) 教職に関する科目 (必修)

教 職 入 門	〈藤 木 篤 典〉	11
教 職 入 門	〈磯 山 進〉	11
教 育 の 思 想	〈豊 田 千 代 子〉	12
教 育 の 思 想	〈北 村 三 子〉	13
教 育 の 思 想	〈伊 藤 茂 樹〉	13
教 育 の 思 想	〈萩 原 建 次 郎〉	14
教 育 の 思 想	〈坂 本 信 昭〉	15
教 育 と 社 会	〈豊 田 千 代 子〉	16
教 育 と 社 会	〈北 村 三 子〉	16
教 育 と 社 会	〈伊 藤 茂 樹〉	17
教 育 と 社 会	〈萩 原 建 次 郎〉	18
教 育 と 社 会	〈坂 本 信 昭〉	19
発 達 と 学 習 の 心 理 学	〈大 浜 幾 久 子〉	19
発 達 と 学 習 の 心 理 学	〈川 田 三 夫〉	20
発 達 と 学 習 の 心 理 学	〈山 本 政 人〉	21
発 達 と 学 習 の 心 理 学	〈角 野 善 司〉	22
カ リ キ ュ ラ ム と 学 習	〈大 浜 幾 久 子〉	22
カ リ キ ュ ラ ム と 学 習	〈川 田 三 夫〉	23
カ リ キ ュ ラ ム と 学 習	〈夏 堀 睦〉	24
カ リ キ ュ ラ ム と 学 習	〈角 野 善 司〉	25
教 育 と メ デ ィ ア	〈小 倉 康 仁〉	26
教 育 と メ デ ィ ア	〈石 橋 達 也〉	27
教 育 と メ デ ィ ア	〈芝 崎 順 司〉	28
道 徳 教 育 の 研 究	〈藤 木 篤 典〉	29
道 徳 教 育 の 研 究	〈関 根 和 夫〉	30
道 徳 教 育 の 研 究	〈井 上 勝〉	31
特 別 活 動	〈藤 木 篤 典〉	32
特 別 活 動	〈関 根 和 夫〉	33
特 別 活 動	〈井 上 勝〉	34
生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む)	〈小 宮 山 要〉	35
生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む)	〈目 良 秋 子〉	35
生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む)	〈佐 藤 尚 人〉	36
生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む)	〈遠 藤 司〉	36
生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む)	〈川 原 誠 司〉	37
教 育 臨 床	〈小 宮 山 要〉	37
教 育 臨 床	〈目 良 秋 子〉	38
教 育 臨 床	〈佐 藤 尚 人〉	38
教 育 臨 床	〈遠 藤 司〉	39
教 育 臨 床	〈川 原 誠 司〉	39
総 合 演 習 (1) [障 害 児 と 教 育]	〈遠 藤 司〉	40
総 合 演 習 (2) [障 害 児 と 福 祉]	〈遠 藤 司〉	40
総 合 演 習 (3) [環 境 教 育]	〈北 村 和 夫〉	41
総 合 演 習 (4) [近 代 社 会 と 身 体]	〈北 村 和 夫〉	41
総 合 演 習 (5) [対 人 関 係 と ス ト レ ス]	〈川 原 誠 司〉	41
総 合 演 習 (6) [学 校 に お け る 対 人 関 係]	〈川 原 誠 司〉	42

総合演習(7)〔心の健康と教育〕〈野中弘敏〉	42
総合演習(8)〔心の援助と教育〕〈野中弘敏〉	43
総合演習(9)〔教育と法律〕〈広沢明〉	43
総合演習(10)〔子どもの人権〕〈広沢明〉	44
総合演習(11)〔生と死の教育〕〈柳堀素雅子〉	44
総合演習(12)〔生命倫理〕〈柳堀素雅子〉	45
総合演習(13)〔現代的学習課題とジェンダー〕〈高井葉子〉	45
総合演習(14)〔学校教育におけるジェンダー〕〈高井葉子〉	46
総合演習(15)〔持続可能性と技術〕〈北村三子〉	46
総合演習(16)〔豊かさの多様性〕〈北村三子〉	46
総合演習(17)〔現代家族の諸問題と教育〕〈鈴木朋実〉	47
宗教科教育法Ⅰ〈小山一乗〉	48
〔13年度以前入学生：宗教科教育法〕	
宗教科教育法Ⅱ〈小山一乗〉	50
国語科教育法Ⅰ〈神谷道倫〉	51
〔13年度以前入学生：国語科教育法〕	
国語科教育法Ⅱ〈神谷道倫〉	52
書道科教育法〈那須隆吉〉	52
英語科教育法Ⅰ〈佐藤真二〉	53
〔13年度以前入学生：英語科教育法〕	
英語科教育法Ⅱ〈佐藤真二〉	53
社会科教育法Ⅲ(地理歴史)〈生田清人〉	54
〔13年度以前入学生：地理歴史科教育法Ⅰ〕	
社会科教育法Ⅲ(地理歴史)〈桜井明久〉	54
〔13年度以前入学生：地理歴史科教育法Ⅰ〕	
社会科教育法Ⅳ(地理歴史)〈生田清人〉	55
〔13年度以前入学生：地理歴史科教育法Ⅱ〕	
社会科教育法Ⅳ(地理歴史)〈桜井明久〉	55
〔13年度以前入学生：地理歴史科教育法Ⅱ〕	
社会科教育法Ⅰ(地理歴史)〈藤木正国〉	56
〔13年度以前入学生：地理歴史科教育法Ⅰ〕	
社会科教育法Ⅳ(地理歴史)〈藤木正国〉	56
〔13年度以前入学生：地理歴史科教育法Ⅱ〕	
社会科教育法Ⅴ(公民)〈橋爪敏〉	57
〔13年度以前入学生：公民科教育法Ⅰ〕	
社会科教育法Ⅵ(公民)〈橋爪敏〉	57
〔13年度以前入学生：公民科教育法Ⅱ〕	
社会科教育法Ⅴ(公民)〈谷敷正光〉	58
〔13年度以前入学生：公民科教育法Ⅰ〕	
社会科教育法Ⅵ(公民)〈谷敷正光〉	59
〔13年度以前入学生：公民科教育法Ⅱ〕	
社会科教育法Ⅴ(公民)〈小川輝之〉	60
〔13年度以前入学生：公民科教育法Ⅰ〕	
社会科教育法Ⅵ(公民)〈小川輝之〉	60
〔13年度以前入学生：公民科教育法Ⅱ〕	
社会科教育法Ⅰ〈磯山進〉	61
社会科教育法Ⅱ〈磯山進〉	61
社会科教育法Ⅰ〈小川輝之〉	62
社会科教育法Ⅱ〈小川輝之〉	62

社会科学教育法Ⅰ	〈二井正浩〉	63
社会科学教育法Ⅱ	〈二井正浩〉	63
福祉科教育法	〈桐原宏行〉	64
商業科教育法	〈谷敷正光〉	65
職業科教育法Ⅰ	〈前田幸一〉	66
〔13年度以前入学生：職業科教育法〕		
職業科教育法Ⅱ	〈前田幸一〉	66
教育実習Ⅰ・Ⅱ	〈豊田千代子〉	67
教育実習Ⅰ・Ⅱ	〈坂本信昭〉	67
教育実習Ⅰ・Ⅱ	〈萩原建次郎〉	68
教育実習Ⅰ・Ⅱ	〈北村三子〉	68
教育実習Ⅰ・Ⅱ	〈伊藤茂樹〉	69
教育実習Ⅰ・Ⅱ	〈遠藤司〉	69

(2) 教科又は教職に関する科目〔平成12年度以降入学生〕

教職に関する科目（選択）〔平成11年度以前入学生〕

教育関係法規	〈広沢明〉	70
教育評価	〈大浜幾久子〉	70
教育哲学	〈北村三子〉	71
教育情報学	〈小倉康仁〉	71
教育臨床心理学	〈小野けい子〉	72
教育社会学	〈伊藤茂樹〉	72
教育史	〈山本敏子〉	73
教育調査	〈鈴木規夫〉	73
現代社会の諸問題と教育Ⅱ	〈鈴木朋実〉	74
青少年問題研究	〈讃岐真佐子〉	75
宗教教育	〈小山一乗〉	76
生涯学習概論Ⅰ	〈豊田千代子〉	77
生涯学習概論Ⅱ	〈豊田千代子〉	77
視聴覚教育	〈佐野博彦〉	77
学校経営と学校図書館	〈山田節子〉	77
読書と豊かな人間性	〈山田節子〉	77
学校図書館メディアの構成	〈源昌久〉	77
学校図書館メディアの構成	〈篠田耀子〉	78
情報メディアの活用	〈源昌久〉	78
情報メディアの活用	〈篠田耀子〉	78
学習指導と学校図書館	〈山田節子〉	78

(3) 教科に関する科目

【社会・地理歴史・公民】

東洋思想史	〈末木恭彦〉	79
民間信仰論	〈谷口貢〉	79
人文地理学概説	〈小池とみ子〉	80
自然地理学概説	〈高木正博〉	80
自然地理学概説	〈早船元峰〉	81
地誌学概説	〈川元豊和〉	81
地誌学概説	〈新井祥穂〉	82
地誌学概説	〈橋詰直道〉	83
日本史概説	〈出口宏幸〉	83
日本史概説	〈熊本史雄〉	84
世界史概説	〈石井仁〉	84

世	界	史	概	説	〈井	村	行	子〉	85		
社	会	学	原	論	〈渡	辺	源	樹〉	86		
宗	教	人	類	学	〈佐	藤	憲	昭〉	87		
経	済	原	論	論	〈畠	中	貴	貴〉	88		
経	済	原	論	論	〈浅	野	克	巳〉	89		
経	済	原	論	論	〈荒	木	勝	啓〉	90		
経	済	原	論	論	〈小	野	哲	司〉	90		
民	治	法	I	論	〈大	宮	隆	隆〉	91		
政	治	学	原	論	〈井	戸	正	伸〉	92		
日	本	宗	文	史	〈小	川	順	敬〉	93		
民	衆	宗	教	成	立	史	津	城	寛	文	93
宗	教	学	概	説	池	上	良	正	建	94	
宗	教	学	概	説	津	城	寛	文	95		
宗	教	学	概	説	末	木	恭	彦	95		
哲	学	概	説	久	保	陽	一	96			
倫	理	学	概	説	河	谷	淳	96			
【職	業										
産	業	概	説	前	田	幸	一	97			
職	業	指	導	前	田	幸	一	97			
商	業	実	習	前	田	幸	一	98			
農	業	実	習	古	沢	紘	造	98			
【商	業										
職	業	指	導	前	田	幸	一	98			

〔フレックスB・第2部〕

(1) 教職に関する科目 (必修)

教	職	入	門	〈磯	山	進	99										
教	育	の	思	想	〈伊	藤	茂	樹	99								
教	育	と	社	会	〈伊	藤	茂	樹	100								
発	達	と	学	習	の	心	理	学	〈川	田	三	夫	101				
カ	リ	キ	ュ	ラ	ム	と	学	習	〈川	田	三	夫	102				
教	育	と	メ	デ	ィ	ア	〈石	橋	達	也	103						
道	徳	教	育	の	研	究	〈山	田	忠	行	103						
特	別	活	動	〈山	田	忠	行	104									
生	徒	指	導	論	(進	路	指	導	を	含	む)	〈遠	藤	司	104		
教	育	臨	床	〈遠	藤	司	105										
総	合	演	習	(1)	[障	害	児	と	教	育]	〈遠	藤	司	105			
総	合	演	習	(2)	[子	供	・	自	然	・	家	庭]	〈山	本	敏	子	106
教	育	実	習	I	・	II	〈伊	藤	茂	樹	106						
社	会	科	教	育	法	I	〈磯	山	進	107							
社	会	科	教	育	法	II	〈磯	山	進	107							
社	会	科	教	育	法	V	(公	民)	〈谷	敷	正	光	108				
〔13年度以前入学生：公民科教育法I〕																	
社	会	科	教	育	法	VI	(公	民)	〈谷	敷	正	光	109				
〔13年度以前入学生：公民科教育法II〕																	
商	業	科	教	育	法	〈谷	敷	正	光	110							
職	業	科	教	育	法	〈前	田	幸	一	111							

(2) 教科に関する科目

日	本	史	概	説	〈根	本	隆	一〉	112	
日	本	史	概	説	〈角	田	朋	彦〉	112	
世	界	史	概	説	〈松	本	弘	弘〉	113	
地	誌	学	概	説	〈川	元	豊	和〉	113	
地	誌	学	概	説	〈渡	邊	盾	夫〉	114	
人	文	地	学	概	説	〈渡	邊	盾	夫〉	114
宗	教	学	概	説	〈田	中	か	の	子	115
宗	教	学	概	説	〈須	藤	寛	人	116	
哲	学	学	概	説	〈河	谷	淳	淳	116	
政	治	学	原	論	〈大	塚	桂	桂	117	
産	業	学	概	説	〈前	田	幸	一	118	
商	業	学	実	習	〈前	田	幸	一	118	
農	業	学	実	習	〈休	講	講	講		
職	業	学	指	導	〈前	田	幸	一	119	

[フレックス A・第1部]

(1) 教職に関する科目 (必修)

科目名	担当者名	配当学科	単位
教職入門 (後期)	藤木篤典 <small>ふじきあつのり</small>	12以降入学生/教職1必	2

講義のねらい

高度消費社会のもと、国際化・情報化の進展、過密・過疎、少子化、近年の不況の中、多様化した生徒をどう教育するか。日本の教育界は、価値観の多様化、生徒間の「いじめ」や不登校等の多くの問題を抱えている。

それらの問題を解決するための力量が教師に求められる。制度面でも多様な高校（通信制、昼夜間定時制、全・定単位制、総合学科）が設立されている。

この講義では、教師になるための勉強の第一歩として、必要な知識を学びます。生徒は、教師の接し方、アドバイス等で大きく変化します。

講義の内容・授業スケジュール

- ・教育について
- ・教育機関・制度
- ・法体系について
- ・教育法規
- ・教師の身分（採試）
- ・教育免許状
- ・職務と身分（校長、教頭、教諭、養護教諭、実習助手、事務職）
- ・特別活動
- ・教育内容
- ・教育課程
- ・その他（学校評議員制度、関係諸団体、研修、国際交流、障害児教育、生徒指導等）

履修上の留意点

採用試験に向けて、自己の進路として受けとめて学んでほしい。

成績評価の方法

出席状況、レポート等の提出など総合的に評価する。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教職入門 (後期)	磯山進 <small>いそやますすむ</small>	12以降入学生/教職1必	2

講義のねらい

近年は、メディアはもとより地域・住民の学校教育に対する関心が一層高まり、教員の在り方についても厳しい目が向けられているが、それは他面では学校教育に対する期待のあらわれでもある。かかる動向を踏まえて、本講義では、地域・住民の信託と生徒の期待に応える学校教育を如何に展開していくかについて、教育の理念と教育法規の視点から考察してゆく。

講義の内容・授業スケジュール

1. 学校教育の目的について
2. 教育課程の編成について
3. 学習指導と評価について
4. 生徒指導と教育相談について
5. 進路指導について
6. 特別活動の意義について
7. 学級経営について
8. 学校の管理・運営について
9. 校務分掌について
10. 教育活動の評価について
11. 教員の資質・能力と研修について
12. 教育実習について
13. 教員の採用、地位と身分について
14. 教育改革について
15. 総合的な学習の時間について

履修上の留意点

教職を志望しているか、教育に関心を持っている人の履修を期待します。

成績評価の方法

レポート、出席状況等で総合的に評価する。

教科書

教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

参考文献は授業の中で示す。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 の 思 想 (前期)	とよ た ちよ こ 豊 田 千代子	教職2必(禅・仏教・国文)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

この授業では、「子どもの権利条約を思想として読む」ことをめざす。1989年に国連で採択された「子どもの権利条約」は、ポーランドによって提案された。この背景の一つには、第一次世界大戦および第二次世界大戦下で多くのポーランドの子どもたちが戦争の犠牲になった(第二次大戦では、とくにユダヤ系ポーランド人の子どもたちの人権が守られなかった)という歴史的事実とそのことへの反省がある。

ユダヤ系ポーランド人の教育者であり医者であり、また作家でもあったヤヌシュ・コルチャック(本名ヘンリク・ゴールドシュミット、1878～1942)は、当時、孤児院の子どもたちのくらしや教育に携わっていたが、それらにみられる「コルチャック先生」の教育の思想、とりわけその核をなす子ども観は、子どもの権利条約の思想的基礎となっているとも言われている。

このようなコルチャック先生の教育の思想を土台にしつつ、わが国の教育をめぐる子どもたちの現状について考えたり、子どもの権利条約を読んでみたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

- ・自分たちの受けてきた教育のふり返り
- ・教育をめぐる子どもたちの現状
- ・コルチャック先生の思想
- ・子どもの権利条約とコルチャック先生

成績評価の方法

出席点、レポート等により成績評価を行なう。

教 科 書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参 考 書 等

樋渡直哉『子どもの権利条約とコルチャック先生』(ほるぷ出版)

そ の 他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育の思想 (前期)	きたむらみつこ子 北村三子	教職2必(特・仏教・ 国文・英米文・地理・歴史)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

今日の日本の教育制度の理念や思想について深く理解するために、その源流となる西洋近代の教育思想を学んでいきます。あわせて、今日の教育をめぐる諸問題を乗り越えていけるような新たな教育思想のあり方を探っていききたいと思います。

講義の内容・ 授業スケジュール

- ①近代教育思想の特徴…18世紀の啓蒙思想、19世紀後半から20世紀にかけて発展をみる教育学や発達論など、近代社会・国家の成立と手を携えて近代学校制度を生み出したもののうち、代表的なものを取り上げて検討します。
- ②近代教育思想の再考…今日の不登校や学級崩壊などの現象は、近代学校システムが機能不全になりつつあることを暗示していますが、それはまた近代教育思想の行き詰まりを意味しています。そこで近代教育思想から何を受け取り、何を変革しなくてはならないのかを探るために、近代では周辺のだった教育思想や実践を検討します。

履修上の留意点

この科目は教養教育科目ですが、同時に教職の専門科目でもあります。教育に関心をもつ人の参加を期待します。

成績評価の方法

出席状況とレポートによって評価します。

教科書

J, デューイ『学校と社会』(岩波文庫)

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育の思想 (前期)	いとうしげき樹 伊藤茂樹	教職2必(地理・歴史・社会・福祉・ 心理・経A・法A・政治・経営A)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

私たちが今日知っている学校教育という営みは、近代という時代の到来とともに出現した制度であり、また近代社会を成り立たせる不可欠の制度でもある。この「公教育」のバックボーンとなった思想、歴史的経緯、その特色や社会的帰納について概観し、今日の教育やそれが直面する諸問題について考えるための手がかりを探索する。

講義の内容・ 授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。

- ・近代社会と教育
- ・学校という場

履修上の留意点

自分が通ってきた学校やそこで受けてきた教育について、批判的に再考する姿勢を求める。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育の思想 (前期)	萩原 けんじろう 建次郎	教職2必(英米文・ 福祉・心理・経A・商)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

この授業を通し、「私」とのかかわりにおいて「学ぶこと」「生きること」をとらえ直す機会をもちたい。そのために自らの学校教育体験を、人間形成の大きな流れ、ライフサイクルという視座から問い直すこと。そこから、自らの学校教育体験に依拠しながら暗黙のうちに意味付けてしまっている「教育」や「学習」について相対化する視点と感性を養いたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①学習体験をふりかえる－「学び」のマップづくり
- ②人間形成のプロセスをふりかえる1－私のライフライン
- ③人間形成のプロセスをふりかえる2－「学び」の自分史
- ④人間形成のプロセスを考える－ライフサイクル論の検討
- ⑤人間形成に関わる「重要な他者」を考える－子育てエージェントの歴史と現状
- ⑥あらためて私・学校・教育・学習を考える

履修上の留意点

この授業は講義だけではなく、受講者自身の作業が多く含まれる参加型学習である。よって授業への積極的な参加姿勢が求められる。小レポートを毎回提出してもらおう。

成績評価の方法

小レポート、作品の提出状況、授業への参加度、学期末レポートを総合して評価する。

教科書

とくに使用しない。

参考書等

そのつど紹介する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 の 思 想 (前期)	さか もと のが あき 坂 本 信 昭	教職2必(商・ 法A・政治・経営A)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

民主主義的教育思想はルソー、ペスタロッチ、フレーベル、エレン・ケイ、デューイなど多くの思想家によって生み出され、継承されて今日に至り、教育思想と実践の面で多様な展開を示した。

20世紀の教育思想を生み出し、継承することに貢献した思想家たちの教育思想・教育目的を概観することを手初めに、次のようなテーマを取り上げて進める。

講義の内容・ 授業スケジュール

- ・教育の理想と目的
- ・わが国の教育目的の変遷
- ・現代・社会の変化と教育目的
- ・その他(大村はま、林竹二などから学ぶものは何か)

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

課題レポート、自主レポート、試験、出席等により総合的に評価する。

教 科 書

西村絢子他著『現代教育を考える』(昭和堂)2,600円

参 考 書 等

デューイ著『学校と社会』(岩波文庫)410円
林竹二・灰谷健次郎『教えることと学ぶこと』(小学館)460円

そ の 他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育と社会 (後期)	とよ た ちよこ 豊田千代子	教職2必 (禪・仏教・国文)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

教育と社会とは、相互に緊密な関係にある。教育は社会のあり方に影響を受けるとともに、社会にも影響を及ぼしている。したがって、教育を考える場合、それを社会と切り離して考えることはできず、社会の中での教育・教育の中にみられる社会という視点からの検討が不可欠であろう。授業では、現代における教育の諸問題を総合的にとらえる力を形成するために、このような視点を養うことをめざしたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ・学習体験のふり返り
自分たちが受けてきた教育をふり返り、その中でみえてきた教育のさまざまな問題を、社会の歴史や構造等との関連で検討する。
- ・教育と人権
障害者、女性、在日外国人、義務教育未修了者などの教育に焦点を当て、それらの教育と社会との関係を考える。

成績評価の方法

出席点、レポート等により成績評価を行なう。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

適宜紹介する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育と社会 (後期)	また むら かつ こ 北村三子	教職2必(禪・仏教・ 国文・英文文・地理・歴史)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

教育のあり方と社会のあり方との間には密接な関係がありますが、本講義では、とりわけ、近代社会と教育との関係を中心に考察してゆきます。今まで体験してきた学校教育をもう少し広い視野から捉えなおし、自分達がどのように社会的に形成されてきたのかを改めて考えてみたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

- ①近代学校システムの特質……近代学校システムの成立とその特徴について論じます。
- ②近代学校システムを越えて……教育に関する具体的な問題を通して近代学校システムの矛盾について考察し、今後の教育のありかたを探ります。

履修上の留意点

この科目は教養教育科目ですが、同時に教職の専門科目でもあります。教育に関心をもつ人の参加を期待します。

成績評価の方法

出席状況とレポートにより評価します。

参考書等

教場で指示

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 と 社 会 (後期)	伊 藤 茂 樹 <small>いとう しげき</small>	教職2必(地理・歴史・社会・福祉・ 心理・経A・法A・政治・経営A)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

学校教育という営みは社会のあり方や他の諸領域に広く影響されると同時に、社会に影響を及ぼす関係にある。また一方で、学校という場もひとつの社会を形成している。こうした観点から、現代社会における学校教育が直面している諸問題や、これからの時代に学校教育が向かおうとしている方向性について、多面的に考えていく。

講義の内容・
授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。

- ・現代の教育問題
- ・教育改革の現在

履修上の留意点

ふだんから教育に関するニュースに気をつけ、自分なりに考えることを心がける。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教 科 書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

そ の 他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 と 社 会 (後期)	ほま わら けん じろう 萩 原 建次郎	教職2必(英米文・ 福祉・心理・経A・商)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

80年代半ばから不登校問題とともに「居場所」という言葉がマスコミに登場したが、いまや教育学、心理学、社会学においてもキーワードになっている。居場所の喪失感が静かに広がる中で、私たちはそこにどのような人間の姿、世界の在り様を感じるのだろうか。

この授業ではまず、子どもの自己形成空間と若者の文化変容、大人と子ども・若者の関係性の変容を読み解きながら、「居場所」が何において生まれ、何において失うのかを探っていく。次に「居場所」となりうる場のデザインを目指した具体的な方法論はあるのか、子ども・若者の居場所にかかわるいくつかの実践を手がかりに検討し、教育の可能性を考えていく。

この授業を通して、「居場所」を切り口として今いる自分を見つめなおしながら、他者(子ども・友人・親・先生など)とのかかわりの質を問い直し、さまざまな場面での教育実践に応用していける視点と感性を養ってもらいたいと願っている。

講義の内容・ 授業スケジュール

- ①「居場所」をめぐる言説の登場
- ②「居場所」の意味を読み解く
- ③子ども・若者の自己形成空間の変容
- ④子ども・若者の居場所空間をデザインする
- ⑤「居場所」に関わる指導者論
- ⑥「居場所」と子どもの参加論

履修上の留意点

授業はできるだけ参加型学習をとりいれたいので、積極的な姿勢が求められる。小レポートを毎回提出してもらおう。

成績評価の方法

小レポート、出席状況、授業への参加度、学期末レポートを総合して判断する。

教 科 書

田中治彦編著『子ども・若者の「居場所」の構想－「教育」から「関わり」の場へ－』(学陽書房) 3,000円

参 考 書 等

久田邦明編著『子ども・若者の居場所』(萌文社)
ロジャー・ハート著『子どもの参画』(萌文社)

そ の 他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育と社会 (後期)	さか もと のぶ あき 坂 本 信 昭	教職2必(商・ 法A・政治・経営A)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい 人間の社会に余暇をもつ少数の人々が生まれたときに学校は生まれた。いわば余暇とともに学校は生まれたのである。もし余暇がすべての人々のものとなる時、それは、社会そのものが全体として学習と教育の場所、つまり学校になるときであるかも知れない。

講義の内容・授業スケジュール 講義で取り上げるテーマとしては、次のようなものを考えている。

- ・学校教育のあゆみ
- ・学校の社会的機能
- ・学校教育の現実と課題
- ・その他(教師論集)

履修上の留意点 授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法 課題レポート、自主レポート、試験、出席等により総合的に評価する。

教科書 西村絢子他著『現代教育を考える』(昭和堂)2,600円

参考書等 デューイ著『学校と社会』(岩波文庫)410円

その他 この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	担当者名	配当学科	単位
発達と学習の心理学 (前期)	おお はま きく こ 大 浜 幾 久 子	教職2必(商・国・英・文・ 経A・商・法A・政治・経営A)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい 子どもが大人になる過程を20世紀の心理学は、どのようにとりあげ、また解明しようとしてきたのだろうか。他の諸学問分野が心理学の成立に果たしてきた役割にも言及しつつ、次のような基本的な問題をめぐる諸研究を学んでいく。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 発達と学習は、どのように定義され、また両者の関係はどのように説明されるのか。
- 2) 知能の発達と情意の発達は、どのような関係にあるのか。
- 3) 障害をも含む発達および学習における個人差を、どのようにとりあげ得るのか。

成績評価の方法 リポート提出を中心とした評価の予定である。

教科書 参考資料等については、必要に応じて準備、指示していく。

その他 この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。
この科目は、平成11年度までに「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
発達と学習の心理学 (前期)	かわ だ みつ お 川 田 三 夫	教職2必(経A・商・ 法A・政治・経営A)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

- 1) 子供の成長・発達の概要を理解する。
- 2) 学習心理学の基本的な事項を理解する。
- 3) 発達に影響を与える広義の環境の問題について考える。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) ガイダンス、発達や学習をめぐる現状と問題点
- 2) 発達や学習の理論、乳児期・幼児期の発達の特徴と留意点
- 3) 児童期の発達の特徴と留意点
- 4) 青年期の発達の特徴と留意点
- 5) 青年後期・成人期の発達の特徴と留意点
- 6) 人格の発達と問題点
- 7) 社会性の発達と問題点
- 8) 情緒や性意識の発達と問題点
- 9) 交友・対人関係の発達と問題点
- 10) 若者文化や社会風俗の歴史的変遷と現状の問題点
- 11) 青少年の非行等の問題行動
- 12) 人格障害、情緒障害、神経症的な問題行動等
- 13) 学校生活をめぐる諸問題
- 14) 試験

履修上の留意点

- 1) 教科書は指定せずレジメ、資料等を配布し講義を行う。
- 2) 板書を少なくして、学生自身がノートを取るようになっている。
- 3) 日頃から努力して言葉や文章力を高めてほしいと思っている。

成績評価の方法

- 1) 学期末に定期試験を行う。
- 2) それ以外にも不定期に小試験(論述、レポート)を行うことがある。
- 3) 授業の際に口頭試問や提出物もあり、評価の際に考慮される。
- 4) 以上の合計得点で所定の基準に従い評価される。

教 科 書

『よくわかる発達と学習』(福村書店) 2,400円

参 考 書 等

参考文献は授業中に適宜紹介する。

そ の 他

- 1) 授業の方法は講義が中心だが、毎回何らかの形でいろいろ質問される。
- 2) 現実を見聞しながら色々なことを考えてほしいと思っている。
- 3) この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。
この科目は、平成11年度までに「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
発達と学習の心理学 (前期)	やまもと まさと 山 本 政 人	教職2必(地理・歴史・社会・福祉・ 心理・経A・商・法A・税理・経営A)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

児童・生徒の発達と学習のメカニズム、およびそれらへの援助、指導のあり方について、教育心理学の見地から概説する。

講義の内容・ 授業スケジュール

- ①発達とは何か
- ②発達の要因
- ③発達理論
- ④人格発達
- ⑤認知発達
- ⑥学習理論
- ⑦学習の要因
- ⑧発達と学習
- ⑨発達と教育
- ⑩発達・学習と臨床

履修上の留意点

不定期に小レポートを課すことがある。

成績評価の方法

学期末試験の成績に小レポートの成績を加味して行う。

そ の 他

講義形式で行う。教科書は指定しない。参考書は授業で紹介する。授業で資料を配布することがある。

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
発達と学習の心理学 (前期)	すみの ぜん じ 角 野 善 司	教職2必(特・仏・欧・英・米・ 独・法・中・韓・日・露・阿・西) 地理・歴史・倫理・保健・体育・音楽・美術・ 情報・英語・社会・総合・心理	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

教育心理学は、教育現場に対して心理学的にアプローチする学問であり、教師が、生徒を理解し、効果的な教育を行うためにはどうしたらよいかを、多様な観点から心理学的に考えようとするものです。この科目では、教育心理学の中でも、特に発達と学習に焦点を当てていきます。講義を通じて学び、考えたことを、生徒と接する際のヒントにしてほしいと願っています。

講義の内容・
授業スケジュール

- (1)教育心理学とは (2・3)発達観の変遷 (4・5)発達の規定因 (6)教育の最適期
(7)発達段階と発達課題 (8)学習への動機づけ (9)内発的動機づけ (10)学習性無力感
(11)原因帰属 (12)学習目標と遂行目標 (13・14)補遺

履修上の留意点

この科目は、教職課程の科目として開講されます。白らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回出席するのはもちろんのこと、授業を聴きながら考えるという主体的な態度で臨んでください。また、教養教育科目として履修する学生にも同様のことを要求します。他の教養教育科目以上に単位の取得は困難だと思いますので、それを承知の上で受講してください。

成績評価の方法

免許・資格の取得に関連する科目なので、単位認定の基準を甘くするわけにはいきません。成績評価は、毎回の授業で行う小テスト・課題提出状況・学期末テスト・学期末レポートの4つに基づいて行う予定です。小テストは、その日の授業で取り上げた内容に関する問題を出題して、全問正解した場合に限り合格とします。合格した回数が授業回数の半分以下ならば、学期末テストの受験、レポートの提出を認めず、単位は付与しません。

教 科 書

使用しません。講義は、図表などを載せた資料プリントを活用して進めます。

参 考 書 等

講義の進行に合わせて、適時紹介します。

そ の 他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
カリキュラムと学習 (後期)	おお しま きく こ 大 浜 幾 久 子	12以降入学生/教職2必 (特・仏・英・国・米・独・法・中・韓・日・露・阿・西) 経A・商・法A・政治・経営A)	2

※経B・法B・営Bも履修できます。

講義のねらい

はじめに、学生自身が学んできた小学校、中学校、高等学校における教育課程がどのように編成されていたのかを、当該の学習指導要領により考える。次に、現行の新しい教育課程を学び、その背景にある基本的考え方について考察していく。とくに教科・科目等の具体的内容の削減や再編については、子どもの発達と学習の観点からの考察を深めたい。さらに、諸外国における学習課程の歴史や編成原理について、異文化間教育学的な観点から検討を試みる。その際、潜在的カリキュラムにも注目することとする。

成績評価の方法

レポート提出を中心とした評価の予定である。

参 考 書 等

『(小学校・中学校・高等学校)学習指導要領』文部科学省
その他の参考資料については、必要に応じて準備、指示していく。

そ の 他

前期に、「発達と学習の心理学」を履修することを原則とします。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
カリキュラムと学習 (後期)	かわ だ みつ お 夫 川 田 三 夫	12以降入学生/教職2必 (経A・商・法A・政治・経営A)	2

※経B・法B・営Bも履修できます。

講義のねらい

- 1) 教授－学習過程に関わる基本的な事項を学習する。
- 2) 教育目標、教育課程を中心に学習活動の効果的な展開について考える。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) ガイダンス、発達と学習（教育）をめぐる現状と問題点
- 2) 発達と学習
- 3) 学習理論の基本と応用
- 4) 教育(学)・教育心理学の基本と応用
- 5) 教育理論や方法の歴史の変遷、現状と課題
- 6) 教育目標
- 7) 教育課程（学校教育の基本について）
- 8) 教授－学習過程（学習指導、学級集団、生徒指導）
- 9) 教育評価の歴史の変遷、現状と課題
- 10) 学習指導要領（改訂の歴史、『学校教育法』、『学校教育法施行規則』等）
- 11) 総合的学習、職業教育、生涯学習、障害児教育
- 12) 学校、教師、生徒の諸問題（授業時間、教科書、教科書検定、等）
- 13) その他（教員養成、教員採用の問題、教育制度・教育行政等の問題、等）
- 14) 試験

履修上の留意点

- 1) 教科書は指定せずレジメ、資料等を配布し講義を行う。
- 2) 板書を少なくして、学生自身がノートを取るようにさせている。
- 3) 日頃から努力して言葉や文章力を高めてほしいと思っている。

成績評価の方法

- 1) 学期末に定期試験を行う。
- 2) それ以外にも不定期に小試験（論述、レポート）を行うことがある。
- 3) 授業の際に口頭試問や提出物もあり、評価の際に考慮される。
- 4) 以上の合計得点で所定の基準に従い評価される。

教 科 書

『よくわかる発達と学習』（福村書店）2,400円

参 考 書 等

参考文献は授業中に適宜紹介する。

そ の 他

- 1) 授業の方法は講義が中心だが、毎回何らかの形でいろいろ質問される。
- 2) 現実を見聞しながら色々なことを考えてほしいと思っている。
前期に、「発達と学習の心理学」を履修することを原則とします。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
カリキュラムと学習 (後期)	なつ ぼり 夏 堀 ちか 睦	12以降入学生/教職2必 (地理・歴史・社会・福祉・心理・ 経A・商・法A・政治・経営A)	2

※経B・法B・営Bも履修できます。

講義のねらい

今日、教育実践のなかで相対評価から絶対評価への移行や総合学習の導入に伴い、教育評価の問題が重要となってきました。教育心理学の領域では、これまでにさまざまなテスト開発や教育実践の分析を通じて、教育評価の問題にアプローチがなされてきました。

この講義では、過去の教育評価の知見を紹介するとともに、児童期の発達の特徴と重ね合わせながら、子どもの教育評価の問題を考えていきます。そして、児童への評価の方法とともに、授業分析および授業評価の方法、教師の自己評価の問題も取りあげます。具体的には、まず児童期の発達の特徴をさまざまな発達理論から概観します。第二に、形成的評価、到達度評価等これまでの教育評価の方法と問題点、また評価の心理的影響についての知見を紹介します。第三に、授業分析と授業評価に関する方法論と教師の自己評価について、さまざまな研究から得られた知見を紹介します。最後に、最近創造活動に関わる分野で注目されているポートフォリオ評価の内容と実践例について検討します。

講義の内容・ 授業スケジュール

①児童期の発達の特徴と評価内容 ②児童と学校文化 ③評価の心理的影響 ④教育評価の方法論 ⑤ポートフォリオ評価の内容 ⑥ポートフォリオ評価に基づく実践

履修上の留意点

実践案を考えてもらう課題を出します。書籍、雑誌、テレビ等で具体的な教育実践が紹介されていると思いますので、積極的に実践例を収集しておいてください。

成績評価の方法

出席点、レポートによる総合評価。

教 科 書

特に指定しません。

参 考 書 等

梶田叡一『教育評価【第2版補訂版】』（有斐閣双書）
B. D. シャクリー/N. バーバー/R. アンブローズ/S. ハンズフォード著 田中耕治 監訳
『ポートフォリオをデザインする—教育評価への新しい挑戦—』（ミネルヴァ書房）

そ の 他

パワーポイントを使い、講義形式で行います。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
カリキュラムと学習 (後期)	すみの ぜんの 角 野 善 司	12以降入学生/教職2必 (禅・仏教・国文・英米文・ 地理・歴史・社会・福祉・心理)	2

※経B・法B・営Bも履修できます。

講義のねらい

この科目では、カリキュラムの編成・実施を中心テーマとして取り上げ、それが生徒の学習をどう規定し、どう導いていくかを検討していきます。これからの教育がどのようなカリキュラムで行われていくべきかを、各自考えてほしいと願っています。

講義の内容・ 授業スケジュール

(1)カリキュラム(教育課程)とは (2)カリキュラムに関する法制 (3)カリキュラム編成の原則 (4)学習指導要領改訂の歴史 (5・7)平成10年(11年)学習指導要領改訂の経緯と基本方針 (8・10)平成15年学習指導要領改訂の経緯と基本方針 (11・12)平成15年改訂学習指導要領の下での教育評価 (13・14)補遺

履修上の留意点

この科目は、教職課程の科目として開講されます。自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回出席するのはもちろんのこと、授業を聴きながら考えるという主体的な態度で臨んでください。また、教養教育科目として履修する学生にも同様のことを要求します。他の教養教育科目以上に単位の取得は困難だと思しますので、それを承知の上で受講してください。

成績評価の方法

免許・資格の取得に関連する科目なので、単位認定の基準を甘くするわけにはいきません。成績評価は、毎回の授業で行う小テスト・課題提出状況・学期末テスト・学期末レポートの4つに基づいて行う予定です。小テストは、その日の授業で取り上げた内容に関する問題を出題して、全問正解した場合に限り合格とします。合格した回数が授業回数の半分以下ならば、学期末テストの受験、レポートの提出を認めず、単位は付与しません。

教 科 書

開講時に指示します。講義は、図表などを載せた資料プリントも活用して進めます。

参 考 書 等

講義の進行に合わせて、適時紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育とメディア (前期)(後期)	小倉 康 仁 <small>くら やす よし</small>	教職・保健・福祉・国文・英検・ 地理・歴史・社会・心理	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

近年のコンピュータの利用形態と社会的位置づけの変化を背景として、教育分野におけるコンピュータ活用形態も大幅に変化してきている。そこでこの授業のねらいは、次の二つとする。

1. 教育分野におけるコンピュータの様々な利用形態を概観し、メディアとしてのコンピュータの活用方法について、教育学(教育方法論)の視点から理論的に考察する。
2. 問題解決思考および思考表現のツール(メディア)としてコンピュータを利用してみる。

講義の内容・ 授業スケジュール

授業は常にコンピュータ教室で行ない、講義と実習を適宜組み合わせることで授業を進める。実習部分の授業内容として、具体的には以下の事項を予定している。(なお実習授業の進行速度はパソコン初心者でも付いて来られるように配慮するつもりである。)

表計算ソフト EXCEL によるデータ整理・集計・分析、およびシミュレーション
インターネット(WWW)上での情報検索・収集—リンク集や検索エンジンの使い方など—
プレゼンテーションソフトの機能と基本操作

履修上の留意点

授業時間外での学習課題を課すので、情報センターの自習室を利用して遂行すること。

成績評価の方法

平常点(出席、学習態度、提出物など)と期末試験(ペーパーテスト)との総合点によって、成績評価を行なう。

教科書

教科書は使用せず、配布プリント等を利用して授業を進める予定である。

参考書等

参考書等については、そのつど授業時間内で指示する。

その他

コンピュータ教室の収容人員の制約から履修者数の調整をする(履修時期を変更してもらう)場合があるので、前期履修あるいは後期履修を問わず履修希望者は必ず前期の第1回目授業に出席してエントリーシートに登録すること。当日やむを得ない事情で出席できない人は、知人友人等に登録を委託すること。

この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 と メ デ ィ ア (前期)(後期)	いし ばし たつ や 石 橋 達 也	教職2・3必(全学科) 営B(11以前入学生)除く	2

講義のねらい

本授業では、情報化が著しく進展していく今日の社会的状況における、新たな教育の在り方について学んでいきます。毎回の授業の前半では、学校教育における情報メディアの利用形態について、その現状を眺めて今後の課題を探っていきます。続いて後半では、インターネットを含めたコンピュータ操作の実習を行ない、コンピュータの利用の優れた特徴と問題点を理解します。その上で、情報メディア活用の教育実践に必要な操作能力の習得を目指すとともに、教師としての役割や姿勢についても検討していく予定です。

講義の内容・授業スケジュール

授業の講義内容としては、以下に示すテーマに沿って進めていく予定です。

- ・教育の情報化の現状と課題
- ・新たな授業と学習の形態
- ・小中高の学校現場での取り組みの現状
- ・外国における教育の情報化の現状
- ・インターネット利用の影響
- ・情報メディアリテラシーの意義、など。

履修上の留意点

履修する学生には、この授業が教職を目指す上で必要な科目であることを自覚した上で、毎回まじめに出席して授業に意欲的に取り組むことを期待します。

成績評価の方法

成績の評価は期末試験の得点を中心にして、毎回の授業への出席状況や参加態度などの平常点を加味して行ないます。

教科書

使用する教科書については、初回の授業の中で伝える予定です。

参考書等

授業の中で必要に応じて、参考文献・関連資料・ビデオ映像などを紹介していく予定です。

その他

授業の中で、毎回コンピュータを使用する実習の時間があります。初歩的なレベルから始めていきますが、受講学生は「学ぶ意欲」をもって積極的に取り組んでいくことが求められます。この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 と メ デ ィ ア (前期)(後期)	しげ さき じゅん し 芝 崎 順 司	教職2・3必(全学科) 営B(11以前入学生)除く	2

講義のねらい

本講義は、マルチメディア・ネットワーク時代の学校教育・社会教育等教育活動の担い手として、さらには、生涯学習者として、必須と思われる各種のリテラシー（知識・技能・態度）を修得する目的や方法論について検討することを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 メディアの歴史を概観し、現状、および将来の展望について検討する。
- 2 学校教育・社会教育におけるマルチメディア・ネットワーク利用の目的・方法について具体的に検討する。
- 3 マルチメディア・ネットワークに対応する各種のリテラシーについて、主として、欧米の先行的事例を紹介し、かつ、検討する。
- 4 マルチメディア・ネットワークワークリテラシープログラムを具体的に体験し、自己の情報リテラシーを高めるとともに、その目的や方法論について検討する。

履修上の留意点

コンピュータや各種の映像機器を活用した講義や実習を多く取り入れる。現在進行中の内容を扱うため、問題提起にならざるをえない内容も多く含む。授業への積極的参加を期待する。

成績評価の方法

出席重視。評価は小レポートと最終レポートを総合的に評価しておく。

教 科 書

授業中に紹介する。

参 考 書 等

必要に応じて、授業中に紹介する。

そ の 他

コンピュータや各種の映像機器を活用した講義や実習を中心とする。
この科目は、平成11年度までに、「教育心理学（教育方法論を含む）」あるいは「青年心理学（教育方法論を含む）」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
道 徳 教 育 の 研 究 (前 期)	みじきあつのり 藤 木 篤 典	教職2・3必 (地理・歴史・経A・商)	2

※経B・法B・営B（12年度以降入学生）も履修できます。

講義のねらい

21世紀は「心の世紀」といわれているが、教育現場をはじめ「いじめ」などの不適切な現象がみられ、社会問題となっている。

学校教育では、社会生活の中で、主体的に自己実現をはかる「生きる力」の育成が課せられている。

授業では、学習指導要領の「道徳」の趣旨にもとづき、道徳教育の内容・在り方や、指導力を身につけ、学習指導案の作成、指導方法などについて基本的課題を研究する。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 道徳教育の意義と歴史
- 2 道徳教育の変遷
- 3 「道徳」の目標・内容と教材について
- 4 「道徳」の指導案の作成①
- 5 「道徳」の指導案の作成②
- 6 「道徳」の模擬授業
- 7 「道徳」教育の問題点
- 8 特別活動と道徳教育
- 9 道徳の評価
- 10 道徳教育の問題点と今後の課題

履修上の留意点

指導案の作成をはじめ、積極的に広い視野を養い、指導力を身につけてほしい。

成績評価の方法

定期試験はしない。出席状況を重視し、レポート、学習指導案の作成等、総合的に評価する。

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領解説——道徳編——』（財務省印刷局）273円

参考書等

教師養成研究会『道徳教育の研究 新訂版』（学芸図書株式会社）1,000円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
道徳教育の研究(前期)	せき ね かず お 関 根 和 夫	教書2・3必 (国文・英文・法A・政治)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

この授業では、今日の教育における大きな課題として、教育課程に位置付けられている「道徳」の教育的意義や目標、内容及び指導方法等について講義をするものである。文献等に基づく理論的な研究だけでなく、レポート、学習指導案の作成、模擬授業の実施等を通して、現場における実践に役立つ指導力を身につけさせることをねらいとしている。

講義の内容・ 授業スケジュール

- ①道徳教育の本質と意義
- ②戦前と戦後の道徳教育の特色
- ③教育改革の動向と心の教育
- ④道徳の時間の指導内容
- ⑤道徳の時間の指導の実際—その1—
- ⑥道徳の時間の指導の実際—その2—
- ⑦道徳の時間の学習指導案の書き方
- ⑧道徳の時間の模擬授業の実施
- ⑨道徳の時間の授業展開における問題点
- ⑩道徳の時間の資料の開発と活用
- ⑪道徳教育の評価と道徳的实践力
- ⑫今後における道徳教育の課題と展望

履修上の留意点

授業においては、レポートの提出、ディベート、ロールプレイ、模擬授業の実施等学生諸君の出番があるので、それらに対して積極的に取り組んでほしい。

成績評価の方法

出席状況、レポート、授業における参加状況、学習指導案の提出等を総合的に判断して評価する。

教 科 書

小川一郎・中野目直明編著『新しい道徳教育』(酒井書店)〈第2版〉1,900円

参 考 書 等

七條正典編著『改訂・中学校学習指導要領の展開』・道徳編・(明治図書)1,480円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
道 徳 教 育 の 研 究 (前 期)	いの うえ まさる 井 上 勝	教職1・3・4選(社会・福祉・保健A) 教職2・3・4選(心理)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

今日の学校教育の課題は「生きる力」をもった生徒の育成であり、その要となるのが「心の教育」、道徳教育である。道徳の時間は学級担任が担当するものであり、道徳教育の指導理論・方法を習得することはすべての教員にとって不可欠のことである。

本講座では、学習指導要領に基づいて道徳教育の基本的な理論・方法について理解するとともに、道徳の時間の学習指導案を作成し、道徳の授業を担当できる実践的な指導力を養成することをねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1, 「生きる力」の育成と道徳教育(1) | 5, 道徳の授業の基礎理論(1) |
| 2, 戦前の道徳教育とその問題点(1) | 6, 道徳資料の内容分析と学習指導案(2) |
| 3, 戦後の道徳教育とその課題(1) | 7, 学習指導案の作成(5) |
| 4, 学習指導要領と道徳教育(1) | 8, 道徳教育の評価、他の教育活動との関連 |

履修上の留意点

道徳教育の基礎理論を学ぶと同時に、学習指導案の作成に重点を置き、直ちに「道徳の時間」の授業を担当できる指導力の養成をねらいとするので、授業への能動的な参加を望む。

成績評価の方法

授業中に提出する学習指導案、レポート、出席状況等で総合的に評価する。

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領解説——道徳編——』(財務省印刷局)260円

参考書等

金井肇『道徳授業の基本構造理論』(明治図書)2,000円

その他

可能ならば、各自作成した学習指導案で模擬授業を実施したい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
特 別 活 動 (後期)	ふじ 藤 木 篤 典	教職2・3必 (地理・歴史・経A・商)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

特別活動は、知育のみを重視せず、バランスのとれた豊かな人間性を育くむ徳育を目指している。

「いじめ」や不登校の問題をはじめ、国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題への関心の高まり、高齢化・少子化のもと、集団活動をとおして、好ましい人間関係を築き、個人の自覚と責任ある態度を身につけることを目的としている。

特別活動の内容、指導原理、指導計画・方法について学び、実践的な指導力を養成することを目的とする。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1 特別活動の意義・目的、ガイダンスについて
- 2 特別活動の歴史の変遷
- 3 特別活動の内容と他教科との関連
- 4 学級活動
- 5 生徒会活動
- 6 学校行事の意義と活用
- 7 ホームルーム活動
- 8 クラブ活動・部活動
- 9 ボランティア活動と地域との連携
- 10 特別活動の評価、課題と展望

履修上の留意点

特別活動の役割と内容を理解し、指導計画の作成や、指導内容・方法などについて、実践的な指導力を身につけてほしい。

成績評価の方法

試験、出席状況、指導案作成、レポート等を総合的に判断し、評価する。

教 科 書

文部科学省『中学校学習指導要領解説——特別活動編——』(財務省印刷局) 70円
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説——特別活動編——』(東山書房) 126円

参 考 書 等

教師養成研究会 教職課程講座6『特別活動の理論と方法——改訂版——』江川孜成編(学芸図書株式会社) 1,260円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
特 別 活 動 (後期)	せき ね かず お 関 根 和 夫	教職2・3必 (国文・英数・法A・政治)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

特別活動が人間形成に果たす役割は極めて大きい。とりわけ「ゆとり」の中で「生きる力」を育むためには、特別活動の果たす役割は重要である。

この授業では、「特別活動」の特質や、教育的意義、目標、内容及び指導方法等について、理論と実践の両面から講義するものである。

「為すことによって学ぶ」といわれる特別活動は、特に実践的な面が重要であるので、活動内容や指導方法等に具体的な資料を活用して、教師としての実践的な指導力を身につけさせることをねらいとしている。

講義の内容・ 授業スケジュール

- ①特別活動とは何か…特質と教育的意義…
- ②特別活動の歴史の変遷
- ③特別活動の内容
- ④学級(ホームルーム)活動の特質と内容
- ⑤学級(ホームルーム)活動の指導の実際
- ⑥生徒会活動とクラブ・部活動の指導
- ⑦学校行事の特質と活動内容
- ⑧特別活動の指導計画の作成
- ⑨特別活動とボランティア活動
- ⑩特別活動と総合的な学習の時間
- ⑪生徒指導の諸課題と特別活動(不登校、いじめ、教育相談等)
- ⑫特別活動の評価と今後の課題と展望

履修上の留意点

特別活動における実践的な指導力を身につけるために、授業における意見発表、課題レポートの提出等の積極的な参加を期待している。

成績評価の方法

試験、レポート、学習指導案の提出、及び出席状況等を総合的に判断して評価する。

教 科 書

小川一郎・中野日直明編著『現代の特別活動』(酒井書店)2,000円

参 考 書 等

講義以外は、特に必要としない。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
特 別 活 動 (後 期)	井 上 勝 <small>いの うえ まさる</small>	教職2・3必(禅・仏教・ 社会・福祉・心理・経営A)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

特別活動とは、学校での集団活動を通して生徒の個性の伸張と社会的資質の育成をねらいとする活動であり、具体的には学級活動、学校行事、修学旅行などである。特別活動の指導は、教科指導以外のほとんどの領域を含んでおり、このため、その指導は学級担任の主要な職務と重なるものである。

本講座では、特別活動の基礎理論を理解するとともに、受講者の小・中・高校での学校生活の positive な体験を事例として取り上げ、事例研究を中心として具体的な指導の考え方や方法を理解し、学級担任として必要な実践的な指導力を身に付けることをねらいとする。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 特別活動の意義と内容(2)
2. 学級活動の役割と内容(2)
3. 生徒会活動の役割と内容(2)
4. 学校行事の役割と内容(2)
5. クラブ活動・部活動の役割と指導(2)
6. 特別活動と生徒指導、教育相談(1)
7. 特別活動とガイダンス(1)
8. 特別活動の評価(1)

履修上の留意点

受講者の小・中・高校での特別活動に関する positive な体験を事例とする事例研究を中心に授業を行うので、発表、討論などへの積極的な参加を要望する。

成績評価の方法

授業中に提出するレポート、学習指導案、出席状況等で総合的に評価する。

教 科 書

文部科学省『中学校学習指導要領解説——特別活動編——』(財務省印刷局 ぎょうせい) 70円
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説——特別活動編——』(財務省印刷局 東山書房) 120円

参 考 書 等

その都度、紹介する。

そ の 他

授業は、受講者による事例発表、討論形式の授業を中心に行う。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
生徒指導論 (進路指導を含む)(前期)	こみやま 小宮山 かなめ 要	教職2・3必(権・仏教・経A ・商・法A・政治・経営A)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

今日の学校現場には、「いじめ」「不登校」「校内暴力」「学級崩壊」等さまざまな問題が発生している。本講義ではこれらの問題を正しく理解し、適切に対応できる教師としての基礎的能力を身につけることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

本講義では生徒のいじめ問題に焦点を当てながら、生徒指導・生徒理解の理論と方法を下記のような流れに従って具体的に学習する。

- 1) 生徒指導の意義と課題
- 2) 生徒指導の原理
- 3) 生徒の問題行動の実態
- 4) 問題行動を理解するための理論と法則
- 5) 生徒の問題行動の発現メカニズムとその理解
- 6) 生徒の問題行動への対応と指導
- 7) 教師の生徒への係わり方と問題行動
- 8) 学校・家庭・関係機関との協力・連携

履修上の留意点

履修する学生は、教職志望者であることを念頭に置き、授業に積極的に参加することを希望する。

成績評価の方法

定期試験、レポート、出席等をもとに総合的に判断する。

教科書

小宮山要著『間違いだらけのいじめ指導』(明治図書) 1,800円

その他

この科目は、11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
生徒指導論 (進路指導を含む)(前期)	めらあきこ 目良秋子	教職2・3必(文学部全学科)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

生徒指導にはまず生徒を理解することが重要です。児童期・青年期は発達的に変化の大きい時期であり、生徒のもつ問題も個性を伴っているため、生徒理解が困難な場合があります。そこで、この授業では児童期・青年期において重要と思われる自己意識の発達とアイデンティティの達成というテーマから生徒理解を深めます。また、進路選択は青年期における重要な課題であるので、指導上留意すべき点について青年期の諸問題と合わせて講義を行う予定です。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 生徒指導論概説
2. 生徒理解について
 - ① 児童期・青年期の自己の発達
 - ② アイデンティティ達成と危機
3. 進路指導について
 - ① 進路選択からみた青年期の問題
 - ② 現代社会における職業選択と留意点
4. まとめ

成績評価の方法

試験の結果とレポート、および出席状況によって評価します。

教科書

授業に使用する資料を随時配布します。

その他

授業は講義形式ですが、必要に応じてビデオ教材等を用いる予定です。
この科目は、11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生 徒 指 導 論 (進路指導を含む)(前期)	さ とう なお ひと 佐 藤 尚 人	教職2・3必(地理・ 歴史・社会・福祉・心理)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

今日、様々な問題を抱える子どもを学校で教育するために、教師には教科学習についてはもちろん、様々な知識や技術が求められる。本講義では、子どもと触れ合う出発点と言える、『子どもの理解』を中心テーマとする。また、指導の際の具体的方法も考えていく。

履修上の留意点

講義の内容を覚えるだけでなく、自ら問題点を見つけ出し考える姿勢を求める。

成績評価の方法

原則として、筆記試験の点数で評価するが、授業への積極的な参加態度をプラスして最終的に成績をつける。

教 科 書

テキストは使用しない。

参 考 書 等

参考書等は適宜指示する。

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生 徒 指 導 論 (進路指導を含む)(前期)	えん どう つかさ 遠 藤 司	教職2・3必(国文・英・文・ 経A・商・法A・政治・経営A)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい

生徒指導、ならびに進路指導の名のもとに、現在の学校で様々な教育的営みが行われている。将来、教職に就くことを目指している人間として、生徒(他者)の生活面を指導することの意味を改めて問いなおし、無意識のうちに既にもっている自らの生徒指導観、ならびに進路指導観をとらえなおした上で、より豊かに深めていくことがこの授業の目的である。

講義の内容・
授業スケジュール

次のテーマを予定している。 1.「問題行動とは何か」という問いに関わる諸問題 2. 不登校、いじめ等の実際の事例を通しての実践的考察 3. 教師—生徒関係の中での生徒指導・進路指導の在り方、特に「指導」という概念のとらえ直し 4. 個の尊重と組織・集団活動との相克の中での生徒指導・進路指導

履修上の留意点

授業時に授業者によって発せられる様々な問いに対して、安易に他者に正解を求めるのではなく、自分の言葉で考えようとするを望む。特に、ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書いてもらう機会を作るが、それに対しては誠実に真剣に考え、自分の文章にすることを要求する。

成績評価の方法

学期末のレポートにより成績評価を行う。なお、授業への参加の仕方の積極度、授業時の提出物の内容等も成績評価に加味する場合もある。

教 科 書

特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生徒指導論 (進路指導を含む) (前期)	かわ ほう せい し 川 原 誠 司	教職2・3必(経A・商・ 法A・政治・経営A)	2

※経B・法B・営B(12年度以降入学生)も履修できます。

講義のねらい	生徒を指導するとはどういうことか、生徒指導を行っていく上で必要なことは何かを、主に教師の「心のありよう」という点を中心にして、心理学的に解明していくことを目的とする。
講義の内容・ 授業スケジュール	授業スケジュールについては初めの方の授業で述べる予定です。
履修上の留意点	一番最初の授業で受講人数を把握して、大まかなスケジュールを作成しますので、受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。いろいろな面で「自分で考えて動くこと」を授業の柱にしますので、そのことを念頭に置いて受講してください。
成績評価の方法	成績評価の形式は、受講人数や受講態度などによって変わるものなので、授業を進めていく中で決定しますが、試験を行う予定です。
教科書	教科書は授業中に指示します。
その他	授業の一部では、生徒指導に関する和文献や英文献をグループで発表してもらうこと、あるいは実技を行うことなども考えています。 この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教育臨床 (後期)	こ み や ま か な め 小宮山 要	12以降入学生/教職2・3必(経・ 仏・経A・商・法A・政治・経営A)	2

※経B・法B・営Bも履修できます。

講義のねらい	教育現場では「いじめ」「不登校」「校内暴力」「学級崩壊」をはじめ「無気力」「学習不振」等さまざまな問題を抱えている。本講義では、学校現場で何らかの援助を必要としている生徒たちに、どのように対処していくかという具体的な手法を身につける。
講義の内容・ 授業スケジュール	本講義では幅広い臨床心理学の考え方を柔軟に取り入れて、臨床指導の基本的考え方と方法について下記のような流れに従って学習する。 1) 心が病むとは何か 2) 生徒の問題行動の現状と理解(理解の基本的視座) 3) 犯罪少年はどこでどのように処遇されるか(司法との係わり、少年法) 4) 学校カウンセリングの諸問題 5) 指導(カウンセリング)の諸技法 6) 事例研究法 7) 父母面接の進め方
履修上の留意点	履修する学生は、教職志望者であることを念頭に置き、授業に積極的に参加することを希望する。
成績評価の方法	定期試験、レポート、出席等をもとに総合的に判断する。
教科書	使用しない。授業時に資料を配付して講義を行う。
参考書等	授業時に適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育臨床 (後期)	めらあきこ 目良秋子	12以降入学生/教職2・3必 (文学部全学科)	2

※経B・法B・営Bも履修できます。

講義のねらい

生徒の問題行動の背景にはさまざまな要因が考えられます。授業では生徒の心の問題をどのように理解したらよいかについてさまざまな方向から検討します。また、できるだけ具体的な事例を取り上げながら、その対応について考えていきたいと思ひます。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 教育臨床概要
2. 青少年の心の問題の捉え方
 - ①Loss (喪失) 体験
 - ②発達障害
 - ③精神疾患
 - ④現代家族の問題
3. 生徒の問題行動を具体的事例より検討する

成績評価の方法

試験の結果とレポート、および出席状況によって評価します。

教科書

授業に使用する資料を随時配布します。

その他

授業は講義形式とグループ討論・演習形式の両方法にて行う予定です。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育臨床 (後期)	さとうなおと 佐藤尚人	12以降入学生/教職2・3必 (地理・歴史・社会・福祉・心理)	2

※経B・法B・営Bも履修できます。

講義のねらい

不登校やいじめ、非行や学級崩壊など、具体的な子どもの問題行動を取りあげ、それについての理解と対応を考える。

履修上の留意点

課題を出し、授業では参加者による報告とディスカッションを行なう。

成績評価の方法

授業に出席するだけでは単位は認定しない。課題の報告とディスカッションへの参加を必須とする。試験は行わないが、最後にレポート課題を出し、日常の授業への参加の様子と合わせて成績評価をする。

教科書

テキストは使用しない。

参考書等

参考書等は適宜指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育臨床 (後期)	えん どう 遠 藤 司	12以降入学生/教職2・3必 (国文・英米文・経A・商・ 法A・政治・経営A)	2

※経B・法B・営Bも履修できます。

講義のねらい

心の教育が重視されている現在の教育現場において、カウンセリングに代表される、臨床心理学的視点をもつ教師の育成が求められている。この授業では、将来、教職に就くことを目指している人間がカウンセリングについて学ぶことの意味を考え、双方向の対話を基に教師-生徒関係を作ろうとしつつ、なおかつ指導する人間としての教師をも生きようとすることの意味を考えることを通して、自らの教師観をより豊かに深めていくことを目的とする。

講義の内容・ 授業スケジュール

次のテーマを予定している。 1. カウンセリングについて学ぶ 2. 教師としてカウンセリングを学ぶことの意味を考える 3. 教師-生徒関係をとらえ直し、特に指導することと理解することとの関係 4. 他者との対話的關係を生きることについて考える

履修上の留意点

授業時に授業者によって発せられる様々な問いに対して、安易に他者に正解を求めるのではなく、自分の言葉で考えようとすることを望む。特に、ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書いてもらう機会を作るが、それに対しては誠実に真剣に考え、自分の文章にすることを要求する。

成績評価の方法

学期末のレポートにより成績評価を行う。なお、授業への参加の仕方の積極度、授業時の提出物の内容等も成績評価に加味する場合もある。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育臨床 (後期)	かわ はら せい し 川 原 誠 司	12以降入学生/教職2・3必 (経A・商・法A・政治・経営A)	2

※経B・法B・営Bも履修できます。

講義のねらい

心理療法に関する英文献を読み、主たる4つの心理療法（精神分析、行動療法、認知療法、クライアント中心療法）の基本的な考え方や知識、治療方法が、学校という場所で子どもに接する場合にどのような形で援用できるかという、教師の仕事を行うにあたっての視点の広がりや深まりを獲得することを目的とする。

講義の内容・ 授業スケジュール

授業スケジュールについては初めの方の授業で述べる予定です。

履修上の留意点

一番最初の授業で受講人数を把握して、大まかなスケジュールを作成しますので、受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。最初に英文献の分担を決めますので、出席しなければ分担できなくなり、単位の取得に困難をきたします。いろいろな面で「自分で考えて動くこと」を授業の柱にしますので、そのことを念頭に置いて受講してください。

成績評価の方法

成績評価の形式は、受講人数や受講態度などによって変わるものなので、授業を進めていく中で決定しますが、試験を行う予定です。

教科書

教科書は授業中に指示します。

その他

グループでの活動・発表をしてもらいますので、他者と関係をとれる能力のある人、関係をとろうとする意欲のある人の参加を希望します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習(1) 〔障害児と教育〕(前期)	えん どう つかさ 遠 藤 司	12以降入学生/教職2・3必 (全学科)	2

講義のねらい

この授業の目的は、「総合的な学習の時間」の本質やその意義について理解し、本時間の運営のために必要な教師としての諸能力を養うことである。この授業では「障害児教育」に関わる様々な問題を取り上げ、現在の日本社会の抱える諸課題とも関連づけながら総合的に学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

前半は、「総合的な学習の時間」の目的、内容等について学び、この時間の中での教師の役割について考える。後半は、障害児教育の諸問題を取り上げ、参加者相互の討論等を行いながら、様々なテーマに基づき学びを深めていく。最終的には、「総合的な学習の時間」を実際に授業することを仮定し、年間計画を作成することを目標とする。

履修上の留意点

授業時に授業者によって発せられる様々な問いに対して、安易に他者に正解を求めるのではなく、自分の言葉で考えようとすることを望む。特に、ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書いてもらう機会を作るが、それに対しては誠実に真剣に考え、自分の文章にすることを要求する。

成績評価の方法

学期末のレポートにより成績評価を行う。なお、授業への参加の仕方の積極度、授業時の提出物の内容等も成績評価に加味する。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。

その他

「演習」という授業の性格上、履修者の人数を制限する場合がある。詳細については第一回の授業で説明し、履修者の決定を行うので、履修希望者は必ず出席すること。やむを得ない理由で出席できない者は、事前に必ず連絡をすること。事前に連絡なく第一回の授業を欠席した者は、履修は認められないので注意すること。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習(2) 〔障害児と福祉〕(後期)	えん どう つかさ 遠 藤 司	12以降入学生/教職2・3必 (全学科)	2

講義のねらい

この授業の目的は、「総合的な学習の時間」の本質やその意義について理解し、本時間の運営のために必要な教師としての諸能力を養うことである。この授業では「障害者福祉」に関わる様々な問題を取り上げ、現在の日本社会の抱える諸課題とも関連づけながら総合的に学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

前半は、「総合的な学習の時間」の目的、内容等について学び、この時間の中での教師の役割について考える。後半は、障害者福祉の諸問題を取り上げ、参加者相互の討論等を行いながら、様々なテーマに基づき学びを深めていく。最終的には、「総合的な学習の時間」を実際に授業することを仮定し、年間計画を作成することを目標とする。

履修上の留意点

授業時に授業者によって発せられる様々な問いに対して、安易に他者に正解を求めるのではなく、自分の言葉で考えようとすることを望む。特に、ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書いてもらう機会を作るが、それに対しては誠実に真剣に考え、自分の文章にすることを要求する。

成績評価の方法

学期末のレポートにより成績評価を行う。なお、授業への参加の仕方の積極度、授業時の提出物の内容等も成績評価に加味する。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。

その他

「演習」という授業の性格上、履修者の人数を制限する場合がある。詳細については第一回の授業で説明し、履修者の決定を行うので、履修希望者は必ず出席すること。やむを得ない理由で出席できない者は、事前に必ず連絡をすること。事前に連絡なく第一回の授業を欠席した者は、履修は認められないので注意すること。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習 (3) 〔環境教育〕(前期)	きたむらかずお夫 北村和夫	12以降入学生/教職2・3必 (全学科)	2

講義のねらい

環境問題がなぜ解決できないのかを考えるを通して、環境教育の独自の役割を理解する。

講義の内容・授業スケジュール

人間、社会、環境（自然）についての常識的な見方の問題点を考えるとともに、変革の方向を探る、ということを中心にする。したがって、暗記することよりも考えることを重視する。

履修上の留意点

全体の流れを理解する必要があるので、欠席しないこと。

成績評価の方法

試験

教科書

北村和夫『環境教育と学校の変革—ひとりの教師として何ができるか』
(農山漁村文化協会) 2000年 2,900円 (税込)

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習 (4) 〔近代社会と身体〕(後期)	きたむらかずお夫 北村和夫	12以降入学生/教職2・3必 (全学科)	2

講義のねらい

人間の体が実に良くできていることを知ると同時に、日常生活において、そうした体を十分に生かしているかどうかを考える。

講義の内容・授業スケジュール

脳神経科学、免疫学、ロボット工学その他において、身体観、ひいては人間観の変革を迫る研究が進んでいるので、それらを紹介しながら、一般的な身体観の見直しについて考える。

履修上の留意点

欠席しないこと

成績評価の方法

レポート

参考書等

毎時間、何冊か紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習 (5) 〔対人関係とストレス〕(前期)	かわはらせいし 川原誠司	12以降入学生/教職2・3必 (全学科)	2

講義のねらい

「ストレス」という言葉が日常頻繁に用いられているが、そのメカニズムについて考えることは少ない。本演習ではストレスの心理学的プロセスの詳細について学習し、自分自身のストレスのことを考え、学校現場でのストレスの実情を理解することを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

授業スケジュールについては初めの方の授業で述べる予定です。

履修上の留意点

一番最初の授業で受講人数を把握して、大まかなスケジュールを作成しますので、受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。いろいろな面で「自分で考えて動くこと」を授業の柱にしますので、そのことを念頭に置いて受講してください

成績評価の方法

成績評価の形式は、受講人数や受講態度などによって変わるものなので、授業を進めていく中で決定しますが試験を行う予定です。

教科書

教科書は授業中に指示します。

その他

ストレスに関する文献を毎週読んでもらい、それらに対してきちんと思考・批評してもらうことを考えています。

積極的に取り組み、考えてみようとする方の参加を希望します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習 (6) [学校における対人関係] (後期)	かわはらせいし 川原誠司	12以降入学生/教職2・3必 (全学科)	2

講義のねらい

教師の精神的健康について、生徒との関係、保護者との関係、同僚との関係など対人関係の側面を中心に、心理学的に考えていくことを目的とする。とりわけ、対人関係における支え合い（ソーシャル・サポート）の面を中心に考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

授業スケジュールについては初めの方の授業で述べる予定です。

履修上の留意点

一番最初の授業で受講人数を把握して、大まかなスケジュールを作成しますので、受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。いろいろな面で「自分で考えて動くこと」を授業の柱にしますので、そのことを念頭に置いて受講してください。

成績評価の方法

成績評価の形式は、受講人数や受講態度などによって変わるものなので、授業を進めていく中で決定しますが、試験を行う予定です。

教科書

教科書は授業中に指示します。

その他

教師の精神的健康に関する文献を毎週読んでもらい、それらに対してきちんと思考・批評してもらおうことを考えています。
積極的に取り組み、考えてみようとする方の参加を希望します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習 (7) [心の健康と教育] (前期)	のなかひろとし 野中弘敏	12以降入学生/教職2・3必 (全学科)	2

講義のねらい

心理的な背景に由来する困難からも、様々な症状を得たり日常生活の上で苦痛を感じ続けることがあります。心身のはげしい変化を遂げつつある子どもと関わり、その成長を支える存在としての教師にとって、それらの心理的な問題にまなざす意味は深いと考えます。本講義では、心理的困難を抱える人々への臨床心理学的援助の事例を通じて、これら困難の様相、またそこに生じた症状や苦痛の意味を当事者の経験に即して理解していく、という試みを、参力者と共に重ねていきます。

講義の内容・授業スケジュール

最初の講義で受講者を把握し、講義の内容と進め方をより詳しく説明します。各自の受講継続の判断のためにも必ず出席してください。

以後の数回は、事例を考察する際の基本となる知見や構えについてお話しします。並行して、続く事例報告の担当者・順番・日程等を参加者間で調整します。

その後の講義は、テキストに即した事例報告及び話し合いを中心に進めます。報告は全参加者が最低1回担当します。参加者は各回終了までに感想を書いて提出し、まとめられた感想は次の回全員にフィードバックされ、それにより事例へのアプローチを振り返ります。

履修上の留意点

テキストを予め熟読した上で参加すること。各自の経験を振り返りつつ、真摯に読み、聴きいること。

成績評価の方法

上記の留意点を踏まえて、出席の姿勢・講義時間内の感想を含めた平常点で評価します。

教科書

講義開始時に提示します。

参考書等

随時紹介します。

その他

参加人数によりますが、概ねいわゆるゼミ形式となります。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習(8) 〔心の援助と教育〕(後期)	野中弘敏 <small>の なか ひろ とし</small>	12以降入学生/教職2・3必 (全学科)	2

講義のねらい

心理的な背景に由来する困難からも、様々な症状を得たり日常生活の上で苦痛を感じ続けることがあります。心身のはげしい変化を遂げつつある子どもと関わり、その成長を支える存在としての教師にとって、それらの心理的な問題にまなざす意味は深いと考えます。本講義では、心理的困難を抱える人々への臨床心理学的援助の事例を通じて、これら困難の様相、またそこに生じた症状や苦痛の意味を当事者の経験に即して理解していく、という試みを、参加者と共に重ねていきます。

講義の内容・授業スケジュール

最初の講義で受講者を把握し、講義の内容と進め方をより詳しく説明します。各自の受講継続の判断のためにも必ず出席してください。

以後の数は、事例を考察する際の基本となる知見や構えについてお話しします。並行して、続く事例報告の担当者・順番・日程等を参加者間で調整します。

その後の講義は、テキストに即した事例報告及び話し合いを中心に進めます。報告は全参加者が最低1回担当します。参加者は各回終了までに感想を書いて提出し、まとめられた感想は次の回全員にフィードバックされ、それにより事例へのアプローチを振り返ります。

履修上の留意点

テキストを予め熟読した上で参加すること。各自の経験を振り返りつつ、真摯に読み、聴きいること。

成績評価の方法

上記の留意点を踏まえて、出席の姿勢・講義時間内の感想を含めた平常点で評価します。

教科書

講義開始時に提示します。

参考書等

随時紹介します。

その他

参加人数によりますが、概ねいわゆるゼミ形式となります。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習(9) 〔教育と法律〕(前期)	ひろさわあきら 広 沢 明	12以降入学生/教職2・3必 (全学科)	2

講義のねらい

「総合演習」の一つとして、「教育と法律」について扱う。教育基本法改正、政治的中立性、宗教的中立性、中等教育学校、幼保一元化、職員会議、教科書検定、出席停止、教職員の分限懲戒など、教育関係法規の各条文の理解を深めようと思う。

講義の内容・授業スケジュール

学生をテーマごとにグループ分けし、毎回担当者が報告し、全員で討論する。テーマについては、最初の授業で提示する。

履修上の留意点

演習形式で進めるので、授業への積極的参加・発言が不可欠である。教育問題について感心・熱意のある学生の参加を求める。

成績評価の方法

出席状況、報告、レポートで評価する。

教科書

特に使用しない。

参考書等

授業にて指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総 合 演 習 (10) 〔子どもの人権〕(後期)	ひろ さわ 広 沢 明	12以降入学生/教職2・3必 (全学科)	2

講義のねらい

「総合演習」の一つとして、「子どもの人権」について扱う。児童虐待、児童買春、少年犯罪、体罰、いじめ、性差別、民族差別、障害児、セクハラなど、様々な子どもの人権問題の理解を深めようと思う。

講義の内容・
授業スケジュール

学生をテーマごとにグループ分けし、毎回担当者が報告し、全員で討論する。

履修上の留意点

演習形式で進めるので、授業への積極的参加・発言が不可欠である。教育問題について感心・熱意のある学生の参加を求める。

成績評価の方法

出席状況、報告、レポートで評価する。

教 科 書

特に使用しない。

参 考 書 等

授業にて指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総 合 演 習 (11) 〔生と死の教育〕(前期)	やなぎ ぼり 柳 堀 素雅子	12以降入学生/教職2・3必 (全学科)	2

講義のねらい

昨今の青少年の殺人事件、自殺等の問題を分析し、解明していく。そして日本の学校教育におけるデス・エデュケーションの現状と問題点の分析をしながら、どのような形で青少年と死の問題を結びつけていくかを探り出したい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①日本の学校教育において、デス・エデュケーションを行うことの意味
- ②欧米と日本の学校教育における文化的、社会的背景の相違とデス・エデュケーションのあり方の相違
- ③宗教教育とデス・エデュケーションの関係
- ④日本の学校教育におけるデス・エデュケーションのあり方を探る

履修上の留意点

授業中に何回もレポートを提出してもらうので、講義に出席する意欲のない人は履修しないでほしい。

成績評価の方法

レポートの提出状況と出席状況により、総合的に評価する。

教 科 書

なし

参 考 書 等

講義中にその都度お知らせします。

そ の 他

ビデオやOHPも使用する。
参加者でディスカッション等も行なう。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習 (12) 〔生命倫理〕(後期)	やなぎ ぼり すがこ 柳 堀 素雅子	12以降入学生/教職2・3必 (全学科)	2

講義のねらい

生命倫理（バイオエシックス）とはどのような学問かについて、その成立の背景と歴史を探り、現在の生命倫理（バイオエシックス）が直面する問題点を分析していく。さらに現在の日本の学校教育の中で、生命倫理（バイオエシックス）についての内容を、どのような形で取り入れていくかを考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ①バイオエシックスの成立過程
- ②アメリカ型バイオエシックスの概略
- ③ヨーロッパ型バイオエシックスの概略
- ④日本におけるバイオエシックスの状況
- ⑤現在の日本の学校教育におけるバイオエシックス教育の試み

履修上の留意点

授業中に何回もレポートを提出してもらうので、講義に出席する意欲のない人は履修しないでほしい。

成績評価の方法

レポートの提出状況と出席状況により、総合的に評価する。

教科書

なし

参考書等

講義中にその都度お知らせします。

その他

ビデオやOHPも使用する。
参加者でディスカッション等も行なう。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習 (13) 〔現代的学習課題とジェンダー〕(前期)	たが い よう こ 高 井 葉 子	12以降入学生/教職2・3必 (全学科)	2

講義のねらい

私が担当する総合演習は、前期と後期にあります。どちらか一つを受講することも可能ですが、可能な限り両方を受講して下さい。どちらも、貧困、差別、暴力など、現代社会が抱える問題をジェンダーや学校教育との関連で取り上げ、学生諸君の発表を中心に授業をすすめます。前期は、家族や子どもをめぐる社会問題をジェンダーとの関連で理解します。いずれも、学校教育、社会教育に携わる者にとって重要な問題ですが、単に理解するだけでなく、これらの問題にどのように取り組むことができるか、どのように指導したらよいかを考える場になります。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容の柱は次の通りです。①近代家族とジェンダー ②家族・暴力・ジェンダー ③子育てとジェンダー ④子ども・学校・ジェンダー。授業でとりあげる具体的な問題は、「ドメスティック・バイオレンス」、「児童虐待」、「スクール・セクシュアル・ハラスメント」、「単親家族」などです。

成績評価の方法

出席 (10%)、発表 (40%)、レポート (50%)。成績評価の条件については、最初の授業で詳しく説明します。

教科書

最初の授業時に説明します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習 (14) 〔学校教育におけるジェンダー〕(後期)	たか い よう こ 高 井 葉 子	12以降入学生/教職2・3必 (全学科)	2

講義のねらい

前期の「総合演習 (13)」では、ジェンダーに関連する具体的な問題をあらかじめ設定し授業をすすめました。後期の演習では、教育学の知見や理論を紹介しながら、教育とジェンダーの問題をより広い範囲で考えます。また、各テーマに関連した問題を受講者の関心領域から選び授業時に発表してもらいます。

講義の内容・授業スケジュール

この演習で扱う内容は次の通りです。

- ①日本の教育とジェンダー ②教育制度とジェンダー ③教育投資とジェンダー
④教育機能とジェンダー ⑤学校文化とジェンダー

成績評価の方法

出席 (10%)、発表 (40%)、レポート (50%)。成績評価の条件については、最初の授業で詳しく説明します。

教科書

最初の授業時に説明します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習 (15) 〔持続可能性と技術〕(前期)	きた むら みつ こ 北 村 三 子	12以降入学生/教職2・3必 (全学科)	2

講義のねらい

自然環境をこれ以上悪化させないためにはどうしたらよいのだろうか。中学・高等学校の「総合的な学習」の指導力を高めることも念頭に置きながら、様々な生産技術や生活技術について考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

共通文献として、安田喜憲・松井考典『地球文明の寿命—人類はいつまで「発展」を享受できるか』を読む他、各自、関連することについて調べ、発表し、それをもとに考え合うこともしたい。

履修上の留意点

演習なので、積極的な参加が求められる。

成績評価の方法

出席状況とレポートによる。

教科書

安田喜憲・松井考典『地球文明の寿命』(PHP) 1,500円

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習 (16) 〔豊かさの多様性〕(後期)	きた むら みつ こ 北 村 三 子	12以降入学生/教職2・3必 (全学科)	2

講義のねらい

自然と調和して生きていくために、私たちはどのような社会を築いていったらよいのだろうか。経済、政治、教育などについて、新たなシステムが創り出されねばならないが、その手掛りを、先駆的な試みの中に探してみたい。

講義の内容・授業スケジュール

E. F. シューマッハー『スモール イズ ビューティフル—人間中心の経済学—』を読みながら、考え合う。

履修上の留意点

演習形式なので、積極的な参加が求められる。

成績評価の方法

出席状況とレポートによる。

参考書等

E. F. シューマッハー『スモール イズ ビューティフル』(講談社学術文庫)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総 合 演 習 (17) 〔現代家族の諸問題と教育〕(前期)	すずき ともみ 鈴 木 朋 実	12以降入学生/教職2・3必 (全学科)	2

講義のねらい

現代社会の諸問題のなかでも、子どもの発達の基盤として重要な意味をもつ家族について、今日の諸問題を取り上げ、教育の観点から、その実態、背景、原因を解明し、有効な問題解決の方策をさぐることをねらいとしています。社会性の発達の遅れなど子どもの発達をめぐる問題、不登校・いじめ・校内暴力など学校における問題、その他の非行問題が社会的に憂慮されていますが、その背景には少子高齢化とともに大きく変容しつつある現代家族の在り方をめぐる問題があります。この点を十分に理解し、こうした問題にどのように対応すればよいかを考察するところに講義のポイントをおいています。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、次の3セッションに分けて行う予定です。

第1セッション：「家族集団と子どもの発達」－4月

第2セッション：「産業の発展にもなう家族の変容と教育機能の衰退」－5月

第3セッション：「現代の家族をめぐる問題の諸相と人間形成」－6・7月

履修上の留意点

新聞や書籍などで取り上げられている家族問題への関心を持つことが望まれます。

成績評価の方法

出席状況・レポート・試験により、総合的に評価します。

教 科 書

プリントを配布します。

参 考 書 等

授業中に紹介します。

そ の 他

授業方法－講義に討論場面・現職教員を招いての質疑応答を加える予定です。

科目名	担当者名	配当学科	単位
宗教科教育法Ⅰ	こやま かず のり 乗	14以降入学生/教職3必	4
宗教科教育法		13以前入学生/教職3必	

講義のねらい

「宗教(科)」は、いわゆる戦後教育改革の宗教教育政策の紆余曲折に因縁深く連関する。学習指導要領等に見える他教科とはその成立経緯が異なり、その問題点が今日随所に遍在していることをまず知らねばならない。したがって本講義内容説明も簡単ではない。

教育職員免許法施行規則には免許教科「宗教(科)」の示がみえる。だが肝腎ともいえるべき学習指導要領には、教科「宗教(科)」の示は具体的にはみだし難い。免許法施行規則にはみえている「宗教(科)」は、学習指導要領では、たとえば、「その他特に必要な教科」(中学校学習指導要領)、「学校設定教科」(高等学校学習指導要領)等の示に拠って辛うじて浮上せしめられ指定されていると思慮されよう。さらに周知の如く現行法規下では「宗教(科)」の免許の効力はいわゆる私立学校(学校法人)に限定されている。「宗教(科)」の免許状を所持する教員が実践する学校は、原則として私立学校であり、またその授業科目の名称は、具体的には、全国的に通覧すると、各私立学校によって、それぞれに独自の名称が工夫され、その内容も決して一様ではない。特定の宗教・宗派に限定している例、或いは、特定に限定せずに、宗教一般にわたっている例など、種々様々である。また私立の小学校・中学校では、教育課程編成上「宗教を加えることができる。この場合においては、宗教をもって前項の道徳に代えることができる。」(学校教育法施行規則24条;55条(中学校準用規定))とみえることも知られる。

そこで、本講義「宗教科教育法Ⅰ・宗教科教育法」では、まず、総論的に、他教科(科目)とは大きく異なった事情を有する免許教科「宗教(科)」制定の経緯を概説し、「宗教(科)」の体系化を構想し、その上で、「宗教科教育法」の授業デザインに着手していくこととする。

その際、いわゆる「宗教教育」における「宗教」の取り扱いと、「宗教科教育」における「宗教」の取り扱いとの、両者間の異同点について考える。(詳細は、別途科目「宗教教育」で扱う)

日本国憲法、教育基本法、学校教育法での法的思考から教育的思考・宗教的思考を喚起する。学習指導要領のコンセプトをふまえ、「宗教科」以外の各教科(科目)に関する示、及び史料「文部省著作『宗教と社会生活』(昭和25年)」やその他関連文献・資料・史料を参考にして、いわゆる中学校の宗教科、高等学校の宗教科、また中等教育学校の宗教科について、各学校ごとの「宗教科の体系」を構想し、各々の目標・内容を浮き彫りにしていくことから授業を開始するが、以上のことで前期の大半を費やしよう。難度の高い、さながら、五里霧中の如きチャレンジだが、けだし不可避・不可欠の課題である。

講義の内容・授業スケジュール

- (1)概説：中学校・高等学校の「宗教科教育」の現状
「宗教(科)」：教育職員免許法施行規則・中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領・教科(体系)論、教科教育法、学習指導案、開発主義・注入主義
- (2)戦後教育改革における宗教教育。日本国憲法第26条・教育基本法全11箇条
- (3)日本国憲法第20条と教育基本法第9条との補完的関連
教育基本法第9条立法制定審議過程の推移相。宗教的情操教育の成立論2見解
- (4)学校教育法第17・18・35・36・41・42・51の2・51の3にみえる系統的位相性
- (5)中学校の教育課程一般、高等学校の教育課程一般
学校教育法・同法施行令・同法施行規則・学習指導要領
- (6)教育職員免許法施行規則の免許教科「宗教(科)」の制定経緯
- (7)用語「宗教教育」の教授概念類型、用語「宗教科教育」の教授概念類型
- (8~10)中学校の宗教科の教育課程編成、中学校の宗教科の学習指導・授業計画作成
- (11~13)高等学校の宗教科の教育課程編成、高等学校の宗教科の学習指導・授業計画作成
- (14~16)中学校及び高等学校の宗教科教材開発と史資料批判、史資料活用の方法
- (17~18)高等学校(及び中学校)の宗教科の本時の学習指導計画案の細案・略案作成
* (年間学習指導計画案、期間学習指導計画案、月間学習指導計画案、週間学習指導計画案、本時の学習指導計画案、1point/1classの原則)
* (教育観(例えば、学習か教育か、本覚か始覚)と学習指導案の様式)
- (19~26)模擬授業と授業分析討議(ビデオ収録再生・ビデオの鏡利用)

履修上の留意点

入学年度等に拠る履修の詳細は、所定の履修説明で十分に確認しておくこと。
教科体系構築上の題材は、例えば、社会科、地理歴史科、公民科、道徳、特別活動等の随所に題材があることに留意し、また、地域や学校の特色、生徒の興味・関心の特性、国際理解、情報、環境、福祉、健康にも留意すること。

成績評価の方法

- 1) レポート(夏期休暇後提出、学年末提出)。
- 2) 模擬授業実践(学習指導案細案作成を含む)。

教科書

3) 模擬授業終了後の授業分析を経た後に改訂した学習指導案細案を清書し提出。

①小山一乗著『教育と寛容—宗教的事実・規範の取り扱いとのおしえ方、評価の観点—』（宣協社）2,940円、②『中学校学習指導要領』、③『高等学校学習指導要領』、④『中学校学習指導要領解説 社会編』、⑤『高等学校学習指導要領解説 公民編』、⑥『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』、⑦櫻井秀雄・大山興隆監修『仏教概論—わかりやすい仏教—』（曹洞宗宗務庁）平成7年

参考書等

『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこがちがうか』（大法輪閣）1,600円、適宜指示

その他

中学校教諭「宗教科」免許状取得希望者は、この「宗教科教育法Ⅰ・宗教科教育法」且つ「宗教科教育法Ⅱ」をも履修すること。なお、高等学校教諭「宗教科」免許状のみの取得希望者は、この「宗教科教育法Ⅰ・宗教科教育法」を履修すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 科 教 育 法 Ⅱ	こ 小 やま 一 かづ のり 乗	14以降入学生/教職3必	4

講義のねらい

本講は講義と模擬授業とで構成する。本「宗教科教育法Ⅱ」は、これに先行して履修されている「宗教科教育法Ⅰ・宗教科教育法」を承けて、授業を進めることになる。端的にいえば、教育課程上の「宗教科」の、教育体系、目標、内容については、原則として履修してあることを前提とする。本講では、各受講生が、中学校宗教科の場合にも備えられるようにし、また、高等学校宗教科の場合にも備えられるようにする。教育実習をおこなう受講生や宗教科教師をめざす受講生に、模擬授業実践を課す。用意周到な年間学習指導計画立て、そこから絞り込んだ本時の学習指導（計画）案を作成してもらい、模擬授業展開に臨んでもらう。模擬授業はビデオカメラにて収録し、再生して、爾後の授業分析・自己分析の鏡利用に供するようにする。

留意するのは、個々の宗教・宗派の独自性について、客観的に知識理解できるようになること、また同時に、客観的な知識理解が出来るように生徒たちに学習指導出来るようになることをめざす。同時に、当該宗教・宗派の内面から、主観的にもその内面の機微が表現出来るようになることを目指す。生徒たちに対しても、彼らが主観的な語りが出来るように学習指導できる宗教科教師の力量形成を目指す。とくに宗教科教育において取り扱われる宗教と、宗教教育において取り扱われる宗教との差異についても考慮していくことを課す。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 〈education and religion〉、〈religion and education〉、〈信仰・確信・確認〉
学校における教育の意義、家庭における教育の意義、地域社会における教育の意義
生涯教育・生涯学習の意義
- 2) 国立・公立中学校教育の意義、国立・公立高等学校教育の意義
私立中学校の意義、私立高等学校の意義
- 3) 「宗教科」の成立、免許教科「宗教科」修得単位科目の条件（一般的・包括的）
「宗教一般知識教育」「宗教的情操教育」「宗派信仰教育」「宗教的寛容教育」「対宗教安全教育」
- 4) 「宗教科教育」の教授概念検討（事實的言明・規範的言明、行動的解釈・非－行動的解釈）
- 5) 「宗教の定義」考
「4つの宗教とこがちがう」考
- 6) 中学校学習指導要領の変遷
高等学校学習指導要領の変遷
- 7) 中学校の教育課程と宗教科、高等学校の教育課程と宗教科
- 8) 「宗教科教育」における宗教（的）教材の取り扱い
「宗教教育」における宗教（的）教材の取り扱い
- 9) 「社会科、地理歴史科、公民科」における宗教（的）教材の取り扱い
「国語等その他の教科、道徳、特別活動」における宗教（的）教材の取り扱い
- 10) 「史資料の選取選捨の判断基準」「史資料批判」「マルチ・メディア活用法」
中学校及び高等学校の宗教科教材開発と史資料批判、史資料活用の方法
- 11) 「教育観」「開発主義か注入主義か」「本覚か始覚か」「学習論か教育論か」「自力か他力か」等の教育観・宗教的教育観の基礎的・基本的な問題・課題と指導原理とその方法
- 12) 「教育観と学習指導案の様式」
- 13) 「授業の設計」「単元」「教材観」「生徒観」「指導観」「評価の観点」
- 14) 中学校及び高等学校の各宗教科の学習指導・授業計画作成、学習指導案素案作成
- 15) 中学校及び高等学校の各宗教科の本時の学習指導計画案の細案・略案作成
- 16)～26) 模擬授業と授業分析討議（ビデオ収録再生・ビデオの鏡利用）

履修上の留意点

入学年度等に拠る履修の詳細は、所定の履修説明で十分に確認しておくこと。
教科体系構築上の題材は、例えば、社会科、地理歴史科、公民科、道徳、特別活動等の随所に題材があることに留意し、また、地域や学校の特色、生徒の興味・関心の特性、国際理解、情報、環境、福祉、健康にも留意すること。

成績評価の方法

- 1) レポート（夏期休暇後提出、学年末提出）。
- 2) 模擬授業実践（学習指導案細案作成を含む）。
- 3) 模擬授業終了後の授業分析を経た後に改訂した学習指導案細案を清書し提出。

教 科 書

①小山一乗著『教育と寛容—宗教的事実・規範の取り扱いとのおしえ方、評価の観点—』（宣協社）2,940円消費税込み、②『中学校学習指導要領』、③『高等学校学習指導要領』、④『中学校学習指導要領解説 社会編』、⑤『高等学校学習指導要領解説 公民編』、⑥『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』、⑦櫻井秀雄・大山興隆監修『仏教概論—わかりやすい仏教—』（曹洞宗宗務庁）平成7年

参考書等

『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこがちがうか』（大法輪閣）1,600円、適宜指示

その他

宗教科教材は随所に遍在（※決して偏在ではない）していることに気付くこと。私立の義務教育学校においては、教育課程編成上「宗教を加えることができる。この場合においては、宗教をもって前項の道徳に代えることができる。」（学校教育法施行規則24条；55条（中学校準用規定））と示すが、宗教に代えるというその場合、国公立の義務教育学校における道徳の教育内容との異同点をどう整理するか。私立でのその場合の宗教は、国公立の道徳の内容を余すところなく全て含んでいると思量するのが至当であろうか否かの議論に留意して欲しい。私立的道徳と国公立的道徳との異同点問題がある。ここに宗教科教育が照射していく教材論が浮上しよう。

科目名	担当者名	配当学科	単位
国語科教育法Ⅰ	かみ や みち のり 神 谷 道 倫	14以降入学生/教職3必	4
国語科教育法		13以前入学生/教職3必	

講義のねらい

中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、さらに各領域・教材に応じたそれぞれの指導方法等について概観したのち、実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方、指導事項、指導方法、指導過程等について、主に模擬授業の形式で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

講義の内容・授業スケジュール

重点的に以下の三点を中心に進める。

- ① 国語科教育の現況の確認
- ② 国語科教育の方法、実践等について先人の試みの意義を探る。
- ③ 教育実践の準備

以上のうち①②については、教科書・プリント等を用いて講義形式で行う（前期）。③については、教材研究の実際、指導案の作成など課題形式のもの提出と、実際の教材による模擬授業の形式（グループ分けにより全員が何らかの形で必ず参加）で行う（後期）。基礎学力の点検にも配慮する予定。

履修上の留意点

出席は重視する。模擬授業の積極的参加を望む。

成績評価の方法

定期試験の成績を主とするが、提出物、模擬授業の成果、授業参加（出席）の状況等の観点も加えて総合的に評価する。

教科書

全国大学国語教育学会編 新訂中学校・高等学校『国語科教育研究』（学芸図書株式会社）2,200円+消費税

参考書等

国語科教育法に関するもの、特に後半使用する教材に関するもの等少なからずあるが、その都度指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
国語科教育法Ⅱ	かみやみちのり 神谷道倫	14以降入学生/教職3必	4

講義のねらい

「国語科教育法Ⅰ」の講義のねらいを受けて、特に教材研究・教材分析の面を中心に、できるだけ幅広く教材を選び、指導事項・指導方法・指導過程等の可能性について研究を深め、実践に際しての授業の構想力・指導力を養成する。

講義の内容・授業スケジュール

以下の三項目を中心に前・後期の授業を進める予定

〈前期〉①中学校（高等学校）の国語科の各領域に応じた授業の方法（扱い）を考察する。

②上記をふまえて、適宜必要な教材を設定し、具体的に授業のありようを考察する。

〈後期〉③教師の立場になって、授業を具体的に構想する。教材によっては国語総合学習という観点も視野に入れる（指導案並びにレポートの作成）。

以上のうち①は教科書・プリント等を用いて講義形式を中心に行う。②③については配布の資料（教材）をもとに必要な解説を行い、その後各人の考え方の発表や話し合い、レポート等の提出を課すことになる。また、提出物を授業の材料とすることも考えている。

さらに上記のほか基礎学力の点検にも配慮する（随時小テストなどの形式で実施予定）。

履修上の留意点

授業に積極的に参加すること（なお、中学校・高等学校で使用した教科書・副読本を手元に置いて必要な場合参照できるようにしておくことが望ましい）。

成績評価の方法

出席状況、授業の参加態度、提出物、随時の小テスト等により総合的に評価する。

教科書

新訂中学校・高等学校『国語科教育研究』（「国語科教育法Ⅰ」で使用のものと同じ）

参考書等

必要に応じ、授業中に紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
書道科教育法	なすたかよし 那須隆吉	教職3必	4

講義のねらい

長い歴史を持つ書道の特徴を考察し、その指導法を学習する。そして将来の教師としての自覚を促し、その指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

文部省の芸術科学習指導要領を理解し、芸術科書道の指導計画の作成についての基本的な考え方や、学習指導のあり方、指導法の工夫などについて事例を挙げながら講じたい。

履修上の留意点

遅刻をしないように、又教場での私語を慎むように。

成績評価の方法

出席及び随時レポートの提出により評価する。

教科書

『大学書写書道教育』（第一法規出版）約2,000円

参考書等

随時紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
英語科教育法Ⅰ	佐藤 真二	14以降入学生/教職3必	4
英語科教育法		13以前入学生/教職3必	

講義のねらい

中学校及び高等学校において、英語教師として授業を行うために必要な事項を学ぶとともに実際に教壇に立ち、教えることに慣れることを目標とする。英語科教育法Ⅰでは、高校の内容を中心とする。

講義の内容・授業スケジュール

主に取り上げる内容は以下のとおりである。

1. 英語科教育の目標
2. 主な教授法
3. 言語材料と指導
4. 言語活動
5. 授業の展開
6. 指導形態
7. 評価とテスト
8. 教具・視聴覚機器
9. 教育と学習者

履修上の留意点

自分が、近い将来、実際に教壇に立ち、生徒を前にして授業を行うことになるのだということを念頭におき、積極的に取り組んで欲しい。欠席は慎むこと。

成績評価の方法

前期末・後期末のレポートのほか、授業内の発表も評価に加える。

参考書等

教場において指示する。

その他

授業の方法は、教壇に立ち、授業を行うことに慣れるという目標を踏まえ、模擬授業を多く取り入れてゆく。また、本講義の中で学ぶ事項に関しても、担当の学生が、予習をしてまとめたうえで、他の学生に発表し、説明するという形式をとる予定である。それによって、人前で話し教えることに馴染んで欲しいと願う。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
英語科教育法Ⅱ	佐藤 真二	14以降入学生/教職3必	4

講義のねらい

中学校及び高等学校において、英語教師として授業を行うために必要な事項を学ぶとともに実際に教壇に立ち、教えることに慣れることを目標とする。英語科教育法Ⅱでは、中学の内容を中心とする。

講義の内容・授業スケジュール

主に取り上げる内容は以下のとおりである。

- (前期) 1. 英語科教育の目標 2. 主な教授法 3. 言語材料と指導 4. 言語活動
5. 授業の展開
- (後期) 6. 指導形態 7. 評価とテスト 8. 教具・視聴覚機器 9. 教育と学習者

履修上の留意点

自分が、近い将来、実際に教壇に立ち、生徒を前にして授業を行うことになるのだということを念頭におき、積極的に取り組んで欲しい。欠席は慎むこと。

成績評価の方法

前期・後期末のレポートおよび、授業内の発表で評価する。

教科書

教場において指示する。

参考書等

教場において指示する。

その他

教壇に立ち、授業を行うことに慣れるという目標を踏まえ、模擬授業を取り入れてゆく。また、本講義の中で学ぶ事項に関しても、担当の学生が、予習をしてまとめたうえで、他の学生に発表し、説明するという形式をとる予定である。それによって、人前で話し教えることに馴染んで欲しいと願う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会科教育法Ⅲ(地理歴史)(前期)	いた きよ と 生 田 清 人	14以降入学生/教職3必	2
地理歴史科教育法Ⅰ(前期)		13以前入学生/教職3必	

講義のねらい

地理と歴史の授業をつくるために、どのような学力(考え方・知識・技術など)を形成することが求められているのでしょうか。この講義では、毎回、具体的な実践例を使って、教師論・学習論・カリキュラム論・教材論・評価論・学力論などと関連づけながら展開する予定です。なお、この講義では「授業をつくる」を分析する方向で展開し、地理歴史科教育法Ⅱではこの講義での学習をもとに、「授業をつくる」を総合化する方向で展開する予定です。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 地理と歴史、それぞれの科目の学習目標について、アメリカ合衆国の西部開拓、イギリスの穀物法、日本の産業発達などを例に、これらの学習項目を地理と歴史がそれぞれどのように扱っているかを比較しながら、学習論や方法論などと関連づけて考えます。
- (2) 地理と歴史の年間カリキュラム、単元カリキュラム、学習指導案の作成について、学習論、カリキュラム論と関連づけながら考えます。また、学習指導要領を読んだり、カリキュラムを作成したりする演習を行います。
- (3) 地理と歴史の授業で使う教材について、学習内容論や方法論に関連づけて考えます。また、1時限分の教材を作成する演習を行います。また、「歴史新聞」・「空想旅行記」などのロールプレイングゲームや「遊牧民ゲーム」などのシミュレーションゲームなどを取り入れた授業について、実際にゲームをしながら考えます。さらに、国際理解教育・開発教育・平和教育など新しいパラダイムの教育に地理や歴史はどのように向き合えばよいのか、実践例をもとに考えます。
- (4) 地理と歴史の単元テストについて、学習内容論や評価論と関連づけて考えます。さらに、学校の地理と歴史の学力とは何かを考えます。そして、1単元分の確認テスト作成する演習をします。また、互いの授業を評価しあって、授業を改善する方法について考えます。

成績評価の方法

学習指導案・教材プリント・単元テストなどをまとめたレポートの到達度評価と出席状況により評価します。試験は実施しません。なお、詳細は、第1回の講義において説明します。

教科書

授業では毎回教材のプリントを配布する予定ですが、次の書物を教科書とします。
 社会認識教育学会編『改訂新版 地理歴史科教育』(学術図書出版) 1,751円
 社会認識教育学会編『改訂新版 中学校社会科教育』(学術図書出版) 1,854円

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会科教育法Ⅲ(地理歴史)(前期)	さくら い あき ひさ 桜 井 明 久	14以降入学生/教職3必	2
地理歴史科教育法Ⅰ(前期)		13以前入学生/教職3必	

講義のねらい

中学校社会科の地理的分野・歴史的分野と、高等学校地理歴史科の教育の目標と方法について、地理教材の取り扱いを通じて概説し、実践を試みる。なお、この授業は後期に行われる桜井担当の社会科教育法Ⅳとセットで授業計画がなされているので、あわせて受講すること。

講義の内容・授業スケジュール

おおよその内容は、以下の通りである。
 ①地理教育の目標 ②マイクロティーチング ③教授方法上の工夫 ④指導案の作成

履修上の留意点

各自マイクロティーチングを試み、(個人またはグループで模擬授業を行うなど、)実際に授業を試みてもらうので、授業への積極的な参加が求められる。同時に、担当部分の放棄、担当日の欠席は許されないので、とくに注意すること。それが避けられない場合は、事前(2週間以上前)に連絡し、相談すること。また、仲間の授業を観察し、反省に参加することが非常に重要であるので、出欠は厳しくチェックする。

成績評価の方法

出欠、授業・討論への参加、マイクロティーチング・模擬授業の成果など60点 教科書読書レポート20点 期末試験20点

教科書

桜井明久『地理教育学入門』1999(古今書院)全242頁

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会科教育法Ⅳ(地理歴史)(後期)	いくたきよと 生田清人	14以降入学生/教職3必	2
地理歴史科教育法Ⅱ(後期)		13以前入学生/教職3必	

講義のねらい

社会科の授業をつくるために、どのような学力(考え方・知識・技術など)を形成することが求められているのでしょうか。この講義では、毎回、具体的な実践例を使って、教師論・学習論・カリキュラム論・教材論・評価論・学力論などと関連づけながら展開する予定です。

なお、この講義では、地理歴史科教育法Ⅰでの学習をもとに、「授業をつくる」を総合化する方向で展開する予定です。また、高校の地理、歴史だけでなく、高校にくらべ学習指導がむずかしい中学社会科(地理・歴史・公民)についても扱い、具体的な実践例を紹介したり、模擬授業も取り入れて展開する予定です。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 地歴科は、かつては政経・倫理とを合わせて社会科という教科でした。この講義では、地理、歴史、だけでなく政経、倫理をふくめ総合化した形での学習指導を考えます。そのために、まず、社会科教育の歩みの概観を解説し、中学社会科の学習指導要領を読みます。
- (2) 社会科の単元カリキュラム、学習指導案の作成について、学習論、カリキュラム論だけでなく、生徒の学習発達とも関連づけながら考え、単元を設定したり、学習指導案を作成したりする演習を行います。また模擬授業を行います。
- (3) 課題学習や野外学習など、教室での授業とは異なる授業形態での学習指導について、実践例を紹介しながら考えます。また、調べ学習と発表学習の進め方や評価について考え、野外活動を行う予定です。さらに、それを発展させて、総合的な学習の時間でつかう地域学習のプランを作成する演習を行います。
- (4) ここまでの講義のまとめとして、模擬授業を行います。この模擬授業は、ゲーム教材をつかった授業、歴史新聞をつかった授業、新聞記事をつかった授業などの条件を設け、単元の設定や学習指導案、教材プリントの作成を含めた総合的なものです。
- (5) 社会科の単元テストについて、学習内容論や評価論と関連づけて考えます。さらに、社会科の学力とは何かを考えます。そして、1単元分の確認テストを作成する演習をします。また、模擬授業を行うときには、互いに評価しあって、授業を改善する方法について話し合います。

成績評価の方法

学習指導案・教材プリント・単元テストなどをまとめたレポートの到達度評価と出席状況により評価します。試験は実施しません。なお、詳細は、第1回の講義において説明します。

教科書

授業では毎回教材のプリントを配布する予定ですが、次の書物を教科書とします。
 社会認識教育学会編『改訂新版 地理歴史科教育』(学術図書出版) 1,751円
 社会認識教育学会編『改訂新版 中学校社会科教育』(学術図書出版) 1,854円

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会科教育法Ⅳ(地理歴史)(後期)	さくらいあきひさ 桜井明久	14以降入学生/教職3必	2
地理歴史科教育法Ⅱ(後期)		13以前入学生/教職3必	

講義のねらい

中学校社会科の地理的分野・歴史的分野と、高等学校地理歴史科の教育の目標と方法について、地理教材の取り扱いを通じて、模擬授業を行う。なお、この授業は前期開講の桜井担当の社会科教育法Ⅲとセットになるように授業計画を組んでいる。前期から引き続き連続して授業をとるよう工夫すること。

講義の内容・授業スケジュール

おおよその内容は、以下の通りである。
 ①指導案の作成 ⑤模擬授業 ⑥授業の研究と方法 ⑦地理教師の仕事

履修上の留意点

個人またはグループで模擬授業を行うなど、実際に授業を試みてもらうので、授業への積極的な参加が求められる。同時に、担当部分の放棄、担当日の欠席は許されないので、とくに注意すること。それが避けられない場合は、事前(2週間以上前)に連絡し、相談すること。また、仲間の授業を観察し、反省に参加することが非常に重要であるので、出欠は厳しくチェックする。

成績評価の方法

出欠、授業・討論への参加、マイクロティーチング・模擬授業の成果など60点 教科書読書レポート10点 指導案作成20点 期末試験10点

教科書

桜井明久『地理教育学入門』1999(古今書院)全242頁

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科教育法Ⅰ(地理歴史)(前期)	ふじ き まさ くに 藤 木 正 国	14以降入学生/教職3必	2
地理歴史科教育法Ⅰ(前期)		13以前入学生/教職3必	

講義のねらい

高等学校地歴科(特に日本史・世界史)の教師として、自ら授業を組み立て、実践できる能力を養う。直接的には次年度の教育実習にそなえる。

講義の内容・授業スケジュール

日本教育制度の変遷(1~3)
学習指導案の作成(4・5)
高等学校学習指導要領—地理歴史編—の解説(6・7)
グループ別の模擬授業(8~13)

履修上の留意点

受講する以上は、教員を日ざし努力すること。安易な単位修得は考えない。出席状況と提出物は特に重視する。常に努力と創意工夫とを忘れぬよう。尚、授業計画上、後期の社会科教育法Ⅳおよび地理歴史科教育法Ⅱと連続して履修することが望ましい。

成績評価の方法

出席状況(重視)、提出物(レポート・模擬授業の感想)、考査などを総合して評価する。

教科書

『高等学校学習指導要領解説・地理歴史編』(文部省・実教出版)および高等学校日本史Bもしくは世界史Bの教科書を一冊用意すること。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科教育法Ⅳ(地理歴史)(後期)	ふじ き まさ くに 藤 木 正 国	14以降入学生/教職3必	2
地理歴史科教育法Ⅱ(後期)		13以前入学生/教職3必	

講義のねらい

高等学校地歴科(特に日本史・世界史)の教師として、自ら授業を組み立て、実践できる能力を養う。直接的には次年度の教育実習に備える。また、中学校社会科歴史的分野にもふれる。

講義の内容・授業スケジュール

戦後日本教育制度の変遷(1~3)
学習指導案の作成(4・5)
中学校学習指導要領—社会編(歴史分野)—の解説(6・7)
グループ別の模擬授業(8~13)

履修上の留意点

受講する以上は、教員を日ざし努力すること。安易な単位修得は考えない。出席状況と提出物は特に重視する。常に努力と創意工夫とを忘れぬよう。尚、授業計画上、前期の社会科教育法Ⅲおよび地理歴史科教育法Ⅰと連続して履修することが望ましい。

成績評価の方法

出席状況(重視)、提出物(レポート・模擬授業の感想)、考査などを総合して評価する。

教科書

『中学校学習指導要領解説—社会編—』(文部省・大阪書籍)および中学校社会科歴史的分野の教科書を一冊用意すること。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会科教育法Ⅴ(公民)(前期)	はしづめ さとし 橋 爪 敏	14以降入学生/教職3必	2
公民科教育法Ⅰ(前期)		13以前入学生/教職3必	

講義のねらい

この授業は、高等学校公民科教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能となる形式で行いたい。しかし半期科目であり、時間も限られている。受講学生数によっては、その方法を変えざるをえないが、原則として、公民科教育法に関する文献講読を主とした。学生諸君に分担してその内容を報告してもらい、それをもとにして、公民科とは何か、如何にあるべきか、如何に教えるべきかを、ともに気づき、考えることの出来る授業としたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。

履修上の留意点

教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。

成績評価の方法

最終レポート並びに普段の報告、質問、授業への参加状況、出席状況などを総合して決定する。

教科書

使用するが、未定。

参考書等

適宜、授業中に紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会科教育法Ⅵ(公民)(後期)	はしづめ さとし 橋 爪 敏	14以降入学生/教職3必	2
公民科教育法Ⅱ(後期)		13以前入学生/教職3必	

講義のねらい

この授業は、高等学校公民科教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能となる形式で行いたい。しかし半期科目であり、時間も限られている。受講学生数によっては、その方法を変えざるをえないが、原則として、公民科教育法に関する文献講読を主とした。学生諸君に分担してその内容を報告してもらい、それをもとにして、社会科とは何か、如何にあるべきか、如何に教えるべきかを、ともに気づき、考えることの出来る授業としたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。

履修上の留意点

教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。

成績評価の方法

最終レポート並びに普段の報告、質問、授業への参加状況、出席状況などを総合して決定する。

教科書

使用するが、未定。

参考書等

適宜、授業中に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会科教育法Ⅴ(公民)(前期)	や しき ただ みつ 谷 敷 正 光	14以降入学生/教職3必	2
公民科教育法Ⅰ(前期)		13以前入学生/教職3必	

講義のねらい

本講は高等学校公民科で教育実習を行う学生や公民科教師を目指す学生に、「教育とは」「公民科教育とは何か」といった公民科教育の基本原則から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のため方まで公民科教師としての資質・力量形成を行います。できれば、前後期の履修をのぞみます。

講義の内容・授業スケジュール

1. 教育の意義
2. 社会科の成立
3. 社会科の意義
4. 高等学校公民科学習指導要領の変遷
5. 教育課程の意義
6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 高等学校公民科の指導計画
8. 高等学校公民科の授業設計
9. 高等学校公民科学習指導案の意義と作成
10. 高等学校公民科と思考力を育む授業
11. 高等学校公民科の教育評価

履修上の留意点

- (1) 教科書の補充としてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- (2) 現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚教室に変更することがあります。

成績評価の方法

- (1) 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価します。
- (2) 定期試験、追再試は行いません。小テストは授業中に実施します。

教 科 書

毎時間、講義の教材として年間数十枚のプリントを配布するので、教科書は使用しません。

参 考 書 等

- 講義に関係する参考文献は適宜紹介します。(1)～(6)の書物は図書館で読んで下さい。
- (1) 大田堯『教育とは何か』(岩波新書)
 - (2) 槐一男『社会科教材発掘の技術』(日本書籍)
 - (3) 谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』(黎明書房)
 - (4) 谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』(明治図書)
 - (5) 福山憲市『資料提示の技術』(明治図書)
 - (6) 大森・谷敷『社会科教育研究』(粹出版)
 - (7) 高等学校社会科(現代社会、政治経済、倫理)の教科書
 - (8) 文部省『高等学校学習指導要領』、文部省『高等学校学習指導要領解説公民編』(実教出版)

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会科教育法Ⅵ(公民)(後期)	やしきただみつ 谷 敷 正 光	14以降入学生/教職3必	2
公民科教育法Ⅱ(後期)		13以前入学生/教職3必	

講義のねらい

本講は中学校社会科で教育実習を行う学生や社会科教師を目指す学生に、「教育とは」「社会科教育とは何か」といった社会科教育の基本原則から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のたて方をふまえた上で、後期は、授業づくりに必要な教材開発の方法や授業の基本的指導技術まで社会科教師としての資質・力量形成を目標に行います。

講義の内容・授業スケジュール

1. 高等学校公民科の目標
2. 高等学校公民科の内容・取扱い
3. 高等学校公民科の教材開発と資料の活用法
4. 高等学校公民科の板書計画と板書法
5. 高等学校公民科の発問の仕方と指導法
6. 高等学校公民科の学習形態と指導法
7. 4年生による模範授業（授業研究）
8. 公民科教師による授業1（授業ビデオ）
9. 公民科教師による授業2（授業参観・予定）
10. 模擬授業による公民科の授業実践研究
11. 高等学校公民科教師論
12. 公民科教師と教員採用試験
（教員採用試験の受験希望者には「特別演習」を開講しています。）

履修上の留意点

- (1) 教科書の補充としてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- (2) 現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚室に変更することがあります。

成績評価の方法

- (1) 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価します。
- (2) 定期試験、追再試は行いません。小テストは授業中に実施。

教科書

毎時間、講義の教材として年間数十枚のプリントを配布するので、教科書は使用しない。

参考書等

- 講義に関する参考文献は適宜紹介します。(1)～(9)の書物は図書館で読んで下さい。
- (1) 大田堯『教育とは何か』(岩波新書)
 - (2) 無着成恭『山びこ学校』(角川文庫)
 - (3) 灰谷健次郎『兎の眼』(新潮文庫)
 - (4) 大森・谷敷『社会科教育研究』(粹出版)
 - (5) 槐一男『社会科教材発掘の技術』(日本書籍)
 - (6) 谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』(黎明書房)
 - (7) 谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』(明治図書)
 - (8) 浜上薫『発問づくりの技術』(明治図書)
 - (9) 鈴木健二『社会科指導案づくりの上達法』(明治図書)
 - (10) 高等学校社会科(現代社会、政治経済、倫理)の教科書
 - (11) 文部省『高等学校学習指導要領』、文部省『高等学校学習指導要領解説公民編』(実教出版)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会科教育法Ⅴ(公民)(前期)	お 小 川 輝 之 がわ てる ゆき	教職3必	2
公民科教育法Ⅰ(前期)			

講義のねらい

公民科教育の目的、公民科教育の歴史、高等学校学習指導要領公民科及び公民科各科目の目標、内容について検討する。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 社会科・公民科教育の変遷
 - ①社会科の成立・意義
 - ②社会科の変遷(31年版、35年版、45年版、53年版学習指導要領)
 - ③社会科の再編成と公民科の創設(平成元年版学習指導要領)
- 2 平成11年版学習指導要領「公民」の研究
 - ①公民科及び公民科各科目の目標
 - ②公民科各科目の内容と内容の取扱い
 - ③公民科各科目の指導計画の作成と指導上の配慮事項
- 3 在り方生き方教育の実践
 - ①在り方生き方教育の意義と課題
 - ②在り方生き方教育の指導計画
 - ③教科、特別活動、総合的な学習の時間における在り方生き方教育

履修上の留意点

公民科の指導に要請される広い視野を養うために、各自の専門領域だけでなく公民科各科目に関心を持ち、教材研究を進めること。

成績評価の方法

定期試験は実施せず、授業中に提出するレポート、出席状況等で総合的に評価する。

教科書

文部省『高等学校学習指導要領解説・公民編』(実教出版)220円を購入すること。

その他

講義中心であるが、2の平成11年版学習指導要領の研究では、分担研究発表を行うことを考えている。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会科教育法Ⅵ(公民)(後期)	お 小 川 輝 之 がわ てる ゆき	教職3必	2
公民科教育法Ⅱ(後期)			

講義のねらい

公民科各科目の授業研究(実践事例研究、模擬授業等)を行い、公民科教育における実践的指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

公民科各科目の学習指導案、評価問題等を作成し実際に模擬授業を行う。また、適宜現場での実践事例を研究し、公民科教育や学習指導の在り方等について検討する。

履修上の留意点

実践的指導力を養うのが主なねらいであるので、主体的な授業参加、取り組みを期待するとともに、受講生相互に学び合う姿勢をもつことが大切である。

成績評価の方法

定期試験は行わず、出席状況やレポート、学習指導案等で総合的に評価する。

教科書

文部省『高等学校学習指導要領解説・公民編』(実教出版)220円。その他に公民科各科目(『現代社会』『倫理』『政治・経済』)の教科書を購入することが望ましい(合計1,445円)。なお、教科書購入については授業の中で指示する。

その他

実践事例については配布プリントを中心に講義形式で授業を進めるが、他は発表中心の学習となる。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会科教育法Ⅰ (前期)	いそ やま すずむ 磯 山 進	教職3必	2

講義のねらい

中学校学習指導要領の社会科編に示された教科の目標を実現するために、どのような学習指導を進めれば良いのか、この講義では、地理的分野、歴史的分野それぞれの目標、内容構成、指導方法等について、事例を踏まえて考察する。

講義の内容・授業スケジュール

1 地理的な見方・考え方 2 「世界の地域構成」の取扱い方 3 「日本の地域構成」の取扱い方 4 「身近な地域」の取扱い方 5 「都道府県」の取扱い方 6 「世界の国々」の取扱い方 7 「世界と比べて見た日本」の取扱い方 8 歴史の学び方 9 関心ある主題の設定の方法 10 「身近な地域の歴史」の調べ方 11 「古代までの日本」の取扱い方 12 「中世の日本」の取扱い方 13 「近世の日本」の取扱い方 14 「近現代の日本と世界」の取扱い方 15 国際社会と日本について

履修上の留意点

各自の専門領域における知見を活用することはもとより、社会科の指導に必要とされる広い視野を養うために、社会科の各分野に関心を持ち、教材の研究・開発に努めること。

成績評価の方法

定期考査、レポート、出席状況等で、総合的に評価する。

教科書

文部省『中学校学習指導要領解説社会科編』（大阪書籍）を教科書として使用するので購入すること。

参考書等

参考文献は授業の際に示す。

その他

講義を中心とするが、発表学習も行う予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会科教育法Ⅱ (後期)	いそ やま すずむ 磯 山 進	教職3必	2

講義のねらい

社会科教育法Ⅰの履修に続いて、社会科教育法Ⅱでは、前半で公民的分野の目標、内容構成、指導方法等について、事例を踏まえて考察する。後半では社会科3分野についての授業研究を行い、実践的指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

1 「現代日本の歩みと私たちの生活」の取扱い方 2 「個人と社会生活」の取扱い方 3 「私たちの生活と経済」の取扱い方 4 「国民生活と福祉」の取扱い方 5 「日本国憲法の基本的原則」の取扱い方 6 「民主政治と政治参加」の取扱い方 7 「世界平和と人類の福祉の増大」の取扱い方 8～15 授業研究（学習指導案の作成、模擬授業、授業評価等）

履修上の留意点

社会科教育法Ⅰに続き、様々な社会事象に関心を持って、教材の開発・研究に努めること。

成績評価の方法

定期考査、レポート、出席状況等で、総合的に評価する。

教科書

文部省『中学校学習指導要領解説社会科編』（大阪書籍）を教科書として使用する。

参考書等

参考文献は授業の中で示す。

その他

前半は講義、後半は発表学習の形態で行う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会科教育法Ⅰ (前期)	小川 輝之 <small>おがわ てる ゆき</small>	教職3必	2

講義のねらい

社会科教育の目的、社会科教育の歴史、社会科及び社会科各分野の目標、内容等について検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 社会科教育の変遷
 - ①社会科の成立と意義
 - ②社会科の目標
 - ③社会科の指導内容
 - ④社会科の学習指導
- 2 平成10年版学習指導要領の研究
 - ①社会科及び各分野の目標
 - ②社会科各分野の内容、内容の取扱い
 - ③指導計画の作成と内容の取扱い

履修上の留意点

社会科の指導に要請される広い視野を養うため、各自の専門領域にとどまらず広く社会科の各分野に対する関心を深め、教材研究に努めること。

成績評価の方法

定期試験は実施せず、出席状況、レポート等で総合的に評価する。

教科書

文部省『中学校学習指導要領解説・社会編』（大阪書籍）95円

その他

講義を中心とするが、2の平成10年版学習指導要領の研究では、分担研究発表を行うことも考えている。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会科教育法Ⅱ (後期)	小川 輝之 <small>おがわ てる ゆき</small>	教職3必	2

講義のねらい

社会科各分野の授業研究（実践事例研究、模擬授業等）を行い、社会科教育における実践的指導力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

社会科各分野の学習指導案等を作成し、実際に模擬授業を行う。また、適宜現場での実践事例を研究し、社会科教育や学習指導の在り方等について検討する。

履修上の留意点

実践的指導力を養うのが主なねらいであるので、主体的な授業参加、取り組みを期待するとともに、受講生相互に学び合う姿勢をもつことが大切である。

成績評価の方法

定期試験は行わず、出席状況やレポート、学習指導案等で総合的に評価する。

教科書

文部省『中学校学習指導要領解説・社会編』（大阪書籍）95円
その他に社会科各分野（地理、歴史、公民3分野の教科書〈合計2,130円〉）を購入することが望ましい。なお教科書については授業の時に指示する。

その他

現場での実践事例については配布プリントを中心に講義形式で授業を進めるが、他は発表中心の学習形態である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科教育法Ⅰ (前期)	に い まさ ひろ 二 井 正 浩	教職3必	2

講義のねらい

「社会科教育法Ⅰ・Ⅱ」は、中学校「社会科」の原理（社会科とは何のために、何を、どのように教える教科なのか？）と方法（一定の内容を教えるために、どのような授業を設計し、実践し、評価すればよいのか？）について学ぶ科目である。

具体的には、中学校社会科の学習指導要領、代表的な社会科論や授業実践などについて考察し、社会科教育の現状と課題を明らかにするとともに、地理的分野、歴史的分野、公民的分野に関する教材研究、授業設計および評価の実践的能力を身に付けることを目標としている。

講義の内容・授業スケジュール

「社会科教育法Ⅰ」では、主に中学校「社会科」の原理について扱う。

履修上の留意点

テキストは必ず購入すること。また、授業への出席とは、単にその教室にいることではなく、参加することであるということを、忘れないように。

成績評価の方法

レポート、学習指導案、授業への出席などで総合的に評価する。

教科書

星村平和監修 原田智仁編『社会科教育へのアプローチ—社会科教育法—』（現代教育社）
2,477円＋税

参考書等

森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』（明治図書）2,620円＋税
森分孝治、片上宗二編『社会科 重要用語300の基礎知識』（明治図書）2,660円＋税

その他

基本的には講義形式でおこなう。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科教育法Ⅱ (後期)	に い まさ ひろ 二 井 正 浩	教職3必	2

講義のねらい

「社会科教育法Ⅰ・Ⅱ」は、中学校「社会科」の原理（社会科とは何のために、何を、どのように教える教科なのか？）と方法（一定の内容を教えるために、どのような授業を設計し、実践し、評価すればよいのか？）について学ぶ科目である。

具体的には、中学校社会科の学習指導要領、代表的な社会科論や授業実践などについて考察し、社会科教育の現状と課題を明らかにするとともに、地理的分野、歴史的分野、公民的分野に関する教材研究、授業設計および評価の実践的能力を身に付けることを目標としている。

講義の内容・授業スケジュール

「社会科教育法Ⅱ」では、主に「社会科」の授業構成について扱う。

履修上の留意点

テキストは必ず購入すること。また、授業への出席とは、単にその教室にいることではなく、参加することであるということを、忘れないように。

成績評価の方法

レポート、学習指導案、授業への出席などで総合的に評価する。

教科書

星村平和監修 原田智仁編『社会科教育へのアプローチ—社会科教育法—』（現代教育社）
2,477円＋税

参考書等

森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』（明治図書）2,620円＋税
森分孝治、片上宗二編『社会科 重要用語300の基礎知識』（明治図書）2,600円＋税

その他

基本的には講義形式でおこなう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
福 祉 科 教 育 法	きり 桐 原 宏 行 ほら ひろ ゆき	14以降入学生/教職3必	4

講義のねらい

この講義では、人権教育を含む福祉科教育の意義・目的、教科「福祉」の各科目の内容構成、授業計画、教材研究、授業の基本的指導技術への理解を深め、福祉科教師としての資質の向上を目指す。

講義の内容・
授業スケジュール

<前期内容>

- ・人権教育と福祉科教育の目標（第1回～第2回）
- ・教科「福祉」の成立過程（第3回）
- ・教科「福祉」の教育目標（第4回）
- ・教育課程（第5回）
- ・教育評価の目的と方法（第6回）
- ・学習指導計画（第7回）
- ・各科目の教育法（社会福祉基礎，社会福祉制度，社会福祉援助技術）（第8回～第13回）

<後期内容>

- ・各科目の教育法（基礎介護，社会福祉実習，社会福祉演習，福祉情報処理）（第1回～第8回）
- ・模擬授業（第9回～第13回）

履修上の留意点

この授業は、教科「福祉」の教員免許取得予定の学生は必ず履修しなければならない科目であるが、社会福祉を専攻する学生で福祉教育に関して学びたいと考える学生にとっても意義があると思われるため、教員免許取得予定者以外の学生の受け入れも可能である。

成績評価の方法

出席状況、課題への取り組み状況、討議、模擬授業を総合的に評価する。

教 科 書

『福祉科教育法』（三和書籍）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 科 教 育 法	や しき ただ みつ 谷 敷 正 光	教職3必	4

講義のねらい

「専門教育」（職業教育）の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にともなうめまぐるしく変遷してきた。先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、大きく改善されている。さらに1994年度からは、「普通科」と「専門学科」の中間形態ともいえる「総合学科」が誕生し、高等学校教育の改革が急速に進んでいる。従って、この講義のねらいは、「専門教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するために、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」「商業教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来の意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

講義の内容・履業スケジュール

1. 専門教育・商業教育の現状
2. 専門教育・商業教育の改革動向
3. 専門教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の変遷
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の授業設計
8. 商業科の指導法
9. 商業科の教材開発と資料の活用
10. 商業科学習指導案の作成（実践）
11. ビデオによる商業科教師の授業研究
12. 4年生による模範授業（授業研究）
13. 模擬授業を通じての商業科の授業実践研究
14. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
15. 商業科における評価
16. 商業科教育実習における「教師教育」
17. 商業科教師論
18. 商業科教師と教員採用試験
（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

履修上の留意点

- (1) 年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- (2) 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

成績評価の方法

- (1) 授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価する。小テストは授業中に実施。
- (2) 定期試験、追再試は実施は行いません。

教科書

年間数十枚のプリントを配布予定ですので使用しない。

参考書等

講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。

- (1) 大田 堯『教育とは何か』（岩波新書）
- (2) 産経新聞社『学校ってなんだろう』（新潮社）
- (3) 灰谷健次郎『兎の眼』（新潮文庫）
- (4) 斎藤喜博『授業入門』（国土社）
- (5) 毎日新聞社『教育改革 現場の試み』（毎日新聞社）
- (6) 岩下 修『指導案づくりの技術』（明治図書）
- (7) 新牧賢三郎『やる気を引き出す技術』（明治図書）
- (8) 高等学校商業科の教科書（「流通経済」「商業経済」など）
- (9) 文部省『高等学校学習指導要領解説 商業編』（大日本図書）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
職 業 科 教 育 法 I	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	14以降入学生/教職3必	4
職 業 科 教 育 法		13以前入学生/教職3必	

講義のねらい

授業は中学校における職業科目の理解とその科目内の商業教育を中心に進めていく。

講義の内容・
授業スケジュール

職業・労働・生活。
職業科教育の目標と意義。
職業科教育の成立。
職業科教育と技術家庭科教育。
職業科目の概要。
商業における授業と指導。
授業実践。

成績評価の方法

平常点とレポートで成績評価。

教 科 書

開講時に指示する。

参 考 書 等

開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
職 業 科 教 育 法 II	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	14以降入学生/教職3必	4

講義のねらい

職業科教育法IIではそのIを補足しながら模擬授業に重点をおく。

講義の内容・
授業スケジュール

教材研究、学習指導案作成、授業方法を取扱いながら模擬授業を進めていき、参加者全員でその授業について討議をしていく。模擬授業においては「商業の機関と機能」を前期授業で、「経理」等については後期授業で扱う予定である。

成績評価の方法

出席・模擬授業・レポートなどを総合して評価する。

教 科 書

プリント配布

参 考 書 等

授業に際して示す。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育実習Ⅰ	とよ た ちよこ 豊 田 千代子	教職4必	3
教育実習Ⅱ		12以降入学生/教職4必	5

講義のねらい

中学・高校での教育実習を充実させるための準備を行なうことと、実習をとおしてみえてきた教育のさまざまな課題について、ともに考えることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 事前指導
- ・実習の心がまえ
 - ・生徒指導について
 - ・教科指導について
 - ・指導案作成
 - ・模擬授業
- 訪問指導
- ・研究授業訪問指導
- 事後指導
- ・授業実習の検討
 - ・教育をめぐる諸問題についての検討

成績評価の方法

実習ノート、実習校からの評価、授業での実習報告、レポート。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

適宜指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育実習Ⅰ	まか もと のぶ あき 坂 本 信 昭	教職4必	3
教育実習Ⅱ		12以降入学生/教職4必	5

講義のねらい

教育実習での失敗を未然に防ぎ、あるいはできるだけ少なくするというよりも、むしろ、不必要な先入観を捨て、持ち合わせている力で、全身で意欲的に向う姿勢に高め、教育実践の場で、間違いや失敗したことについて悩み、苦しむことを通して、自覚的に主体的に一つ一つの教育事象について考える機会にしたい。そのためには、いわゆる事前指導も大事であるが、事後指導（教育）も大事にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）等に関する講義とビデオ教材なども視聴し、実習に際しての事前指導を行う。（前期）
教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。（前期・後期）
教育実習後は、各自の教育実習報告、レポート作成（提出）、教育問題にかかわるビデオの視聴、ディスカッションなどから教育への理解を深め、教育とは何か—どうあるべきか—について、各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像等についても一緒に考えたいと思う。（後期）

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

(1) 実習校からの教育実習評価及び教育実習ノート、(2) 教育実習報告（口頭報告）及び報告レポート、(3) ビデオ視聴のコメント（感想）、(4) 年度末試験（または、課題レポート）によって、総合的に評価します。

教科書

栗原敦雄他編『教育実習ガイド』（宣協社）1,500円

参考書等

寺崎昌雄他編『教育実習57の質問』（学文社）1,000円

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育実習Ⅰ	はぎ わら けん じろう 萩原 建次郎	教職4必	3
教育実習Ⅱ		12以降入学生/教職4必	5

講義のねらい

教育実習は皆さんで、教育実践体験を受講者同士で深め合い、教育実現を深くつかんでいく。まなざしや、教師としての身体技法を養っていききたい。

講義の内容・授業スケジュール

実習前には実習に関するビデオを見たり、模擬授業をおこないながら、指導案作成の方法を学び、実習することの意義や心がまえなどを考えたい。実習後は各自体験レポートを持ち寄り、実習のふりかえりと分かち合いをおこなう。そこから共通して考えるべきテーマ、話題があれば適宜とり上げて受講者同士と共に考えていききたいと思っている。

履修上の留意点

教育実習を中心とした体験学習、参加型の学習なので、受講者の主体的な参加が求められる。

成績評価の方法

実習校からの評価、口頭発表レポート、出席等により総合的に評価する。

教科書

教科書・参考書等はそのつど指示する。

参考書等

教科書・参考書等はそのつど指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育実習Ⅰ	きた むら みつ こ 北村 三子	教職4必	3
教育実習Ⅱ		12以降入学生/教職4必	5

講義のねらい

中学・高校での教育実習は、教員免許を得るために乗り越えなくてはならない最大の課題であろう。実習生とはいえ教師であることを求められる、責任の重い課題でもある。この授業は、実習のための準備と、実習体験を他の人々と共有し深めることを目的とするものである。実習がスムーズに進み、また、実り多いものとなるように、以下に述べるような様々なことを試みたい。また実習後は、教える立場から新たに見えてきた学校や教師、生徒の問題や、それらの存立基盤としての、社会や文化の問題を考え合いたい。

講義の内容・授業スケジュール

実習の準備としては、全般的な注意、学習指導案の作成に関する指導、模擬授業などを行なう。実習後は、実習体験を語り合い、その中から後期に検討すべきテーマを考えていく。夏休み明けには、それにそった資料を用意し、討議を中心とした授業を進める。具体的内容は話し合いの上で決めたい。

履修上の留意点

実習の準備としては、教材研究を各自よくやること。後半は積極的に参加すること。

成績評価の方法

実習ノート・評価表などの実習の記録、授業への参加度、最終授業時のまとめのテストによる。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育実習Ⅰ	伊藤 茂樹	教職4必	3
教育実習Ⅱ		12以降入学生/教職4必	5

講義のねらい

中学・高校での教育実習を実りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それを取りまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。

講義の内容・授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義や目的、内容についての講義と受講者による模擬授業を行う。実習後は、各自の実習の経験をふまえたうえで、そこから見えてきた教育や青少年の現実について、口頭発表、討論、文献購読、レポート作成などを通じて批判的にとらえる目を養うことをめざす。

履修上の留意点

受け身ではなく主体的な参加を求める。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習ノート、授業への参加、レポートにより総合的に行う。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育実習Ⅰ	遠藤 司	教職4必	3
教育実習Ⅱ		12以降入学生/教職4必	5

講義のねらい

中学・高校での教育実習を、自らの人生の中での意義深い体験とするための事前の準備をし、事後に振り返りつつ位置づけることが、この授業の目的である。実習前には、実習に向けての準備を万全なものとするために、実習することの意義や心構えをし、具体的な準備をするための学びを行う。実習後には、実習の体験をより深めていくために、自らが教育現場で体験したことを基に、現代日本の教育について様々な問いを共有し、参加者とともに考えを深め合うための学びを行う。

講義の内容・授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義、目的、内容についての講義、ビデオによる概要の把握、学習指導案の作成、模擬授業ならびにその検討会等を行う予定である。実習後は、自らの実習体験を語り合い、様々な問題やテーマを共有した上で、その中からいくつかのテーマについて取り上げ、討論等を行う予定である。

履修上の留意点

教育実習という実際の活動を中心とした授業である。体験するための準備、体験後の深め合いをするために、主体的、積極的な参加を望む。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習レポート、授業への参加度、学期末のレポートを、総合して評価する。

(2) 教科又は教職に関する科目〔平成12年度以降入学生〕
 教職に関する科目（選択）〔平成11年度以前入学生〕

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育関係法規	ひろ <small>ひろ</small> まわ <small>まわ</small> あきら <small>あきら</small> 広 沢 明	教職2・3・4選(全学科)	4

講義のねらい

教育基本法、学校教育法をはじめとする教育関連法規につき、判例・行政実例などの具体的事例に触れながら講義を行う。教育基本法改正、小中学校設置基準、体験活動・総合学習、出席停止、中等教育学校、学校評議員、児童虐待防止法、少年法改正など最近の動向についても、法的観点から検討を行いたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- (前期) (1～4) 学校の種類・設置・監督庁・組織編制
- (5～7) 教育の機会均等
- (8～10) 義務教育（就学義務・無償）
- (11～13) 教育の中立性（政治・宗教）
- (後期) (14～16) 教育の目的・内容（学習指導要領・教科書）
- (17～19) 児童生徒の懲戒と体罰
- (20～22) 教職員法制（採用・服務・懲戒・勤務条件）
- (23・24) 教育行政（文科省・教育委員会）
- (25・26) 学校保健、障害児、福祉法制

履修上の留意点

ただ漠然と聴講するだけでなく、授業で取り上げたテーマにつき、自ら調べたり考えたりする前向きな姿勢を求める。

成績評価の方法

試験と出席状況によって評価する。毎回出席をとり、その結果は成績にかなり反映される。

教科書

『解説教育六法』（三省堂）を必携。

参考書等

授業中に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育評価	おお <small>おお</small> はま <small>はま</small> きく <small>きく</small> こ <small>こ</small> 大 浜 幾久子	教職2・3・4選(全学科)	4

講義のねらい

狭義の教育評価にとらわれず、人間の能力とは何か、学力とは何かについて、様々な側面から討論し、研究することを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

はじめに、教育心理学の研究手法（実験・観察・調査・テスト）の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価にかかわる研究実習を行う。実習においては、必要に応じパソコンも活用していく。

履修上の留意点

ゼミ形式で進める。討論、実習への積極的参加が不可欠である。

成績評価の方法

実習レポートを中心とする。

参考書等

資料等は随時、準備し指示する。また、受講生からの提案も歓迎する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 哲 学	きたむらみつこ 北村三子	教職2・3・4選(全学科)	4

講義のねらい

今日、近代社会の矛盾が様々な形で人間の生活を脅かしており、その中で、かつての人々が当然のこととしてあてにできた子育ての社会的、自然的基盤も揺るがされている。この混迷の時代に、私たちはどのようなありかたに向けて、またいかにして、次の世代を育み、支えてゆくことができるのだろうか。この授業では、生命とは何か、また、生命的な知とは何かを学ぶことを通して、そうしたことを考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

西垣通『こころの情報学』（オートポイエーシス、動物行動学、アフォーダンス、人工知能などの視点から人間の心について論じたもの）を中心に関連する文献を読み合う。

履修上の留意点

ゼミ形式で行なう。毎回テキストを読んでおくことが必要となる。

成績評価の方法

出席状況とレポートによる。

教 科 書

西垣通『こころの情報学』（ちくま新書）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 情 報 学	おぐらやすよし 小倉康仁	教職2・3・4選(全学科)	4

講義のねらい

近年一般大学生のコンピュータリテラシー（基礎知識・技能）は着実にレベルアップしてきている。このような社会情勢を受けて、また他の開講科目（とくに「教育とメディア」）との関連性を考慮して、この授業のねらいを次の三つとする。

1. 初歩的なレベルを超えて、一歩進んだ情報技術・知識を身に付ける。（この延長線上には、情報処理関連の資格検定・試験への挑戦ということも視野に入れる）
2. 教育分野でのコンピュータ利用方法・形態の変化について教育学の視点から理論的に分析・考察するとともに、コンピュータの教育的活用とは何かをより具体的に探る。
3. 普遍性のあるソフトウェアの操作実習を通して、実社会で必要とされる実際的なコンピュータ（パソコン）活用能力とセンスを育成する。

講義の内容・授業スケジュール

授業は常にコンピュータ教室で行ない、講義と実習を適宜組み合わせる授業を進める。

前期の授業内容としては、以下のものを予定している。

情報科学の基礎知識（講義）、エンドユーザコンピューティングの基礎知識・技能（講義・実習）、表計算ソフトの基本操作（実習）、教育分野でのコンピュータ利用形態の分類・整理（講義）、コンピュータの教育的活用とは？（講義）、教育用ソフトウェアの選択・活用方法について（講義と実習）、

後期の授業内容としては、以下のものを予定している。

表計算ソフトのより高度な利用1－関数の組み合わせ－（実習）、表計算ソフトのより高度な利用2－マクロとVBAプログラミング－（実習）、リレーショナルデータベースの概念（講義）、プレゼンテーションソフトおよびオーサングソフトの活用法（講義・実習）

履修上の留意点

パソコン初心者も履修可能であるが、なるべく欠席しないように心がけてほしい。また、授業内容に関する質問をEメールでも受け付ける予定なので、個人のメールアドレスを持っていない人はなるべく早く総合情報センター主催のネットワーク講習会に参加して、電子メールアドレスを取得するように心掛けること。

成績評価の方法

平常点（出席、学習態度）、小テスト（ペーパーテスト）、提出物（レポート、課題など）の総合点によって、成績評価を行なう。

教 科 書

教科書は使用せず、配布プリント等を利用して授業を進める予定である。

参 考 書 等

参考書等については、そのつど授業時間内で指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育臨床心理学	小野 けい子	教職2・3・4選(全学科)	4

講義のねらい

青年期についての理解を深めるとともに、教育の領域に起こる様々な問題に具体的にどうかかわるか、臨床心理学的視点から学ぶことを目的としている。その中で、サイコ・ドラマ、描画法など、臨床心理学の技法も習得する。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1章 臨床教育学とは何か
- 第2章 青年期の理解1：青年期のつまずき
- 第3章 青年期の理解2：大人になること
- 第4章 青年期の理解3：こころとからだ
- 第5章 青年期の理解4：人とのつながり
- 第6章 青年期の理解5：大人と子ども
- 第7章 文化社会のなかの教育
- 第8章 個性の教育
- 第9章 教育における人間関係
- 第10章 授業の臨床教育学

履修上の留意点

特になし

成績評価の方法

夏休みと年度末に提出するレポートと出席によって評価を行う。

教科書

河合隼雄著『大人になることのむずかしさ』（岩波書店）1,500円
河合隼雄『臨床教育学入門』（岩波書店）1,700円

参考書等

講義の中で紹介する

その他

授業方法：受講者数によって決定する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育社会学	伊藤 茂樹	教職2・3・4選(全学科)	4

講義のねらい

教育社会学は、教育を社会現象ととらえ、社会学の手法を用いてアプローチする学問であり、教育や学校、子ども、青少年などに関するあらゆる現象が対象となる。分析のレベルも国の教育政策といったマクロレベルから、教室内での人間関係や相互作用といったマイクロレベルまで多岐にわたる。そして、私たちがともすれば自明視しがちな「常識」を相対化して批判的なまなざしを向けたうえで、実態の客観的な分析をふまえて実践や政策に寄与する知見を得る学問である。この学問についての基礎知識を持ち、それを用いて現代社会の教育について考えていく。

講義の内容・授業スケジュール

とりあげるテーマとして、教育社会学の対象と方法、学校の歴史と機能、社会化とその変容、情報化社会と青少年、教育制度、カリキュラムと知識、学校の組織と文化、階層と教育、教育問題と教育改革、などを予定している。

履修上の留意点

授業への積極的な参加を求める。

成績評価の方法

課題とレポートにより評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育史	やまもととしこ 山本敏子	教職2・3・4選(全学科)	4

講義のねらい

近代学校システムが肥大化し、その教育様式が社会全般に浸透している現代においては、生物としてのヒトの子どもが、人間（ヒト）らしい感受性をもって生き生きと暮らし、成長していく生活経験の基盤が大きく切り崩されています。そうした経験とはどのようなものなのか？この授業では、近現代日本の教育の歴史を概観する（前期）と共に、従来の学校中心の教育史叙述を乗り越えていくために、人類史的、さらには自然史的な視座から人間形成や教育的営為を捉え直す試みに取り組んでいきたい（後期）と思います。

講義の内容・授業スケジュール

(前期) (1) 教育史への招待 (2) 教育基礎論としての教育史の可能性
(3・4) 民俗社会における人間形成 (5・6) 近代学校システムの成立
(7～12) 『民衆の教育経験』を読む (13) 小まとめと後期の授業への橋渡し
(後期) 人間（ヒト）に成る経験とは何かを考える手がかりとして、例えば、次のような文献を読む予定です。中村桂子『生命誌の世界』、三木成夫『胎児の世界－人類の生命記憶』、津守真『子どもの世界をどうみるか－行為とその意味』、小原秀雄『教育は人間をつくれるか』、藤田省三『或る喪失の経験－隠れん坊の精神史』etc。
文献の選択、スケジュールは、受講者の皆さんと相談の上、6月頃に決めます。

履修上の留意点

歴史の授業ですが、現代の子どもや若者が置かれている社会状況や教育諸問題などにも関心をもって受講されることを望みます。

成績評価の方法

授業時間内の発表・報告や出席状況、学期末レポートなどの総合評価。

教科書

大門正克著『民衆の教育経験－農村と都市の子ども』（青木書店）2,500円＋税

その他

最初は講義や史料講読の時間を多く入れますが、徐々にゼミ形式へ移行させていただきます。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育調査	すずきのりお 鈴木規夫	教職2・3・4選(全学科)	4

講義のねらい

人間の行動について科学的な方法によるリサーチの技術と推論の論理を身につけるため、教育にかかわる身近な問題について具体的に調査を実施する。

講義の内容・授業スケジュール

具体的な調査内容は受講者自身が主体的に提案するものとし、授業ではその内容について議論するとともに調査を実施するにあたっての必要な基本プロセスを学習する。また、実際に調査を実施し、コンピュータを利用して調査結果をまとめる。その際、結果を要約するため不可欠なデータの解析法や推論の論理についても分かりやすく解説する。

履修上の留意点

調査内容は受講者自身が提案することになるので、受講前に何を調査したいのか予め考えておくことが望ましい。また、コンピュータを利用して分析を行うので多少のコンピュータに関する知識を有していることが望ましい。

成績評価の方法

成績評価は提出された調査結果報告書によって行う。

教科書

講義要旨および資料のコピーを授業当日配付する。

参考書等

特に指定しない。

その他

授業は討論中心の形態をとる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現代社会の諸問題と教育Ⅱ	すずき ともみ 実 鈴 木 朋 実	12以降入学生/教職2・3・4選 (全学科)	2

講義のねらい

現代の社会は急激な変化に伴って解決の難しい多くの問題を発生させていますが、これらの問題は、教育の在り方に直接的、間接的に重大な影響をおよぼしています。わが国の場合、社会的変化は、とりわけ、1960年代の経済成長政策以降、テンポを速め、激しさを増しています。講義では、わが国の高度経済成長期以降の社会的変化の過程で生じた重要な問題と教育との関係を明らかにして、将来を展望し、問題解決の方途を探ることをねらいとしています。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、次の3セッションに分けて行う予定です。
 第1セッション：「高度経済成長にともなう社会の諸問題と教育」－9月
 第2セッション：「情報化にともなう問題と生涯学習」－10月、11月
 第3セッション：「自由化をめぐる問題と教育」－12月

履修上の留意点

新聞に目を通し、社会問題・教育問題への関心を高めるとよいでしょう。

成績評価の方法

出席状況・レポート・試験により、総合的に評価します。

教 科 書

プリントを配布します。

参 考 書 等

授業中に紹介します。

そ の 他

授業方法－講義に討論場面を加えます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
青少年問題研究	さぬきまきこ 讃岐真佐子	教職2・3・4選(全学科)	4

講義のねらい

この講義では、「青少年」つまり児童期、青年期（小学生～20代前半頃）に生じ得る諸問題について、主に発達の、臨床心理学的視点から学ぶ事を目的とする。現代は不適応状態や問題が長引く傾向にあり、またその質的側面も、従来の自己葛藤型から漠然とした無気力型へ、さらに言語で訴えるよりも身体症状として現す等、様々な変化が見られるように思う。またこの時期は、一般に親や兄弟、友人、学校や地域等の多くの人との関わりを通して子どもが大人に成っていく、まさしく自分自身を作っていく時である。それだけにこれらの人々といかなる質の関係を持ち、どのような人と出会えるかが決定的に重要な意味をもつと思われる。この講義ではこのような問題意識を基に、この時期の青少年に起こり得る諸問題を、発達や事例に則して生き生きと学んでみたいと思う。

講義の内容・ 授業スケジュール

- (前期) I. 青少年に生じ得る「問題」をどう捉えるのか——その二面性について
 II. 青少年にいかに出会っていけるのか——臨床心理学に基づくカウンセリングを中心として
 III. 事例を通して、不登校、友人関係(いじめ)、非行などのテーマ毎に学ぶ
 (後期) IV. 人間の誕生から青春期に至るまでの心の発達の諸相
 V. いくつかの症状(対人恐怖、無気力、身体症状等)や、心の健康について

履修上の留意点

授業は講義中心となるだろうが、その日の内容への質問や感想を毎回書いて提出してもらい、受講生同士のフィード・バックも考えていきたい。出席状況(授業態度を含む)も重視する。

成績評価の方法

出席状況と定期試験

教科書

必要な資料は適宜配布する

参考書等

- ・岩宮恵子著『生きにくい子どもたち』(岩波書店)
- ・河合隼雄著『カウンセリングを語る(上下)』(創元社) 『大人になることのむずかしさ』(岩波書店) 『あなたが子どもだったころ』(楡出版) 『子どもの宇宙』(岩波新書386)
- ・小川捷之・村山正治編『学校の心理臨床』(心理臨床の実際2) 金子書店
- ・季刊 『仏教——特集癒し』No. 31 (法蔵館)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 教 育	こやま かず のり 小 山 一 乗	教職2・3・4選(全学科)	4

講義のねらい

本授業科目名称である用語「宗教教育」は一義的ではなく、複雑であり、いわゆる対日米国占領政策の一環であるいわゆる「神道指令」に象徴される日本人の精神改造計画実施上、戦後教育改革の中心的論点・課題であって来た。本講義のねらいは、その用語「宗教教育」には、多義的で、実に複雑にして様々な教授概念の類型があることを知り、巷間のとかくの常識的捕捉を再検討し、また、現時局下の教育基本法改正論議上に浮上するいわゆる「宗教教育」論議中に伏在する、その、法的思考 (legal mind) ・教育的思考 (educational mind) ・宗教的思考 (religious mind) の紆余曲折の歴史的経緯を知る。そして、これまでの「宗教教育」の問題点を知り、これからの世界的脈絡中での「宗教教育」の不可避的且つ不可欠な課題点を明らかにし、手垢のついた既成概念にとらわれずに、カリキュラムをデザインすることが出来るようになるその内容知と方法知とを身につけることを目的とする。横断的・総合的捕捉を試みる。宗教に由来する日常生活用語が教育の場面に数多伏在している事象への気づきを端緒として講義を開始する予定。

本講義は、決して、或る特定の宗教・宗派を価値ありとして判定して促進したり、または、価値なしと判定してそれを抑制したりするというそのような内容・方法を専らに考えるというような、とかくありがちないわゆる宗派信仰への導入をのみ考えるといういわゆる狭義の宗教教育を構想する講義ではない。決して狭義的ではなく、先ずは、寛容の態度を育てることを構想するものであり、その意味で広義的である。様々の宗教や宗派、宗教現象を事例として取り上げる。

具体的には、多くの音声教材、映像教材、文字教材、マルチメディア等を用いて、適宜、様々な童謡、民謡、歌謡曲、唱歌、数え歌、演歌、浪曲、説話、写真、古典音楽、詩、書など様々なジャンルの現象にふれ、日常の実際生活の深層・表層において、宗教的事柄が、隠れたカリキュラム又は顕れたカリキュラムとして、人間形成にいかに関与しているかの諸相を考察する。

講義の内容・授業スケジュール

- (1~2) 用語「宗教教育」の教授概念類型 (5つの類型)
- (3~4) 宗教的情操教育の成立をめぐる対立的2見解
- (5~6) 「教育」、そして「教育」の「目的」「目標」「内容」「方法」
(法的思考・教育的思考；目的-目標、判断力-批判力、選択-決定等)
- (7~9) 「教育観の分類」、「教育の目的の考察先行事例」、「開発主義」と「注入主義」
知識理解度事項・態度の事項・技能の事項
- (10~11) 「宗教の様々な分類」、文献「宗教の定義集」、あなたの定義を考える端緒
- (12~13) 日本国憲法20条・教育基本法9条・初期社会科学習指導要領の相互補完関係
教育基本法第9条立法制定審議の推移の検証から看取される問題と今後の課題
対日米国占領教育改革政策が胎息していた異文化理解問題の史実
宗教教育と宗教科教育 (教育職員免許法に規定) との差異検討
(←だれでもの国語教育と、誰でもではない国語科教育との比較からの援用論)
- (14~16) 命題「法は風土の産物」(モンテスキュー『法の精神』)を問題意識の根柢におく
世界各国の風土、風習、習慣、慣習、法、比較法
各国の宗教教育
- (17~18) これからの宗教教育の教授概念検討 (不均衡是正)
政策・法律論議「何を教えることができないのか」の禁止事項
教授概念論議「何を教えることができるのか」の肯定的事項
意図的用法・成功的用法、行動的解釈・非-行動的解釈、事実的言明文・規範的言明文
- (19~25) 宗教教育の指導計画：題材 (subject-matter) としての事例・用語等
宗、教、育、education、prenatal education、pedagogy、andragogy、gerogogy、誓願、アニミズム、アニメーション、更に、何~何事、what~whatness、児童生徒の疑問態 (の調査研究)、内外の種々の童謡、節分、雛祭り、節句、七夕、盆祭り、七五三、合格祈願、教師、学者、学生、日常用語になった仏教語 (挨拶・会釈・我慢・玄関・工夫・覚悟・油断・娑婆等)、お守り、羽田空港長の朝、クリスマス、ターミナル・ケア、入学式、卒業式、入社式、成人式、結婚式、等
- (26) まとめ

履修上の留意点

宗教教育という用語への偏見・先入観をいったんは払拭して欲しい。教科書を使用して授業を進める。必要に応じ、映像教材・音声教材・文字教材等を複合的に視聴するので、PC設備のマルチメディア教場 (事前に授業中に指示) や視聴覚教室 (授業中に指示または掲示) への移動指示に注意すること。印刷教材プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。宗教学、宗教人類学等の関連授業科目を積極的に受講することを是非勧めたい。

成績評価の方法

レポート（夏期休暇後提出、学年末提出、その他中間で適宜にレポート課題提出を求める）
課題は具体的に授業中にて指示するので出欠席には要注意。出席点による。出席を尊重。

教科書

小山一乗著『教育と寛容—宗教的事実・規範の取り扱いとのおしえ方、評価の観点—』（宣協社）2,940円消費税込

参考書等

『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこがちがうか』（大法輪閣）1,600円
脇本平也著『宗教学入門』（講談社学術文庫）940円。その他適宜紹介・指示する

その他

原則として講義形式で実施するが、適宜、発表、討論をおこなう予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
生涯学習概論Ⅰ (前期)	とよ た ちよ こ 豊 田 千代子	教職2・3・4選(全学科)	2

(P.133) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
生涯学習概論Ⅱ (後期)	とよ た ちよ こ 豊 田 千代子	教職2・3・4選(全学科)	2

(P.134) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
視聴覚教育	き の ひろ ひこ 佐 野 博 彦	教職2・3・4選(全学科)	4

(P.149) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
学校経営と学校図書館 (前期)	やま だ せつ こ 山 田 節 子	教職2・3・4選	2

(P.125) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
読書と豊かな人間性 (後期)	やま だ せつ こ 山 田 節 子	教職2・3・4選	2

(P.125) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
学校図書館メディアの構成 (前期)	みなもと しろう きゅう 源 昌 久	教職2・3・4選	2

(P.126) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
学校図書館メディアの構成 (前期)	篠田耀子 <small>しの だ よう こ</small>	教職2・3・4選	2

(P.126) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
情報メディアの活用 (後期)	源昌久 <small>みなもと しょう きゅう</small>	教職2・3・4選	2

(P.127) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
情報メディアの活用 (後期)	篠田耀子 <small>しの だ よう こ</small>	教職2・3・4選	2

(P.127) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
学習指導と学校図書館 (前期)	山田節子 <small>やま だ せつ こ</small>	教職2・3・4選	2

(P.128) 参照

(3) 教科に関する科目

【社会・地理歴史・公民】

科目名	担当者名	配当学科	単位
東洋思想史	すえ き やす ひこ 末木 恭彦	教職教科	4

講義のねらい

初めに、二つのことを断っておく。第一に「東洋思想」と題しているが、私は漢文による思想言説に限って問題とする。特に、中国と日本に限られるであろう。第二に、「思想史」と題しているが、通史や他の歴史現象との関連付けは主要な関心ではない。長い時間をかけて蓄積された、漢文文化の思想言説、その思想言説に光を当て、その一斑なりとも理解しよう——これが本講義の目指すところである。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、『経史博論』を手掛りにして上記の試みを行う。但し、『経史博論』そのものの理解を目指すのではない。この書は、中国思想（儒教的教養）の概説書である。近代の眼差しが入る以前の儒教の基礎的教養を、この書を通じて確かめることができる。授業では、この書を講読する。講読を通じて、その背景にある中国の思想言説の伝統の一端に觸れてゆきたいと考えている。

履修上の留意点

書き下し文が理解できる程度の基礎的教養が必要である。

成績評価の方法

成績判定は下記の材料を勘案して行う。1. 試験又はレポート（年1回以上）2. 平素の受講態度（年数回内容理解の調査を行う。なお、この調査は予告せずに行う。）3. 受講の積極性（質問、任意のレポートなどによって判断する。質問は書面で必ず質問者名を明記して提出して欲しい。）

教科書

授業は、講師が用意したプリントを用いる。参考書は適宜授業中に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
民間信仰論	たに くち みつぎ 谷口 貢	教職教科	4

講義のねらい

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていくことにしたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題に考察を加えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は、「人と神との交流」をテーマとしてとりあげ、東京都青ヶ島の神祭り、福島県会津地方の神社参拝を中心とした講集団、東北地方の巫俗文化、死霊結婚の習俗、山岳信仰と修験道、憑霊信仰などを題材にしながら、民間信仰の構造と機能を明らかにしていきたい。そして、民間信仰と成立宗教との関係や、成立宗教が地域社会に受容されて土着化していく過程で民間信仰がどのような機能を果たすのかについても分析の目を注いでいくことにしたい。

成績評価の方法

学年末に課題に基づくレポートの提出を求めて成績評価を行う予定。

教科書

使用しない。

参考書等

参考書として、桜井徳太郎著『日本民俗宗教論』（春秋社）、宮田登『日本人と宗教』（岩波書店）の2冊を紹介しておきたい。

その他

授業は講義形式で行う。講義に必要な資料等については、そのつどコピーで配付する。また、講義に関連したビデオを見る予定にしている。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
人 文 地 理 学 概 説	こ い い 池 と み 子	教職教科	4

講義のねらい

地理学における人文地理学分野を取り扱う。地理学的視点から、世界の諸地域の問題を検討することによって、現代世界の現状と課題を明らかにすることをめざす。

講義の内容・
授業スケジュール

現代世界の地域構成を理解するために、前期は主として民族・国家の観点から各地域における民族問題・地域紛争などを取り上げる。後期は経済地理学的視点から、経済発展と地域の変容を世界の諸地域について検討し、現在の課題を追求する。

履修上の留意点

地図帳を持参していただきたい。

成績評価の方法

試験を行う。また平常時のレポートも参考にする。

教 科 書

特に指定しない。講義時に資料プリントを配布する。

参 考 書 等

高校用地図帳（『新詳高等地図』帝国書院など。高校時代に使用したものがあればそれでもよい。）
その他の参考書は講義の中で順次紹介する。

そ の 他

授業は講義形式で行う。時々ビデオ、スライドなどを取り入れる予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
自 然 地 理 学 概 説	た か き ま さ ひ ろ 高 木 正 博	教職教科	4

講義のねらい

自然地理学の分野のうち、河川や地下水などにかかわる水の地理学を中心に講ずる。
近年、河川環境や地下水の汚染・保全などに関心が寄せられている。これらのテーマを考えるため、その基礎となる河川や地下水の水文特性について、地域事例をもとに説明する。

講義の内容・
授業スケジュール

年間の授業内容は次の通り予定している。
1. 自然地理学と水文学 2. 水文循環と水収支 3. 河川の流域とは 4. 日本の河川と洪水
5. 河川の侵食・運搬・堆積作用 6. 地形と災害 7. 都市の河川と水害 8. 自然湖沼と人造ダム湖
9. 地下水とは 10. 地下水と河川水 11. 地下水の利用 12. 地下水の汚染 13. 都市の水環境と地下水、など
地域事例を紹介する際、地形図や空中写真などを利用して地域調査の基礎についても概説する。

履修上の留意点

講義が中心になるが、受講者にも問題意識を持ってもらうため、夏休み中に現地調査を伴う課題を提示する。地概要域を把握するために、地図帳や地形図を利用してほしい。

成績評価の方法

年度末の定期試験と夏休みの課題レポートに重点を置いて評価するが、授業中に随時実施する課題などの平常点も加算する。

教 科 書

授業時間にプリントを配布する。

参 考 書 等

配布プリントをとおし随時紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
自 然 地 理 学 概 説	はや ふね げん ぼう 早 船 元 峰	教職教科	4

講義のねらい

人間生活の舞台である第四紀の大地の生成過程などを論じ、さらに自然に対し人間はいかにあるべきかを災害などの環境問題を通して考えていく。また、いくつかの地域をとりあげ、人間と自然とのかかわりあい（人間に対する自然の影響・自然への人間の働きかけ）を主に環境地誌的立場から論じる。

講義の内容・授業スケジュール

前半
 ・火山山麓における土地利用の変化と環境保全
 後半
 ・気温と湖水温の垂直分布の季節的变化と人間とのかかわり
 ・北海道本部の気候地形
 ・関東平野の地形発達史

履修上の留意点

国土地理院発行の地形図を数枚用意してもらい、それらをもとに種々の作業（高度別着色・地形断面図など）をして、理解を一層深めてもらう。直定規・方眼紙・トレース紙・硬質色鉛筆・黒色水性ペンを各自用意すること。

成績評価の方法

課題・レポート・出席状況などによる平常点。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 誌 学 概 説	かわ もと とよ かず 川 元 豊 和	教職教科	4

講義のねらい

南アジア・東南アジアの地誌について授業を進める。テーマは「地域の変貌」であり、主な対象地域としてバングラデシュとマレーシアを予定している。前半では、主にバングラデシュの村落を対象とし、1960年代後半以降の「緑の革命」にともなう農耕の変化や農業開発の過程で生じる地主・小作関係に根ざす土地問題や小作制度の変更、労働力の問題などについて考えてゆきたい。後半では、主にマレーシアを対象とし、多民族社会の地理的特徴や工業化・都市化にともなう村落の変貌などについて、最近の地域研究の成果を紹介してゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

①地域研究について ②稲作における「緑の革命」 ③バングラデシュ農村における近年の農業の変化 ④バングラデシュ農村における土地所有と小作制度 ⑤バングラデシュ村落の変貌と都市化 ⑥マレーシアにおける多民族社会の形成 ⑦半島マレーシアにおける地方都市の発展 ⑧サラワク州におけるイバンの生活

履修上の留意点

高校時代に使用したものでよいから、地図帳を持参して講義に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

出席及び前期末のレポート提出を前提とし、学年末の筆記試験と併せて総合的に評価する。

教 科 書

特に定めず、プリントを配布する。

参 考 書 等

授業内において、その都度紹介する。

そ の 他

講義中心の授業であるが、スライドやビデオの使用も予定している。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 誌 学 概 説	あら い さち ほ 新 井 祥 穂	教職教科	4

講義のねらい

農山村が現在直面する問題を、現場の感覚から理解すること。机上の空論や抽象的な議論が知らず知らずのうちに陥りがちな誤解に対して意識的になること。これらを通じて、「健全な」公共政策批判とは何かを考える。

講義の内容・
授業スケジュール

わが国の農村・山村・離島部では、かつて基幹産業であった第一次産業が長らく停滞しており、そこに居住する人々は、就業先の確保をはじめ生計の組み立て方に様々な困難を抱えてきた。高度成長期以降、これらの地域に多大な公共投資がなされてきたのもこうした理由による。

しかし、国家財政が逼迫するなかで、1990年代以降はこれまでのような政策的な介入が簡単には認められなくなってきている。つまり現在は、いったい何が公共的に解決すべき問題であるか、改めて吟味すべき時期にきているといえよう。この作業には、現場からの精確な情報とそれにもとづいた検討が不可欠であるが、これらの地域について、そしてそもそも政策と人間の関係については、理念やイメージが先行し、その経済・社会に政策が何をもたらしたかという本質的な情報は意外に少ない。

本講義では、日本の農村・山村・離島部がどのような経済社会であるのかについて、具体的に精確な理解を目指す。その際に、これまでの公共政策ではこれらの地域の内実がどのようなものと理解され、いかなる方向に誘導されていたのか、という点との比較を強く意識する。また随時、ヨーロッパや東南アジア等、海外の農山村の状況や関連する政策との比較も織り込む予定である。

履修上の留意点

参加者には休暇等を利用して自主的に農村・山村・離島部・海外を旅行し、地域のリアリティを体感することを期待する。

成績評価の方法

成績評価は夏期のレポート（1回）、年度末の試験（1回）の両方を課す。随時とる出席も考慮する。

教 科 書

特に指定しない。オリジナルな配布資料をこちらで用意する。

参 考 書 等

ピンチ著 神谷浩夫監訳 2001.『福祉の世界』（古今書院）

そ の 他

講義形式をとる予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
地誌学概説	はしづめ なおみち 橋詰直道	教職教科	4

講義のねらい

世界と日本の地域システムと地域の変容について学習する。特に、教職教科でもあるので、講義だけでなく地誌の教育と学習という観点から、小テストや地図作業なども取り入れたい。

講義の内容・授業スケジュール

①②地誌学とは何か（地誌と地理学、地誌の教育と学習）、③④地図を活用する（地図帳、主題図、地形図を読む）、⑤⑥日本の諸地域（風土と地域・自然環境の特色）、⑦⑧日本の諸地域（気候景観・地下資源の利用）、⑨～⑪日本の地域変容（農業地域）、⑫⑬日本の地域変容（都市地域）、⑭⑮日本の地域変容（地場産業地域・中山間地域）、⑯⑰災害と日本列島、⑱～⑳世界の諸地域（北米大陸、アメリカ合衆国）、㉑～㉓世界の諸地域（ヨーロッパ、イギリス）、㉔㉕世界の諸地域（東南アジア、中国）、㉖まとめ（テスト）

などについて、最近の地理学の地域研究成果を紹介しながら概説する。

講義だけでなく、地図の読図作業や地誌に関するテスト（高校生レベル）も随時実施したい。地図帳（高等学校で使用したものでよい）を持参すること。

履修上の留意点

毎時間の出席や授業への参加状況も重視する。

成績評価の方法

中間試験（7月最終授業日）及び学年末試験の両方を受験し、かつ授業への出席日数と試験（課題や小テストを含む）の成績が基準以上であるかどうかなどを総合的に評価する。

教科書

特に定めない。

参考書等

高橋伸夫・谷内達・阿部和俊・佐藤哲夫編『ジオグラフィー入門』（古今書院）1996年 2,575円

その他の参考書や論文は授業でテーマごとに紹介する。

その他

講義は、配布プリントとOHP、PC、ビデオ画像を利用して行い、課題や小テストも実施する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本史概説	でぐち ひろゆき 出口宏幸	教職教科	4

講義のねらい

日本の歴史を概説的に学ぶことにより、各時代の社会のあり方について考える。その際、できるだけ現代社会との対比をすることで、歴史上の問題をより身近な感覚で捉えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

古代～近・現代へと続く時代の流れには、いくつもの画期があり、社会的にも様々な変化を遂げてきた。そこで、日本の歴史を概説的に学び、その展開過程を考えることで、各社会を有機的に捉えたい。なかでも、近代社会の直前に位置し、幕藩体制が260年もの間続いた近世社会に注目し、その多様性と独自性などについて、時間が許す範囲で詳しく言及したい。

また、歴史を理解するには、政治・経済・文化、あるいは都市と農村など、様々な角度からのアプローチが可能であるが、できるだけその時代に生きた人々に焦点をあて、その生活をピットに描くことに努めたい。

歴史上に起こった事件や、いろいろな問題の背景を探りながら、その時代を体験する。そのことが年代や事件を記憶することから、一歩踏み込んだ歴史学の世界への入口になれば、と思う。

成績評価の方法

試験80% 平常点20%

教科書

特に指定しない。必要な資料はコピーを配布する。

参考書等

適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本史概説	くまもと ほん ふうお 熊本史雄	教職教科	4

講義のねらい

幕末から明治、大正、昭和を経るなかで、近代日本は国民国家を如何にして形成・発展させてきたのか、その過程について政治、外交、文学、ことば（「国語」の形成）などを切り口に講述する。これら各テーマは、近代日本が西洋を中心とした外の世界との接触において、その対向たる「内」の問題として還元されていったものである。

本講義では、そうした諸相における個々の検討を積み重ねることによって、「対外関係」という視点から全体を通して近代日本像の提示を試みる。

講義の内容・授業スケジュール

前期：近代日本の西洋体験／「国語」の創出／「国語」の海外進出と植民地政策
後期：近代日本の対外政策／政党政治の形成・展開と崩壊

履修上の留意点

歴史には「問」がある。「暗記する歴史」ではなく「考える歴史」、「発見する歴史」を。

成績評価の方法

前・後期2回の定期試験の成績、および出席状況で評価する。

教科書

とくに指定しない。

参考書等

伊藤 隆『昭和史をさぐる』（朝日文庫）1991年
中野目徹『書生と官員－明治思想史点景－』（汲古書院）2002年
細谷千博『日本外交の軌跡』（NHK ブックス）1993年
三好行雄編『漱石文明論集』（岩波書店）1986年
E. H. カーク著 清水幾太郎訳『歴史とは何か』（岩波新書）1962年

その他

基本的に講義形式で進め、必要に応じてレジュメと史料を適宜配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
世界史概説	いし い ひとし 石井 仁	教職教科	4

講義のねらい

今日の世界史教育の源流は、明治以来の西洋史・東洋史という歴史教科にあります。後者の東洋史は近代日本におけるアジア・オリエン研究－東洋学を母胎としていますが、この学問研究の成立と発展は、明治以来の日本の対アジア政策と密接にリンクしています。講義では、歴史教科としての東洋史の生い立ちをたどりながら、近世・近代のアジアの歴史を、中国社会の動向、ならびに日中関係を柱に考察します。

講義の内容・授業スケジュール

(前期) (1～3) 東洋の語源 (4～6) 帝国主義とオリエント学
(7～9) 東洋史の誕生 (10～13) 時代区分論争
(後期) (14・15) 唐宋変革 (16・17) 清王朝の成立
(18・19) アヘン戦争 (20・21) 太平天国運動
(22・23) 辛亥革命 (24～26) 日中戦争

履修上の留意点

講義を通して、歴史を学び、教えることの意味を考えて欲しい。

成績評価の方法

学期末試験・レポート（1～2回）の成績、および出席状況を総合的に評価します。

教科書

とりあえず配付プリントをもとに講義を進めます。

参考書等

参考文献は、講義で随時紹介します。

その他

講義形式で進めますが、適宜ビデオも活用します（とくに後期）。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
世 界 史 概 説	井 村 行 子 <small>い むら ゆき こ</small>	教職教科	4

講義のねらい

西洋史を中心に世界史を概説する。できるだけ情報量を制限して、考え方の筋道がつかみやすい授業を心がけたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1講 世界史の成立
- 第2講 古代オリエント
- 第3講 古代地中海世界（1）
- 第4講 古代地中海世界（2）
- 第5講 中世ヨーロッパ世界
- 第6講 ビザンツ帝国と正教世界
- 第7講 近世ヨーロッパ（1）
- 第8講 近世ヨーロッパ（2）
- 第9講 近世ヨーロッパの社会経済（1）
- 第10講 近世ヨーロッパの社会経済（2）
- 第11講 オスマン帝国と東ヨーロッパ
- 第12講 革命の時代
- 第13講 自由主義と発展主義
- 第14講 諸国民の春
- 第15講 帝国と国民統合
- 第16講 ベル・エポック
- 第17講 ハプスブルク帝国とラテンアメリカ
- 第18講 世界戦争の衝撃
- 第19講 大衆動員の時代
- 第20講 大恐慌と一国主義的分立状況の出現
- 第21講 社会主義的ユートピア
- 第22講 戦後世界と冷戦
- 第23講 冷戦の終結と新世界秩序
- 第24講 エスニシティとジェンダー

成績評価の方法

前期と後期の筆記試験の成績による。

教 科 書

近藤和彦編『西洋世界の歴史』（山川出版社）1999 3,200円（必ずしも購入しなくてよい）

参 考 書 等

開講時に世界史全般に関する文献目録を配布する。個々のテーマについてはその都度、必要性に応じて適宜紹介する。

そ の 他

歴史映画のビデオ等によって歴史的なイメージの喚起に努めたいが、扱わなければならない事項は多く、時間は限られているので、現実にはなかなかむずかしい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会学原論	わた なべ わと き 渡 辺 源 樹	教職教科	4

講義のねらい

社会学の主要な対象である社会的人間、集団、組織を柱に据え、加えて社会変動の問題を加味させた社会意識論を配置し、その各々を構成する主要な問題を講述する。そのためのものとして社会学の概念や理論を用いて、身近な社会現象をとらえて社会的な理解や認識を深めさせたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 授業内容とそれに必要な準備
- 第1回 社会学とは何か
社会的事実／実証性 “予期せんがために見る” ／社会的分析／現代社会学の領域と方法
- 第2回 社会的行為
なぜ “action”からなのか／社会の基礎的単位としての行為／行為の社会性・歴史性
- 第3回 相互行為・社会関係・社会過程
人間の行為は “nter”して社会的となる／人間関係・社会関係・国際関係／交換／社会過程
- 第4回 社会的役割の基本公準
1、役割の取得－社会化 フロイドとパーソンズの “社会化の過程” を中心に
- 第5回 2、役割の準拠－準拠集団 準拠枠／所属集団と準拠集団／動機と態度の概念
- 第6回 3、役割の葛藤－マージナル・マン アイデンティティとモラトリアム／マージナルマンとして青年期／マージナルマンとしての職場人間
- 第7回 社会統制と逸脱行為
1、規範と同調－逸脱の次元 行為と社会的秩序／サンクション・パターン
- 第8回 2、ラベリングと予言の自己成就 印象操作／シンボルとシンボル操作／逸脱とラベリング／予言の自己成就
- 第9回 アノミー デュルケムのアノミー、マートンのアノミー論 マクロ社会学とミクロ社会学
- 第10回 社会集団
- 第11回 1、社会集団とは何か 集団の特質／集団の分類／家族と企業体
2、社会有機体説と構造・機能／機能連関／機能要件 (AGIL 図式)
- 第12回 3、集団と構造と機能 地位と役割 集団の単位としての役割／ロールセット、地位系列／業績的地位・帰属的地位
- 第13回 4、集団のリーダーシップ 集団目標／集団効果性／ホワイトのリーダーシップ論／PM 理論とリーダーシップ
- 第14回 5、集団の凝集性・モラル 同調への圧力・斉一性／集団規範／凝集性を高める条件／モラル
- 第15回 前期試験 集団・文化・パーソナリティ
- 第16回 組織論と官僚制
1、組織の一般理論 現代社会と組織体／組織の一般理論
- 第17回 2、官僚制組織の基本原則 ウェーバーの支配の3類型／官僚制組織の基本原則(ウェーバー、ミヘルス)／支配・権力・権威
- 第18回 3、官僚制組織の動態 官僚制組織における “目標の転移” ／ホーソン実験／グールドナー、ブラウの官僚制論
- 第19回 社会意識
1、社会意識とは何か 社会意識の2つの途／マルクスとウェーバー
- 第20回 2、ウェーバーのエートス論 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を中心として
- 第21回 3、社会的性格
イ、フロムの社会的性格 「自由からの逃走」を中心として
- 第22回 ロ、ミルズ、リースマンの社会的性格 「ロンリー・クロード」を中心として
- 第23回 4、社会的態度 (社会心理) 行為の科学的説明／ニューカムの社会的行動の説明図式
- 第24回 全体社会の構成
1、経済と社会…経済と経済社会学／産業社会・消費社会／経済の国際化・従属理論
- 第25回 2、政治と社会…政治と政治社会学／権力／政治文化
3、法と社会…法と法社会学／法の機能／規範
4、教育と社会…教育と教育社会学／学歴と社会移動
- 第26回 社会成層の社会学 階級と階層／職業構成／社会移動／地位の一貫性・非一貫性／成層研究の課題

成績評価の方法

定期試験（有り）、レポート（有り）。

教科書

開講時に提示。

科目名	担当者名	配当学科	単位
宗教人類学	佐藤憲昭	教職教科	4

講義のねらい

宗教人類学は、文化人類学の視点と方法から諸民族の宗教文化について比較研究をする学問である。そして、その営為を通して「人間とは何か」という問題に答えようとするものである。本年度は、人類に根源的・普遍的な文化のひとつに数えられている「シャーマニズム」を取り上げ、宗教人類学の考え方について習得することを目指す。

シャーマニズムとは、神霊と直接交流をしながら、予言、託宣、祭儀、治病行為などの役割を果たす人物（＝シャーマン）を中心とする宗教現象である。この現象はあらゆる宗教と結びつく性格を具えている。内外の事例を紹介しながら、多角的に考えてみたい。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は、1. 文化人類学・宗教人類学・宗教民族学、宗教民俗学、2. フィールドワーク、3. 人類学の方法論的特色、4. アニマ（霊）とマナ（力）、5. 民俗宗教の特質、6. 呪術—宗教的職能者の分類などについて具体的に考察する。後期は、1. シャーマニズム研究史、2. シャーマンの特質、3. 脱魂文化と憑霊文化、4. 都市のシャーマニズム、6. シャーマニズムと仏教文化などのテーマのもとに考えてみたい。

履修上の留意点

欠席をする場合（または欠席をした場合）には、欠席届（形式は任意）を提出することが望ましい。

成績評価の方法

学年末のレポートで評価する。合格の基準は、1. 講義内容を踏まえていること、2. 参考文献を読みこなしていること、3. みずからの言葉で論じていること、の三点にある。なお、不合格の場合には、出席点を加算して最終評価を行う予定。

教科書

使用しない。

参考書等

授業中に適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	はたけ なか たかし 島 中 貴	教職教科	4

講義のねらい

ミクロ経済学の基礎的な内容（家計が行っている経済活動、企業が行っている経済活動、市場メカニズムが果たしている基本的な役割、市場メカニズムがうまく機能しないケース）を一通り講義する。初歩的な数学（関数、微分）も併せて一から講義する。

この講義の目標とするところは、以下の2点である。

- (i) 経済のありさまを自分なりに把握するための技術を身につける。
- (ii) 論理的な思考ができるようになる。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は基本的に教科書に沿って行う。数学については、適宜プリントを配布する。

- (前期) (1) ガイダンス (2~4) 序章 (需要と供給)
(5~7) 第1章 (消費の決定) (8・9) 第2章 (労働供給と貯蓄)
(10~12) 第4章 (企業と費用) (13) 前期末試験
- (後期) (14~16) 第5章 (生産の決定) (17~19) 第6章 (競争均衡)
(20~22) 第7章 (独占と不完全市場) (23・24) 第11章 (生産物市場と不完全情報)
(25・26) 第14章 (外部性と環境)

履修上の留意点

(1)で挙げた目標を達成するためにはまず、教科書に書かれている内容を正確に理解し、ミクロ経済学の理論体系をしっかりと頭に入れる必要がある。抽象的な理論の内容は、一度説明を聞いていただけではなかなか頭に入らない。根気よく予習・復習を行い、1年を通して頭を働かせ続けることが肝要である。

成績評価の方法

基本的に二度の期末試験の総合評価。前期末試験、後期末試験のうちどちらか一方でも受けていなければ、単位を与えることはできないので注意すること。追・再試験は実施する。

教 科 書

ジョセフ・E・スティグリッツ著、藪下史郎他訳『スティグリッツ ミクロ経済学』第2版
(東洋経済新報社) 4,400円+税

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	あきの かつみ 浅野 克巳	教職教科	4

講義のねらい

現代経済学は「マクロ理論」と「ミクロ理論」からなる。「マクロ」とは大きいという意味を持ち、「ミクロ」は小さいという意味を持つ。このコースでは経済全体の動きを分析する「マクロ理論」の基礎を勉強する。具体的に言うと、景気の良し悪しは何によって決まるか？物価の変動はどのような要因によるものか。現在わが国の失業率は上昇傾向にあるというが、その要因は何か？さらに政府の経済活動についてどのように考えるべきか。また輸出・輸入、経常収支といった外国との経済関係をどのように捉えたらよいか。マクロ理論はこれらの疑問に答えるきわめて日常的で身近な分野であるといえる。しっかり勉強すれば、面白くてためになる「一粒で二度おいしい」基礎コースだ。なお、上に述べたように「ミクロ理論」とはペアであるから、必ず両コースを履修することが現代経済学を体系的に勉強するためには不可欠である。

講義の内容・授業スケジュール

年間のスケジュールは以下のとおりであるが、理解しにくいトピックスには十分時間をかけ説明するが、テキストなどで「読めばわかる」箇所は簡単に済ませ時間の節約を心がけたい。

1. マクロ経済活動とマクロ経済学の考え方
2. 国民経済計算と国民所得の考え方
3. GDPとは何か、それはどのようにして決まるのか
4. 独立支出の変化とGDPの関係
5. 消費と投資
6. IS-LMモデルと財政金融政策
7. インフレとデフレについて
8. 国際貿易
9. 政府の経済的役割
10. 総需要と総供給
11. 貨幣とマクロ経済
12. 貨幣政策と金融政策
13. 為替市場と金融政策
14. 経済成長と景気循環

履修上の留意点

現代経済学を勉強する上で不可欠なことは、実際の経済問題に強い関心を持つことだ。これらはさまざまなメディアをとおしてあふれるほど提供されている。とくに『日本経済新聞』やその他の新聞には毎日必ず目をとおすこと。授業でも関連する記事やデータは参考にするので、できるだけスクラップブック等に整理しておくことよ。これは授業だけでなく、将来の就職活動に際しても役立ちおすすめ。

また、経済学を理解するために数学の知識が必要だといわれるが、入門的コースで使う数学は高校の基礎解析あるいは代数程度で十分。必要に応じて授業の中でも説明するが、要は「習うより慣れる！」のつもりで反復練習に限る。

ついでに、初心者でも使いやすいコンピュータのソフトが「駒澤大学情報センター」に常備されている。それらを使ってシミュレーションしてみることも、面白く経済学を学ぶ方法だろう。ともあれ、授業には必ず出席し、ノートをしっかりととり、予習復習を実行すれば100点取るのも夢じゃない。なお授業中は、私語厳禁、勝手に席を立たないこと、ケイタイなどもってのほか、以上厳守。守れない者は直ちに退席してもらう！

成績評価の方法

定期試験とレポートの成績を総合評価する。

教科書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』（成蹊堂）1995年。

参考書等

青山『経済原論の頻出問題』（実務教育出版）2004年。これは公務員試験の問題集だけど他の国家試験の受験対策にも十分通用する。できる限り問題練習をすることも理解を確実にする近道だ。自分で復習をかねて解いてみることをとくにお勧めする。

その他

毎回の授業の内容や主なトピックスをKOMSYに掲載するし、経済学部浅野ゼミのHPにも練習問題やその模範解答を載せるから、必要に応じ参考にしてください。また授業中わからないこと、その他問題点などあったら、いつでも質問相談に応じます。オフィスアワーを設けていますのでご利用ください。

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済原論	あら き よし ひろ 荒木 勝 啓	教職教科	4

講義のねらい

乗数理論の完全理解、貨幣の役割と信用創造理論、IS-LM-BP 曲線による国際経済と国内経済の関係の理解、経済成長と技術進歩の理解という5つのメインテーマを中心にマクロ経済理論を学習する。

講義の内容・授業スケジュール

授業の内容は次の通り。

- | | |
|-------------------|---------------------------------------|
| 1. 国民経済の成立 | 13. LM 曲線 |
| 2. 所得の循環図式 | 14. 投資関数 |
| 3. 国民所得の概念 | 15. IS 曲線 |
| 4. 国民所得の決定 | 16. IS=LM 曲線による均衡実質国民所得の決定 |
| 5. 政府・輸出入の導入 | 17. マンデル=フレミングの定理 |
| 6. 乗数理論 | 18. IS=LM=BP 曲線による国際経済と国内経済の
関係の理解 |
| 7. ビルト=イン=スタビライザー | 19. コブ=ダグラス生産関数に基づく経済成長率の算出 |
| 8. 貨幣とは何か | 20. ハロッド=ドーマーモデル |
| 9. 信用通貨の成立 | 21. 新古典派成長理論 |
| 10. 信用創造理論 | 22. 期待理論その1 |
| 11. 貨幣数量説と古典派学説 | 23. 期待理論その2 |
| 12. 流動性選好説 | |

成績評価の方法

再試験実施。

教科書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』（成陰堂）

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済原論	お の てつ じ 小野 哲 司	教職教科	4

講義のねらい

この授業ではミクロ経済学の初歩的な講義を行う。学科、学年とも様々な人が受講する授業なので、経済学の知識がゼロでも理解できるように、最も基本的なところから話を進めていく。

講義の内容・授業スケジュール

経済分析の基本である需要曲線と供給曲線の性質およびその変化、需要と供給の均衡についてまず理解してもらおう。その後消費者余剰分析、独占均衡との比較、外部性の考慮など、均衡分析の応用を講義する。以下のような内容を予定している。

- | | |
|---|--|
| 1. 消費と需要
消費行動と需要
需要曲線の性質
需要曲線の移動 | 5. 独占
競争と独占の比較
寡占とゲーム理論
競争促進政策 |
| 2. 生産と供給
企業行動と費用
費用と供給曲線
供給曲線の移動 | 6. 外部性
私的費用と社会的費用
外部不経済と課税・補助金 |
| 3. 需要と供給の均衡
競争と市場の均衡
経済状況の変化と価格の変化 | 7. 無差別曲線分析
無差別曲線
需要曲線の導出
労働供給分析などへの応用 |
| 4. 生産の社会的利益
消費者余剰
生産者余剰 | |

成績評価の方法

基本的に試験による。中間試験および学年末試験の2回実施する。

教科書

授業中にプリントを配布するので、いまのところ教科書使用の予定はない。

参考書等

授業の中で言及する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 法 I	おおみや たかし 大 宮 隆	教職教科	4

講義のねらい

民法という法律は、日常の社会生活(財産関係と家族関係)を規律の対象とし、総則・物権・債権・親族・相続の五編に編別されている。本講の対象は、第一編総則、第二編物権である。なかでも総則は、全編に共通な規定と、どの編にも入れることができない規定を集めて構成されているので、抽象的な法文形式が多い。よって講義においては、具体例を挙げてわかりやすく説明したいと思っている。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 民法の意義
- ② 民法典の編別
- ③ 民法の指導原理とその修正
- ④ 自然人
- ⑤ 法人
- ⑥ 物
- ⑦ 法律行為
- ⑧ 期間
- ⑨ 時効
- ⑩ 物権変動
- ⑪ 占有権
- ⑫ 所有権
- ⑬ 地上権
- ⑭ 永小作権
- ⑮ 地役権
- ⑯ 留置権
- ⑰ 先取特権
- ⑱ 質権
- ⑲ 抵当権

履修上の留意点

講義には六法持参のこと。講義終了時に次週の予告をするので、教科書を読んてくること。

成績評価の方法

年度末の定期試験と出席状況を総合して評価する。

教 科 書

『新民法概説(1) 総則・物権』(有斐閣双書) 1,900円

参 考 書 等

講義の中で随時紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政 治 学 原 論	井 戸 正 伸 <small>い と ま さ のぶ</small>	教職教科	4

講義のねらい

大学で学ぶ政治学は、高校の「政治・経済」、「日本史」、「世界史」(特に、近現代史の部分)の理解を前提としています。大学の政治学が難しいという場合、意外にも(?)、学生の皆さんの高校での授業内容の理解があやふやである、ということがその理由となっていないでしょうか? この講義では特に、高校の「政治・経済」と大学の政治学との橋渡しを行うことによって、政治学への導入を試みたいと思います。

講義の内容・
授業スケジュール

次のスケジュールで、授業を進めていきます。

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 大学における政治学とは? | 13. 日本における議院内閣制 |
| 2. 社会契約説 | 14. 日本の利益集団 |
| 3. アメリカ建国の政治思想 | 15. 日本の選挙 |
| 4. 反革命の政治思想 | 16. 日本の政党 |
| 5. 自由主義の政治思想 | 17. 日本の地方自治 |
| 6. 社会主義の思想 | 18. 国際連合 |
| 7. 20世紀の思想 | 19. 冷戦から「文明の衝突」へ? |
| 8. 政治制度：議会制と大統領制 | 20. 民主政治と平和 |
| 9. 現代民主政 | 21. 国際政治と人権 |
| 10. 非民主的体制 | 22. むすび |
| 11. 政党と政党制 | |
| 12. 日本の国会と立法過程 | |

履修上の留意点

教科書に沿って、授業を進めていきますので、予習をして講義に出てください。

成績評価の方法

出席、中間試験、期末試験の成績にもとづいて、総合的に判定する。

教 科 書

松本・川出『近代国家と近代革命の政治思想』(放送大学教育振興会) 2,000円
眞柄・井戸『比較政治学 改訂版』(放送大学教育振興会) 未定
村松・伊藤・辻中『日本の政治』(有斐閣) 2,000円

参 考 書 等

その都度、プリントを配布します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 宗 教 文 化 史	お ^{がわ} 小 ^{とし} 川 ^{ゆき} 順 敬	教職教科	4

講義のねらい

日本の他界観、生死観の変遷を考える。
われわれの文化は（われわれの文化ばかりではありませんが）自分たちが生きているこの世界の他に、もう一つ別の世界や空間を創り出してきました。そして、それはわれわれに、いかに生きいかに死ぬかという問題を考えさせる文化装置として機能してきたと言えます。（現代社会においても、他界のイメージこそ異なるでしょうが、それは一定の役割を果たしていると言えるでしょう。）
ここでは、日本の伝統的な他界や仏教がもたらした他界のイメージが、生と死の文化装置として、どの様に具体化されてきたのか、すなわち他界という見えない世界がどのように表現され演出されてきたのかを考えてみることにしたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

最初に他界観の前提としての日本人の靈魂観について述べ、「生と死」をわれわれがどのように考えてきたのかを整理しておきたいと思います。その上で、様々な「他界」について紹介・検討して行きたいと思います。
山中他界や海上他界、あるいは浄土や地獄がどのように実現されているのか。様々な聖地や、民俗行事（祭礼や儀礼）、寺院行事、また物語、芸能などを題材（ビデオ等使用する予定）として、この世では見えないはずの他界が、この世でどのように表現されてきたのか、そしてこの世と他界がどのように結ばれているかを見て行きたいと思います。

成績評価の方法

レポートその他で評価する。

教科書

教科書・参考書は用いない。なお授業の内容にそって資料を配布する。また参考書はそのつど紹介することにしたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 衆 宗 教 成 立 史	っ ^{しろ} 津 ^{ひろ} 城 ^{ふみ} 寛 文	教職教科	4

講義のねらい

この講義は、民衆宗教の前提となる、基層文化、民衆文化、深層文化などと呼ばれるテーマを、日本を領域として考察し、民衆宗教、民俗宗教の理解に役立つことを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

テキストにそって、歴史的深層、文化・心理的深層、民族主義的な深層、宗教文化の深層について、解説を加えながら進める。

履修上の留意点

基本的に板書はしないので、テキストを必ず準備すること。

成績評価の方法

成績評価は、講義中の態度、質疑、随時のレポート、学期末の最終レポートの総合によって行なう。基本的に出席はとらない。

教科書

津城寛文『日本の深層文化序説』（玉川大学出版部）1990年

参考書等

参考書は、テキストに掲載してあるほか適宜紹介する。

その他

とくになし。通常の講義スタイル。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 学 概 説	いけ がみ よし まさ 池 上 良 正	教職教科	4

講義のねらい

テーマは「生活の中の宗教」。現代人にも身近な生活のトピックを取り上げ、比較宗教学的な視点から考察する。

講義の内容・授業スケジュール

具体的なトピックとしては、「儀礼と祭り」「弔いと供養」「イスラームとは何か」「憑依の諸相」などを考えている。各種のビデオを活用したい。

履修上の留意点

学生参加型の授業とする。受講者には最低1回は発表してもらう。

成績評価の方法

課題の発表、授業中の議論、出席状況から、総合的に評価する。

参 考 書 等

講義のなかで適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 学 概 説	あらい けん 洗 建	教職教科	4

講義のねらい

宗教学は、宗教現象を実証的に研究し、宗教を信じるのが、人間生活や社会にどのような意味を持ち、どのような働きをするものであるかを明らかにしようとする学問である。宗教学においてこれまでどのような研究が行なわれ、どのようなことが明らかにされたのかを概観し、宗教学的ものの見方を理解してもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

宗教学の立場、原始宗教、神と法、宗教的世界観、宗教儀礼、宗教と社会、宗教体験、宗教の機能などについて考察する。

履修上の留意点

事実を覚えることより、宗教学の考え方を理解してもらいたいので、できるだけ出席してもらいたい。私語のないように願う。

成績評価の方法

期末試験による評価を原則とするが、出席点、レポート提出なども配慮する。

教 科 書

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）940円＋消費税

参 考 書 等

その都度、指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 学 概 説	津 城 寛 文 <small>つ しろ ひろ ぶみ</small>	教職教科	4

講義のねらい

宗教のもつさまざまな側面のうち、ここでは、人間が他界を志向するという面と、信仰は社会的表現をとるという面と、この二面に注目し、「宗教と他界」「宗教と社会」という大きなテーマの中で、宗教の多面性を考える。

講義の内容・授業スケジュール

「宗教と他界」のテーマの中では、呪術、シャーマニズム、スピリチュアリズム、神秘主義、死後生命の信仰、などを論じる。「宗教と社会」のテーマの中では、政治と宗教、市民宗教、公共宗教、現代宗教、などを論じる。

履修上の留意点

宗教に関心のない者、知的向上心の弱い者は、履修を遠慮してもらいたい。

成績評価の方法

成績評価は、講義中の態度、質疑、随時のレポート、学年末の最終レポートの総合によって行なう。基本的に出席はとらないので、自主的な参加と、自主的な学習意欲が求められる。

教科書

テキストは用いない。

参考書等

参考書は、適宜紹介する。

その他

とくになし。通常の講義スタイルである。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
哲 学 概 説	末 木 恭 彦 <small>すえ き やす ひこ</small>	教職教科	4

講義のねらい

哲学とは何であろう。そして、それは人生に如何なる意味を持つのであろうか。一哲学を学ぶ以前にこの様な問いがある。この問いにこそ、この講義を通じて探究を試みる。始めに述べた問いは、我々東アジアの人間にとっては極く自然である。何故なら、東アジアの学問の伝統の中には哲学なる学問は無かったからである。この地域では近代欧米諸国文化の強い圧力下に、新しい学問として哲学を成立させた。その時、唯翻訳するのではなく東アジアの伝統的学問を再構成して、哲学として成立させようと努力する一群の人々もいた。中国にあって、伝統をふまえて独自の哲学を試みた人々の仕事を紹介し、それを通じて冒頭の問いに我々なりの見解を持ちたい——そのような企図の下に、この講義を行う。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、中国の近代哲学者として最も世界に名を知られた馮友蘭を取挙げる。始めに彼の哲学の背景を理解するために、伝記を紹介する。その後、彼独自の哲学新理学の主要著作の中から『新原道』の学説を紹介する。

成績評価の方法

次のものを材料にして成績をつける。

1. 試験あるいはレポート
2. 平常の受講態度（年数回抜き打ちの理解調査を行う）
3. 受講をこえる積極的な学習（任意のレポート、質問〈書面で提出して貰う〉などで判断する）

教科書

『馮友蘭自伝』、馮友蘭『新原道』（ともに和訳はないので、必要箇所を講師が訳し編集したものをプリントして配布する。中文版については授業中に解説する。）

参考書等

馮友蘭『哲学回憶録』（吾妻重二訳、『みすず』275号～284号）／柿村峻・吾妻重二訳『中国哲学史』（富山書房）／佐藤慎二編『近代中国の思索者たち』（大修館書店）

科目名	担当者名	配当学科	単位
哲学概説	久保陽一	教職教科	4

講義のねらい

哲学は、個別的領域を没価値的に扱う科学とは異なって、世界が全体としてどのようなものか（物質的か非物質的か、合理的か非合理的か、固定的か流動的か、関係的か孤立的かなど）を理解しつつ、その中で人間はどのような振舞い方をし、どのような価値基準を選択すべきかを考える学問である。それを探求するには、（１）過去の哲学者の学説を研究する、（２）自ら事柄そのものを体系的に考察する、（３）他の領域、とりわけ現代の科学技術や社会の諸問題との関連において考える必要があるだろうが、この講義では（１）のアプローチに重点を置くことにする。特に、近代哲学を集約し、現代でも意味を失わないドイツ観念論の哲学を講義の材料として取り上げることにする。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) カント哲学（認識論、自由論、美の哲学）
- (2) フィヒテの自我哲学とその周辺
- (3) ヘルダー、シラー、ヘルダーリンの歴史と美の哲学
- (4) ヘーゲル哲学（宗教思想、社会哲学、弁証法）

履修上の留意点

よく出席し、ノートを取ることが大切である。講義で理解できない点があれば、遠慮なく質問するようにしてもらいたい。

成績評価の方法

出席状況、中間と期末の試験、レポートなどによって評価する。

教科書

久保陽一『ドイツ観念論への招待』（放送大学教育振興会）

参考書等

開講時に挙げる。

科目名	担当者名	配当学科	単位
倫理学概説	河谷淳	教職教科	4

講義のねらい

倫理学とは「人間の行為がかかわる限りでの善悪についての学」だと定義できよう。しかしながら、これはあくまで暫定的な定義にすぎず、その十全な意味は「人間」・「行為」・「よい」とは何かという点にかかっている。この問題を考えるにあたり、本講義は次のような二段構えの構成を採る。すなわち、一方では（a）古代ギリシア以来の西洋思想史における様々な倫理観を取り上げることでそうした倫理思想と現代との関係を考え、他方で（b）現代倫理学の諸問題とそのアプローチの仕方を取り上げることで私たちに身近なことがらを「倫理的に考える」とはどういうことなのかを考えることにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 本講義では概ね次のような内容を取り扱う。
- 前期 (a) 西洋倫理思想史
 徳倫理学（古代ギリシア）：プラトン、アリストテレス
 義務論：カント
 功利主義：ベンサム、ミル
- 後期 (b) 現代倫理学の諸問題
 生命倫理を中心とした応用倫理の諸問題
 （インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、クローン技術などをめぐる諸問題）

履修上の留意点

授業を受け身的に聴くというよりは一緒に問題を考えていくという積極的な姿勢が望ましい。

成績評価の方法

中間・期末試験（それぞれ40点満点）と夏休みレポートと出席状況の総合点で評価する。

【職業】

科目名	担当者名	配当学科	単位
産業概説	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職教科	4

講義のねらい

現代経済社会の基礎である産業の概要を説明していく。

講義の内容・授業スケジュール

日本経済の成長と低成長
戦後の産業構造と工業構造の変化
産業のグローバル化と産業の空洞化
経済のサービス化・ソフト化
中小企業とベンチャービジネス
先端技術産業
各産業の動向

履修上の留意点

授業参加において、新聞の経済欄や産業欄には目を通しておくこと。

成績評価の方法

レポートや平常点で成績評価をする。

教科書

開講時に提示する。

参考書等

開講時に提示する。

その他

工場見学実施予定

科目名	担当者名	配当学科	単位
職業指導	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職教科	4

講義のねらい

- ①職業指導の歴史と理論及び方法について考えていく。
- ②現代の産業・職業を理解していく。

講義の内容・授業スケジュール

憲法第22条と第27条について
勤労観・職業観について
現代の産業・職業について
職業教育と職業指導の歴史
職業指導の理論と方法
学校における職業指導の実際

成績評価の方法

レポートや平常点で成績評価をする。

教科書

開講時に提示する。

参考書等

開講時に提示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 実 習	ま え だ ゆ き か ず 前 田 幸 一	教職教科	4

講義のねらい

商業活動の事務処理における基礎的な知識及び技術を習得する。

講義の内容・
授業スケジュール

国民経済における商業活動を概観する。
簿記の基本原理
手形・小切手の取扱い
企業の事務文書の作成
決算報告書
事業所における実習

成績評価の方法

平常点とレポートで成績評価をする。

教 科 書

開講時に指示する。

参 考 書 等

開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
農 業 実 習	ふる さ わ こう そう 古 沢 紘 造	教職教科	4

講義のねらい

日本の農業は土地不足、生産コスト高騰、高齢化など多くの問題を抱えている。そうした中で、保護貿易主義の高い壁を守り続けることで、日本農業の窮地を救うのか、それとも生産基地を海外に移すのかという二者択一の選択を迫られている。
本実習では、農作業体験を通して、農業が食料生産だけでなく、多様な公益的機能（たとえば洪水防止、教育効果、自然文化資源の提供など）を果たしていることを学んでもらいたい。

講義の内容・
授業スケジュール

数回の農作業体験を行う。農村での合宿も計画している。

履修上の留意点

実習を受け入れてくれる農家に迷惑をかけることにならないよう、それなりの心構えで参加すること。

成績評価の方法

農作業体験に基づき、食農教育をいかに考えたらよいかについて、レポートを提出、それにより評価を行う。

【商 業】

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
職 業 指 導	ま え だ ゆ き か ず 前 田 幸 一	教職教科	4

(P.97) 参照

[フレックスB・第2部]

(1) 教職に関する科目 (必修)

科目名	担当者名	配当学科	単位
教職入門 (後期)	いそ やま すずむ 磯山 進	12年度以降入学生/教職1必	2

講義のねらい

近年は、メディアはもとより地域・住民の学校教育に対する関心が一層高まり、教員の在り方についても厳しい目が向けられているが、それは他面では学校教育に対する期待のあらわれでもある。かかる動向を踏まえて、本講義では、地域・住民の信託と生徒の期待に応える学校教育を如何に展開していくかについて、教育の理念と教育法規の視点から考察してゆく。

講義の内容・授業スケジュール

1. 学校教育の目的について 2. 教育課程の編成について 3. 学習指導と評価について 4. 生徒指導と教育相談について 5. 進路指導について 6. 特別活動の意義について 7. 学級経営について 8. 学校の管理・運営について 9. 校務分掌について 10. 教育活動の評価について 11. 教員の資質・能力と研修について 12. 教育実習について 13. 教員の採用、地位と身分について 14. 教育改革について 15. 総合的な学習の時間について

履修上の留意点

教職を志望しているか、教育に関心を持っている人の履修を期待します。

成績評価の方法

レポート、出席状況等で総合的に評価する。

教科書

教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

参考文献は授業の中で示す。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育の思想 (前期)	いとう しげき 伊藤 茂樹	教職2必	2

※経A・法Aおよび商・政治・営Aの12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

私たちが今日知っている学校教育という営みは、近代という時代の到来とともに出現した制度であり、また近代社会を成り立たせる不可欠の制度でもある。この「公教育」のバックボーンとなった思想、歴史的経緯、その特色や社会的帰納について概観し、今日の教育やそれが直面する諸問題について考えるための手がかりを探索する。

講義の内容・授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。
・近代社会と教育
・学校という場

履修上の留意点

自分が通ってきた学校やそこで受けてきた教育について、批判的に再考する姿勢を求める。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 と 社 会 (後 期)	伊 藤 茂 樹 <small>いとうしげき</small>	教 職 2 必	2

※経 A・法 A および商・政治・営 A の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

学校教育という営みは社会のあり方や他の諸領域に広く影響されると同時に、社会に影響を及ぼす関係にある。また一方で、学校という場もひとつの社会を形成している。こうした観点から、現代社会における学校教育が直面している諸問題や、これからの時代に学校教育が向かおうとしている方向性について、多面的に考えていく。

講義の内容・
授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。

- ・現代の教育問題
- ・教育改革の現在

履修上の留意点

ふだんから教育に関するニュースに気をつけ、自分なりに考えることを心がける。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教 科 書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

そ の 他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
発達と学習の心理学(前期)	かわ だ みつ お 夫 川 田 三 夫	教職2必	2

※経 A・法 A および商・政治・営 A の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

- 1) 子供の成長・発達の概要を理解する。
- 2) 学習心理学の基本的な事項を理解する。
- 3) 発達に影響を与える広義の環境の問題について考える。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) ガイダンス、発達や学習をめぐる現状と問題点
- 2) 発達や学習の理論、乳児期・幼児期の発達の特徴と留意点
- 3) 児童期の発達の特徴と留意点
- 4) 青年期の発達の特徴と留意点
- 5) 青年後期・成人期の発達の特徴と留意点
- 6) 人格の発達と問題点
- 7) 社会性の発達と問題点
- 8) 情緒や性意識の発達と問題点
- 9) 交友・対人関係の発達と問題点
- 10) 若者文化や社会風俗の歴史的変遷と現状の問題点
- 11) 青少年の非行等の問題行動
- 12) 人格障害、情緒障害、神経症的な問題行動等
- 13) 学校生活をめぐる諸問題
- 14) 試験

履修上の留意点

- 1) 教科書は指定せずレジメ、資料等を配布し講義を行う。
- 2) 板書を少なくして、学生自身がノートを取るようにさせている。
- 3) 日頃から努力して言葉や文章力を高めてほしいと思っている。

成績評価の方法

- 1) 学期末に定期試験を行う。
- 2) それ以外にも不定期に小試験（論述、レポート）を行うことがある。
- 3) 授業の際に口頭試問や提出物もあり、評価の際に考慮される。
- 4) 以上の合計得点で所定の基準に従い評価される。

教 科 書

『よくわかる発達と学習』（福村書店）2,400円

参 考 書 等

参考文献は授業中に適宜紹介する。

そ の 他

- 1) 授業の方法は講義が中心だが、毎回何らかの形でいろいろ質問される。
- 2) 現実を見聞しながら色々なことを考えてほしいと思っている。
この科目は、平成11年度までに「教育心理学」「青年心理学」の単位を取得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
カリキュラムと学習(後期)	かわ だ みつ お 川 田 三 夫	12年度以降入学生/教職2必	2

※経 A・法 A および商・政治・営 A の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

- 1) 教授－学習課程に関わる基本的な事項を学習する。
- 2) 教育目標、教育課程を中心に学習活動の効果的な展開について考える。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) ガイダンス、発達と学習（教育）をめぐる現状と問題点
- 2) 発達と学習
- 3) 学習理論の基本と応用
- 4) 教育学・教育心理学の基本と応用
- 5) 教育理論や方法の歴史の変遷、現状と課題
- 6) 教育目標
- 7) 教育課程（学校教育の基本について）
- 8) 教授－学習過程（学習指導、学級集団、生徒指導）
- 9) 教育評価の歴史の変遷、現状と課題
- 10) 学習指導要領（改訂の歴史、『学校教育法』、『学校教育法施行規則』等）
- 11) 総合的学習、職業教育、生涯学習、障害児教育
- 12) 学校、教師、生徒の諸問題（授業時間、教科書、教科書検定、等）
- 13) その他（教員養成、教員採用の問題、教育制度・教育行政等の問題、等）
- 14) 試験

履修上の留意点

- 1) 教科書は指定せずレジメ、資料等を配布し講義を行う。
- 2) 板書を少なくして、学生自身がノートを取るようになっている。
- 3) 日頃から努力して言葉や文章力を高めてほしいと思っている。

成績評価の方法

- 1) 学期末に定期試験を行う。
- 2) それ以外にも不定期に小試験（論述、レポート）を行うことがある。
- 3) 授業の際に口頭試問や提出物もあり、評価の際に考慮される。
- 4) 以上の合計得点で所定の基準に従い評価される。

教 科 書

『よくわかる発達と学習』（福村書店）2,400円

参 考 書 等

参考文献は授業中に適宜紹介する。

そ の 他

- 1) 授業の方法は講義が中心だが、毎回何らかの形でいろいろ質問される。
- 2) 現実を見聞しながら色々なことを考えてほしいと思っている。
この科目は、前期に「発達と学習の心理学」を履修することを原則とします。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育とメディア(後期)	いし ばし たつ や 石 橋 達 也	教職2・3必	2

※経A・法Aおよび商・政治・営Aの12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本授業では、情報化が著しく進展していく今日の社会的状況における、新たな教育の在り方について学んでいきます。毎回の授業の前半では、学校教育における情報メディアの利用形態について、その現状を眺めて今後の課題を探っていきます。続いて後半では、インターネットを含めたコンピュータ操作の実習を行ない、コンピュータの利用の優れた特徴と問題点を理解します。その上で、情報メディア活用の教育実践に必要な操作能力の習得を目指すとともに、教師としての役割や姿勢についても検討していく予定です。

講義の内容・授業スケジュール

授業の講義内容としては、以下に示すテーマに沿って進めていく予定です。

- ・教育の情報化の現状と課題
- ・新たな授業と学習の形態
- ・小中高の学校現場での取り組みの現状
- ・外国における教育の情報化の現状
- ・インターネット利用の影響
- ・情報メディアリテラシーの意義、など。

履修上の留意点

履修する学生には、この授業が教職を目指す上で必要な科目であることを自覚した上で、毎回まじめに出席して授業に意欲的に取り組むことを期待します。

成績評価の方法

成績の評価は期末試験の得点を中心にして、毎回の授業への出席状況や参加態度などの平常点を加味して行ないます。

教科書

使用する教科書については、初回の授業の中で伝える予定です。

参考書等

授業の中で必要に応じて、参考文献・関連資料・ビデオ映像などを紹介していく予定です。

その他

授業の中で、毎回コンピュータを使用する実習の時間があります。初歩的なレベルから始めていきますが、受講学生は「学ぶ意欲」をもって積極的に取り組んでいくことが求められます。

科目名	担当者名	配当学科	単位
道德教育の研究(前期)	やま だ ただ ゆき 山 田 忠 行	教職2・3必	2

※経A・法Aおよび商・政治・営Aの12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「道德教育」の充実、我が国の大きな課題であり、学校教育全体において充実した取り組みが必要である。この「道德教育」の教育的意義や目標及び指導内容、指導方法等について理論と実践の両面から研究を行い、教師としての指導力を身につけていただきたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 道德教育の歩み、今求められる心の教育
2. 道德教育の基本的な在り方、道德教育の目標、道德の指導内容
3. 道德の学習指導案、道德の資料の開発と活用
4. 全教育活動における道德教育、内面に根差した道德性の育成
5. 家庭や地域社会と連携、道德教育の充実のための課題

履修上の留意点

道德教育の意義をよく理解し、積極的に授業に臨み、具体的な指導計画の作成や指導方法等を身に付けてほしい。

成績評価の方法

出席状況、学習指導案の立案、レポート試験等を総合的に判断し、評価する。

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領解説―道德編一』（財務省印刷局）260円

参考書等

七條正典・押谷慶昭編著『中学校新教育課程の解説―道德一』（第一法規）1,300円

その他

講義、指導資料の作成、講義内容に則した、小レポートを提出する等

科目名	担当者名	配当学科	単位
特別活動(後期)	やま だ ただ ゆき 山 田 忠 行	教職2・3必	2

※経A・法Aおよび商・政治・営Aの12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「特別活動」は、望ましい集団活動を通して、好ましい人間関係を形成し、社会の一員としての自覚と責任ある態度を身につけるとともに、自己を生かす能力などを養うものである。人間形成に果たす特別活動の役割について研究を深めるとともに、この特別活動の活動内容の取り扱い方及び指導計画の作成、指導方法などについての実践的な指導力を身につけていただきたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 特別活動の教育的な意義、特別活動の歴史の変遷
2. 特別活動の目標、個と集団の関係
3. 学級活動の特質と生徒指導、ガイダンスの機能の充実
4. 生徒会活動の特質と活動内容、ボランティア活動と地域との連携
5. 学校行事の特質と活動内容、特別活動の課題

履修上の留意点

グループ討議での積極的な発言、創意工夫を生かした指導計画や指導資料作成など意欲的な取り組みを望みます。

成績評価の方法

出席状況、学習指導案の立案、レポート試験等を総合的に判断し、評価する。

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領解説―特別活動編―』（ぎょうせい）70円

参考書等

森嶋昭伸・鹿嶋研之助編著『中学校新教育課程の解説―特別活動―』（第一法規）1,300円

その他

指導案の立案、講義内容に則した小レポートの作成等。

科目名	担当者名	配当学科	単位
生徒指導論 (進路指導を含む)(前期)	えん どう つかさ 遠 藤 司	教職2・3必	2

※経A・法Aおよび商・政治・営Aの12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

生徒指導、ならびに進路指導の名のもとに、現在の学校で様々な教育的営みが行われている。将来、教職に就くことを目指している人間として、生徒(他者)の生活面を指導することの意味を改めて問いなおし、無意識のうちに既にもっている自らの生徒指導観、ならびに進路指導観をとらえなおした上で、より豊かに深めていくことがこの授業の目的である。

講義の内容・授業スケジュール

次のテーマを予定している。 1. 「問題行動とは何か」という問いに関わる諸問題 2. 不登校、いじめ等の実際の事例を通しての実践的考察 3. 教師―生徒関係の中での生徒指導・進路指導の在り方、特に「指導」という概念のとらえ直し 4. 個の尊重と組織・集団活動との相克の中での生徒指導・進路指導

履修上の留意点

授業時に授業者によって発せられる様々な問いに対して、安易に他者に正解を求めるのではなく、自分の言葉で考えようとすることを望む。特に、ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書いてもらう機会を作るが、それに対しては誠実に真剣に考え、自分の文章にすることを要求する。

成績評価の方法

学期末のレポートにより成績評価を行う。なお、授業への参加の仕方の積極度、授業時の提出物の内容等も成績評価に加味する場合もある。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育臨床（後期）	えん どう 遠 藤 つかさ 司	12年度以降入学生/教職2・3必	2

※経 A・法 A および商・政治・営 A の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

心の教育が重視されている現在の教育現場において、カウンセリングに代表される、臨床心理学的視点をもつ教師の育成が求められている。この授業では、将来、教職に就くことを目指している人間がカウンセリングについて学ぶことの意味を考え、双方向の対話を基に教師—生徒関係を作ろうとしつつ、なおかつ指導する人間としての教師をも生きようとするこの意味を考えることを通して、自らの教師観をより豊かに深めていくことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

次のテーマを予定している。 1. カウンセリングについて学ぶ 2. 教師としてカウンセリングを学ぶことの意味を考える 3. 教師—生徒関係をとらえ直し、特に指導することと理解することとの関係 4. 他者との対話的關係を生きることについて考える

履修上の留意点

授業時に授業者によって発せられる様々な問いに対して、安易に他者に正解を求めるのではなく、自分の言葉で考えようとすることを望む。特に、ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書いてもらう機会を作るが、それに対しては誠実に真剣に考え、自分の文章にすることを要求する。

成績評価の方法

学期末のレポートにより成績評価を行う。なお、授業への参加の仕方の積極度、授業時の提出物の内容等も成績評価に加味する場合もある。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習(1)(前期) 〔障害児と教育〕	えん どう 遠 藤 つかさ 司	12年度以降入学生/教職2・3必	2

※経 A・法 A および商・政治・営 A の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

この授業の目的は、「総合的な学習の時間」の本質やその意義について理解し、本時間の運営のために必要な教師としての諸能力を養うことである。この授業では「障害児教育」に関わる様々な問題を取り上げ、現在の日本社会の抱える諸課題とも関連づけながら総合的に学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

前半は、「総合的な学習の時間」の目的、内容等について学び、この時間の中での教師の役割について考える。後半は、障害児教育の諸問題を取り上げ、参加者相互の討論等を行いながら、様々なテーマに基づき学びを深めていく。最終的には、「総合的な学習の時間」を実際に授業することを仮定し、年間計画を作成することを目標とする。

履修上の留意点

授業時に授業者によって発せられる様々な問いに対して、安易に他者に正解を求めるのではなく、自分の言葉で考えようとすることを望む。特に、ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書いてもらう機会を作るが、それに対しては誠実に真剣に考え、自分の文章にすることを要求する。

成績評価の方法

学期末のレポートにより成績評価を行う。なお、授業への参加の仕方の積極度、授業時の提出物の内容等も成績評価に加味する。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。

その他

「演習」という授業の性格上、履修者の人数を制限する場合がある。詳細については第一回の授業で説明し、履修者の決定を行うので、履修希望者は必ず出席すること。やむを得ない理由で出席できない者は、事前に必ず連絡をすること。事前に連絡なく第一回の授業を欠席した者は、履修は認められないので注意すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総合演習(2)(後期) 〔子ども・自然・家庭〕	山本 敏子 <small>やまもととしこ</small>	12年度以降入学生/教職2・3必	2

※経 A・法 A および商・政治・営 A の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

家族を中心とする人間の暮らしは、人間が生命過程を維持していく上で最も大切な生存の基盤ともいべきものですが、自然と人間との関係が近代になって大きく変容したことにより、今日では、様々な局面で危機的状況に置かれるに至っています。私たち人類はどのような難問に直面しており、それを乗り越えていくにはどうしたらよいのか。人間の生命過程に直接関わってくる「食」の問題を切り口に、子どもと自然と家庭という3つの視点を入れて具体的に考えていきます。地球環境問題や南北問題、少数民族の人権問題、異文化理解と共生の問題等にも近接し、人間にとっても生き物にとっても生きやすい社会のあり方を一人ひとりが構想し、築く努力をしていくことを目指します。

講義の内容・
授業スケジュール

この授業そのものが「総合的な学習の時間」の実践となるよう、授業の内容、進め方については皆さんと共に考え、工夫していきたいと思っています。導入として、鶴見良行著『アジアの歩きかた』（ちくま文庫）および『ナマコの眼』（ちくま学芸文庫）を読みながら、「食」の問題をめぐる取り上げる具体的なテーマや方法などを検討し、その後、実際に調べていきます。最後に各自発表し、レポートとしてまとめます。

履修上の留意点

受講される皆さんの主体的な参加を期待いたします。

成績評価の方法

課題への取り組み方や授業時間内の発表・報告、学期末レポートなどの総合評価。

そ の 他

ゼミ形式で進めます。時間的余裕があれば、フィールドワーク（「歩く・みる・きく」）や図書館での調査も取り入れたいと思っています。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教育実習 I	伊藤 茂樹 <small>いとうしげき</small>	教職4必	3
教育実習 II		12年度以降入学生/教職4必	5

講義のねらい

中学・高校での教育実習を実りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それを取りまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。

講義の内容・
授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義や目的、内容に関しての講義と受講者による模擬授業を行う。実習後は、各自の実習の経験をふまえたうえで、そこから見えてきた教育や青少年の現実について、口頭発表、討論、文献購読、レポート作成などを通じて批判的にとらえる目を養うことをめざす。

履修上の留意点

受け身ではなく主体的な参加を求める。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習ノート、授業への参加、レポートにより総合的に行う。

教 科 書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会科教育法Ⅰ(前期)	いそ やま すずむ 磯山 進	教職3必	2

講義のねらい

中学校学習指導要領の社会科編に示された教科の目標を実現するために、どのような学習指導を進めれば良いのか、この講義では、地理的分野、歴史的分野それぞれの目標、内容構成、指導方法等について、事例を踏まえて考察する。

講義の内容・授業スケジュール

1 地理的な見方・考え方 2 「世界の地域構成」の取扱い方 3 「日本の地域構成」の取扱い方 4 「身近な地域」の取扱い方 5 「都道府県」の取扱い方 6 「世界の国々」の取扱い方 7 「世界と比べて見た日本」の取扱い方 8 歴史の学び方 9 関心ある主題の設定の方法 10 「身近な地域の歴史」の調べ方 11 「古代までの日本」の取扱い方 12 「中世の日本」の取扱い方 13 「近世の日本」の取扱い方 14 「近現代の日本と世界」の取扱い方 15 国際社会と日本について

履修上の留意点

各自の専門領域における知見を活用することはもとより、社会科の指導に必要とされる広い視野を養うために、社会科の各分野に関心を持ち、教材の研究・開発に努めること。

成績評価の方法

定期考査、レポート、出席状況等で、総合的に評価する。

教科書

文部省『中学校学習指導要領解説社会科編』(大阪書籍)を教科書として使用するので購入すること。

参考書等

参考文献は授業の際に示す。

その他

講義を中心とするが、発表学習も行う予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会科教育法Ⅱ(後期)	いそ やま すずむ 磯山 進	教職3必	2

講義のねらい

社会科教育法Ⅰの履修に続いて、社会科教育法Ⅱでは、前半で公民的分野の目標、内容構成、指導方法等について、事例を踏まえて考察する。後半では社会科3分野についての授業研究を行い、実践的指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

1 「現代日本の歩みと私たちの生活」の取扱い方 2 「個人と社会生活」の取扱い方 3 「私たちの生活と経済」の取扱い方 4 「国民生活と福祉」の取扱い方 5 「日本国憲法の基本的原則」の取扱い方 6 「民主政治と政治参加」の取扱い方 7 「世界平和と人類の福祉の増大」の取扱い方 8～15 授業研究(学習指導案の作成、模擬授業、授業評価等)

履修上の留意点

社会科教育法Ⅰに続き、様々な社会事象に関心を持って、教材の開発・研究に努めること。

成績評価の方法

定期考査、レポート、出席状況等で、総合的に評価する。

教科書

文部省『中学校学習指導要領解説社会科編』(大阪書籍)を教科書として使用する。

参考書等

参考文献は授業の中で示す。

その他

前半は講義、後半は発表学習の形態で行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会科教育法Ⅴ(公民)(前期)	や し ま た だ み つ 谷 敷 正 光	14以降入学生/教職3必	2
公民科教育法Ⅰ(前期)		13以前入学生/教職3必	

講義のねらい

本講は高等学校公民科で教育実習を行う学生や公民科教師を目指す学生に、「教育とは」「公民科教育とは何か」といった公民科教育の基本原則から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のたて方まで公民科教師としての資質・力量形成を行います。できれば、前後期の履修をのぞみます。

講義の内容・授業スケジュール

1. 教育の意義
2. 社会科の成立
3. 社会科の意義
4. 高等学校公民科学習指導要領の変遷
5. 教育課程の意義
6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 高等学校公民科の指導計画
8. 高等学校公民科の授業設計
9. 高等学校公民科学習指導案の意義と作成
10. 高等学校公民科と思考力を育む授業
11. 高等学校公民科の教育評価

履修上の留意点

- ①教科書の補充としてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- ②現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚教室に変更することがあります。

成績評価の方法

- ①授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価します。
- ②定期試験、追再試は行いません。小テストは授業中に実施します。

教 科 書

毎時間、講義の教材として年間数十枚のプリントを配布するので、教科書は使用しません。

参 考 書 等

講義に関係する参考文献は適宜紹介します。①～⑥の書物は図書館で読んで下さい。

- ①大田堯『教育とは何か』(岩波新書)
- ②槐一男『社会科教材発掘の技術』(日本書籍)
- ③谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』(黎明書房)
- ④谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』(明治図書)
- ⑤福山憲市『資料提示の技術』(明治図書)
- ⑥大森・谷敷『社会科教育研究』(梓出版)
- ⑦高等学校社会科(現代社会、政治経済、倫理)の教科書
- ⑧文部省『高等学校学習指導要領』、文部省『高等学校学習指導要領解説 公民編』(実教出版)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会科教育法Ⅵ(公民)(後期)	や しき ただ みつ 谷 敷 正 光	14以降入学生/教職3必	2
公民科教育法Ⅱ(後期)		13以前入学生/教職3必	

講義のねらい

本講は中学校社会科で教育実習を行う学生や社会科教師を目指す学生に、「教育とは」「社会科教育とは何か」といった社会科教育の基本原則から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のたて方をふまえた上で、後期は、授業づくりに必要な教材開発の方法や授業の基本的指導技術まで社会科教師としての資質・力量形成を目標に行います。

講義の内容・授業スケジュール

1. 高等学校公民科の目標
2. 高等学校公民科の内容・取扱い
3. 高等学校公民科の教材開発と資料の活用法
4. 高等学校公民科の板書計画と板書法
5. 高等学校公民科の発問の仕方と指導法
6. 高等学校公民科の学習形態と指導法
7. 4年生による模範授業(授業研究)
8. 公民科教師による授業1(授業ビデオ)
9. 公民科教師による授業2(授業参観・予定)
10. 模擬授業による公民科の授業実践研究
11. 高等学校公民科教師論
12. 公民科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者には「特別演習」を開講しています。)

履修上の留意点

- ①教科書の補充としてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- ②現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚室に変更することがあります。

成績評価の方法

- ①授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価します。
- ②定期試験、追再試は行いません。小テストは授業中に実施。

教科書

毎時間、講義の教材として年間数十枚のプリントを配布するので、教科書は使用しない。

参考書等

- 講義に関係する参考文献は適宜紹介します。①～⑨の書物は図書館で読んで下さい。
- ①大田堯『教育とは何か』(岩波新書)
 - ②無着成恭『山びこ学校』(角川文庫)
 - ③灰谷健次郎『兎の眼』(新潮文庫)
 - ④大森・谷敷『社会科教育研究』(粹出版)
 - ⑤槐一男『社会科教材発掘の技術』(日本書籍)
 - ⑥谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』(黎明書房)
 - ⑦谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』(明治図書)
 - ⑧浜上薫『発問づくりの技術』(明治図書)
 - ⑨鈴木健二『社会科指導案づくりの上達法』(明治図書)
 - ⑩高等学校社会科(現代社会、政治経済、倫理)の教科書
 - ⑪文部省『高等学校学習指導要領』、文部省『高等学校学習指導要領解説 公民編』(実教出版)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 科 教 育 法	谷 敷 正 光 <small>やしきただみつ</small>	教職3必	4

講義のねらい

「専門教育」(職業教育)の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、大きく改善されている。さらに1994年度からは、「普通科」と「専門学科」の中間形態ともいえる「総合学科」が誕生し、高等学校教育の改革が急速に進んでいる。従つて、この講義のねらいは、「専門教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりと商業教育を樹立するために、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」「商業教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 専門教育・商業教育の現状
2. 専門教育・商業教育の改革動向
3. 専門教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の変遷
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の授業設計
8. 商業科の指導法
9. 商業科の教材開発と資料の活用
10. 商業科学習指導案の作成(実践)
11. ビデオによる商業科教師の授業研究
12. 4年生による模範授業(授業研究)
13. 模擬授業を通じての商業科の授業実践研究
14. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
15. 商業科における評価
16. 商業科教育実習における「教師教育」
17. 商業科教師論
18. 商業科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

履修上の留意点

- (1) 年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- (2) 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

成績評価の方法

- (1) 授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価する。小テストは授業中に実施。
- (2) 定期試験、追再試は実施は行いません。

教科書

年間数十枚のプリントを配布予定ですので使用しない。

参考書等

講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。

- (1) 大田 堯『教育とは何か』(岩波新書)
- (2) 産経新聞社『学校ってなんだろう』(新潮社)
- (3) 灰谷健次郎『兎の眼』(新潮文庫)
- (4) 斎藤喜博『授業入門』(国土社)
- (5) 毎日新聞社『教育改革 現場の試み』(毎日新聞社)
- (6) 岩下 修『指導案づくりの技術』(明治図書)
- (7) 新牧賢三郎『やる気を引き出す技術』(明治図書)
- (8) 高等学校商業科の教科書(「流通経済」「商業経済」など)
- (9) 文部省『高等学校学習指導要領解説 商業編』(大日本図書)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
職 業 科 教 育 法	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職3必	4

講義のねらい

授業は中学校における職業科目の理解とその科目内の商業教育を中心に進めていく。

講義の内容・
授業スケジュール

職業・労働・生活
 職業科教育の目標と意義
 職業科教育の成立
 職業科教育と技術家庭科教育
 職業科授業の概要
 商業における授業と指導
 授業実践

成績評価の方法

平常点とレポートで成績評価。

教 科 書

開講時に指示する。

参 考 書 等

開講時に指示する。

(2) 教科に関する科目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 史 概 説	ね もと りゅう いち 根 本 隆 一	教職教科	4

講義のねらい

中学・高等学校の歴史・日本史教員として必要な知識について講義する。また、歴史教育の意義・課題についても取りあげていく。

講義の内容・授業スケジュール

日本の歴史を通史的に概説するのではなく、中学・高等学校で授業を行うに際して、とくに重要な箇所、教えにくい箇所などを取りあげていく。

成績評価の方法

出席・レポート・試験で総合的に評価する。

教科書

高等学校日本史Bの教科書、もしくは参考書を用意すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 史 概 説	つ の だ と も ひ こ 角 田 朋 彦	教職教科	4

講義のねらい

古代から近現代までの歴史を概観し、各時代のあり方を学ぶことで、日本史に関する必要最低限の知識を身につけるようにする。

講義の内容・授業スケジュール

歴史を見る視点は、政治・経済・宗教・文化・生活など様々あり、かつ中央と地方、都市と農村といった比較も必要である。そこで、これらの視点をなるべく平均的にとらえ、各時代の社会のあり方を考えるようにしたい。

成績評価の方法

出席状況を加味しながら、試験によって成績判定をする。

教科書

教科書は特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書等

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	担当者名	配当学科	単位
世界史概説	まつもと ひろし 松本 弘	教職教科	4

講義のねらい

本年度の世界史概説の東洋史は、中東の歴史を扱う。近い将来、学生諸君が教職について世界史を担当する際、最も困難を憶える部分は、おそらく中東やイスラームに関わるものであろう。近年、教科書における中東やイスラームに関わる記述は増えており、また中東と平問題やイスラーム原理主義などの報道も大きく扱われている。にもかかわらず、中東は未だ「遠いところ」であり、その理解のための情報提供や教育はますます困難さを増しているように思われる。それゆえ本講義では、イスラーム成立以後の中東の歴史を詳解し、学生諸君が教職につくという前提の下、中学及び高校において中東やイスラームに関する授業を行うために、最低限必要な情報と解説を示すことを講義の目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- (前期) (1) 授業の目的と予定 (2~5) 中東の地域概念、国や民族・宗教の構成、中東一神教世界(ユダヤ教、キリスト教、イスラーム)などの概説 (6・7) イスラームの成立 (8・9) ウマイヤ朝・アッバース朝 (10・11) イスラーム法学 (12・13) イスラーム神学
(後期) (14~15) オスマン帝国 (16・17) 中東の近代概説 (18・19) ナショナリズムの時代 (20~22) 中東と平問題の歴史と現状 (23~25) イスラーム原理主義の史的展開 (26) 現代中東の民主化

履修上の留意点

中東の歴史を、現代の状況や諸問題からも考えていく作業となるので、中東やイスラームに関わる新聞報道(特に国際面)の見出しだけでも、毎日見る習慣を身につけて欲しい。

成績評価の方法

前期末および学年末のテストによって、評価する。

教科書

特に用いない。

参考書等

適宜、プリントなどで指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地誌学概説	かわもと とよかず 川元 豊和	教職教科	4

講義のねらい

主に南アジア・東南アジアを対象として、「地域の変貌」について授業を進める。

講義の内容・授業スケジュール

前半では、まず、地誌学の基本的な考え方について解説し、次に、さまざまな人文地理学的事象から世界のなかにおけるアジアの特殊性や他地域とアジアの共通性などについて考えてゆきたい。後半では、まず、バングラデシュの村落を対象とし、1960年代後半以降の「緑の革命」にともなう農耕の変化や農業開発の過程で生じる地主・小作関係に根ざす土地問題や小作制度の変更、労働力の問題などについて考えてゆきたい。また、農村から大量の人々を吸収し続けている都市についても考察したい。さらに、マレーシアを対象とし、多民族社会の地理的特徴やマレー村落とその変貌、社会経済構造の変化などについて最近の地域研究の成果を紹介しながら、地域の特性を明らかにしたい。また、近年の高度経済成長にともなう工業化・都市化の問題についても考えてゆきたい。

履修上の留意点

高校時代に使用したものでよいから、地図帳を持参して講義に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

出席及び前期末のレポート提出を前提とし、学年末の筆記試験と併せて総合的に評価する。

教科書

特に定めず、プリントを配布する。

参考書等

授業内において、その都度紹介する。

その他

講義中心の授業であるが、スライドやビデオの使用も予定している。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地誌学概説	わた なべ たて お 渡 邊 盾 夫	教職教科	4

講義のねらい

この講義では、学生諸君が教職につく時の基本事項、または就職試験の時の一般教養（人文科学系）問題が解けることを目標として、進めます。

次に地理学の一つの見方である地誌を、「ある場所」を具体的にとり上げ、その場所にはさまざまな自然環境（気候、地形など）や社会環境（サービス業、農業など）があり、この中にさまざまな人間活動が営まれている。これらを総合的に分析をし、その現象を明らかにしていく方法を考えたい。

講義の内容・
授業スケジュール

ここでは、前期にある場所の自然環境を理解するために気候、地形そして地形図の基礎的なことを学習する。後期には、各国を地誌的な見方で説明する。

履修上の留意点

基本的には、学生諸君が日本や世界各国の様子を「何んでそこにその様な現象があるのか」という疑問で接してほしい。地誌学または地理は暗記の科目ではない。
また講義を聞く時には、高校時代に使った地図帳を必ず持参して下さい。その方が理解が早くなります。

成績評価の方法

年度末に定期試験があり、これに出席の様子を加えています。答えは自分が他の人に説明をし、理解してもらえる様に書いて下さい。その方が勉強になります。

教科書

教科書等については、特に指定しません。講義の進行に合わせて、プリントを配布します。このプリントの中に各自で必要事項を加えて下さい（試験の時に参考になります）。

参考書等

講義の時、それぞれの分野での参考図書を紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
人文地理学概説	わた なべ たて お 渡 邊 盾 夫	教職教科	4

講義のねらい

ある場所の自然環境の上には、さまざまな人間活動が行われています。この人間活動を産業の点から講義を進めます。

講義の内容・
授業スケジュール

前期に人文地理学の研究方法を説明し、後期には、具体的な人間活動（産業）についてプリントを配布しながら説明します。

履修上の留意点

高校時代に使用した地図帳を持参して下さい。

成績評価の方法

学年末の筆記試験と出席とを総合して評価します。

教科書

教科書については、特に指定しません。講義の進行に合わせてプリントを配布します。プリントの中に各自で必要事項を加えて下さい（試験の時に参考になります）。

参考書等

講義の時、それぞれの分野での参考図書を紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 学 概 説	田 中 かの子	教職教科	4

講義のねらい

「いのち」の教育がいかに大切かは、現代になってからの問題意識なのではありません。人類の歴史を遡ってゆけば、「いのち」を尊重する思想と実践の軌跡が延々と続いてきたことがわかるでしょう。そして、そこに見出されるものの多くが世界の主要な諸宗教にもとづいている点も、注目されるべき事実です。

本講は、諸宗教が「いのち」をどのように観るのか、なぜ「いのち」を尊ぶのか、その思想的根拠と倫理的実践のありかたを概説し、現代世界における「宗教」の意義を見出してゆくことをねらいとします。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、有史以前から人類が意識していたと考えられる「いのち」の観念、生と死をめぐる人間観・世界観、宗教と科学における「いのち」の諸問題などについて論じます。

後期は、世界の諸宗教における「いのち」の探究を概説し、その具体的な表現としての聖典や芸術文化について観てゆきます。

履修上の留意点

講義形式だけではなく、対話形式も大切にしますので、積極的に発言してください。

成績評価の方法

夏休みと学年末の課題レポート、受講態度、出席状況にもとづく総合的評価。

教科書

田中かの子著『比較宗教学—「いのち」の探究—』（北樹出版）2004年
必要に応じてプリントも配布します。

参考書等

受講生の関心事に合わせて紹介します。

その他

教科書に載せてある写真や図表を見たり、聖典の文字や発音を鑑賞することによって、少しでも生きた宗教文化に触れられるように配慮します。受講生も、それに対する率直な意見や感想を述べて、その日のトピックを楽しんでください。御質問には、対話しながらお答えいたしましょう。問いの意味を深めてゆく体験はきっと、教室で生徒たちの疑問に答えるためのヒントになるでしょうから。

科目名	担当者名	配当学科	単位
宗 教 学 概 説	須 藤 寛 人 <small>す どう ひろ と</small>	教職教科	4

講義のねらい

葬儀や、先祖崇拜、位牌・仏壇といったものを通して、多くの日本人は仏教と接していると思われます。このような日常的な仏教との接点を手がかりとして、大宗教としての仏教が民間に浸透していった経緯を、本講義では考察したいと思います。また仏教的な営みの背景にある民族の意味と歴史とを考察することによって、仏教と新しい接し方のきっかけになればと考えています。

講義の内容・授業スケジュール

- 先祖崇拜 今日日本仏教における寺院の主たる活動が、葬儀と追善供養からなっている。追善供養は、先祖祭祀という民族的背景のもとに成り立っていることから、先祖崇拜の考察は重要なテーマであると考えられる。
- 葬送儀礼 葬式は、多くの日本人にとって最も「仏教的」なことを感じさせる出来事である。しかし、そこで何が行われているかは、多くの場合は、一般の人に知らされていないし、また意味も解らないで葬儀を行っている僧侶も多いと思われる。本講義では、民俗的事例をあげながら、葬式の歴史と構成とを明らかにし、そこにどのような意味があるのかを考える。
- 日本の民俗 日本でみられる多くの民俗的事例を紹介・解説する。日本のシャーマニズムや、各地の祭、都市伝説・噂・怪談などにも触れる予定である。また授業内容に応じてタイムリーな話題もとりあげたい。

以上の三点を本講義の機軸とし、主要な概念や理論について解説をしていきたいと思いません。

履修上の留意点

できるだけ遅刻はしないでください。私語は慎んでください。携帯電話・PHS等は授業中には着信音がならないようにするか電源を切ってください。

成績評価の方法

夏期レポートを20%、学期末の定期試験を80%とし、出欠状況を加味し総合的に評価します。

教科書

教科書は用いません。要点をまとめたプリントを配布します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
哲 学 概 説	河 谷 淳 <small>かわ たに あつし</small>	教職教科	4

講義のねらい

本講義では哲学史上のいくつかのパラドックス(逆説・逆理)を題材として取り上げながら、哲学の諸問題(認識論・存在論・行為論)について考えてみることにしたい。「パラドックス(paradox)」とは日常的な思いなし(ドクサ)から逸脱した(パラ)主張のことであり、「哲学する」ことがいわば「世界についての見方を学び直す」営みであるとするならば、パラドックスを導きの糸として思考をめぐらすことは哲学することそのものだとも言えよう。この講義ではいくつかの有名なパラドックスを取り上げることで哲学的思考を実感してもらうことを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

前期は哲学の基本的な概念を理解してもらうためにギリシア哲学を主題とした講義を行い、後期はテーマ別の講義を行う予定である。具体的には次のようなパラドックスを題材とする予定である。

- 前期：ゼノンのパラドックス(運動否定論の意味)
ソクラテスのパラドックス(行為と知の関係)
探求のパラドックス(認識の起源・成立をめぐる問題)
- 後期：囚人のディレンマ(利己的な行為はなぜいけないのか)
嘘つきのパラドックス(自己言及のパラドックス)
未来をめぐるパラドックス(自由の成立と決定論の相克、抜き打ち試験のパラドックス)

履修上の留意点

授業を受け身的に聴くというよりは一緒に問題を考えていくという積極的な姿勢が望ましい。

成績評価の方法

中間・期末試験(それぞれ40点満点)と夏休みレポートと出席状況の総合点で評価する。

参考書等

中村秀吉『パラドックス』(中公新書)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政 治 学 原 論	おお つか かつら 大 塚 桂	教職教科	4

講義のねらい

I 自己紹介

私は、いままでイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれません。政治学のみならず隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377（直）です。

II 講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、政治現象の理論的説明と解明ができるように基礎的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目を研究する上で必要な知識を提供することです。

講義の内容・授業スケジュール

III 講義のすすめかた

現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

IV 講義の内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A 政治学の課題と対象、および方法

B 政治の原理的究明

①政治的なるもの

～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従

②共同体的なるもの

～国家、社会、主権、法

③イデオロギー的なるもの

～イデオロギー、正義、自由、平等、人権（シティズンシップ）

C 政治の実体論的究明

①制度論的究明

～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制

②機能論的究明

～政党、圧力団体

成績評価の方法

本年度もまた、受講者との相談のうえ A・B 両方式のうちのいずれかに決定します。

A 方式（レポートによる単位認定）

複数回（前・後期）のレポートを提出してもらい成績を評価します。課題報告（レポート）の作成をとおして、文献の読解力と書く能力を涵養します。

B 方式（試験による単位認定）

中間・学年末試験により、成績を評価します。評価基準は、中間試験50%、学年末試験50%です。

※A 方式の場合には、追・再試験は実施しません。B 方式は、実施します。

教 科 書

大塚桂『現代国家へのアプローチ』（成文堂）3,000円

大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社）2,900円

参 考 書 等

上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
産 業 概 説	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職教科	4

講義のねらい

現代経済社会の基礎である産業の概要を説明していく。

講義の内容・
授業スケジュール

日本経済の成長と低成長
戦後の産業構造と工業構造の変化
産業のグローバル化と産業の空洞化
経済のサービス化・ソフト化
中小企業とベンチャービジネス
先端技術産業
各産業の動向

履修上の留意点

授業参加において、新聞の経済欄や産業欄には目を通しておくこと。

成績評価の方法

レポートや平常点で成績評価をする。

教 科 書

開講時に提示する。

参 考 書 等

開講時に提示する。

そ の 他

工場見学実施予定。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 実 習	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職教科	4

講義のねらい

商業活動の事務処理における基礎的な知識や技術を習得する。

講義の内容・
授業スケジュール

国民経済における商業活動を概観する。
簿記の基本原理
手形・小切手の取扱い
企業の事務文書の作成
決算報告書
事業所における実習

成績評価の方法

平常点とレポートで成績評価をする。

教 科 書

開講時に指示する。

参 考 書 等

開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
職 業 指 導	まえ だ むき かず 前 田 幸 一	教職教科	4

講義のねらい

- ①職業指導の歴史と理論及び方法について考えていく。
- ②現代の産業・職業を理解する。

講義の内容・
授業スケジュール

憲法第22条と第27条について
 勤労観と職業観について
 現代の産業・職業について
 職業教育と職業指導の歴史
 職業指導の理論と方法
 学校における職業指導の実際

成績評価の方法

レポートや平常点で成績評価をする。

教 科 書

開講時に提示する。

参 考 書 等

開講時に提示する。

Ⅱ 学校図書館司書教諭講座

II 学校図書館司書教諭講座

必修科目

学校経営と学校図書館〈山 田 節 子〉	125
読書と豊かな人間性〈山 田 節 子〉	125
学校図書館メディアの構成〈源 昌 久〉	126
学校図書館メディアの構成〈篠 田 耀 子〉	126
情報メディアの活用〈源 昌 久〉	127
情報メディアの活用〈篠 田 耀 子〉	127
学習指導と学校図書館〈山 田 節 子〉	128

科目名	担当者名	配当学科	単位
学校経営と学校図書館 (前期)	やま だ せつ こ 山 田 節 子	司書教諭2・3・4必	2

講義のねらい

学校教育における学校図書館の果たす役割を明らかにし、学校図書館の理念、発達過程と課題・教育行政との関わり、学校図書館経営のあり方など、学校図書館全般についての基本的な理解をめざす。また司書教諭の任務と担うべき役割を明確にし、校内の協力体制作り、司書教諭としての研修の重要性にもふれる。さらに、学校図書館のメディア・学校図書館活動・他の館種を含めた図書館ネットワーク等についての基本的な理解を図る。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 学校図書館の理念と教育的意義
- 2 学校図書館の発展と課題
- 3 教育行政と学校図書館
- 4 学校図書館の経営
- 5 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修
- 6 学校図書館メディアの選択と管理、提供
- 7 学校図書館活動
- 8 図書館の相互協力とネットワーク

成績評価の方法

レポートと小テストによる平常点

参考書等

- 全国 SLA 図書館学編集委員会編『学校図書館学1 学校図書館の原理と運営』
- 全国 SLA 編『司書教諭の任務と職務』
- 福永義臣編著『学校経営と学校図書館』(樹村房)

その他

講義・討論・ビデオ

科目名	担当者名	配当学科	単位
読書と豊かな人間性 (後期)	やま だ せつ こ 山 田 節 子	司書教諭2・3・4必	2

講義のねらい

現代社会に生きる子どもの発達や、読みの多様化などの進展している実態に即した読書教育の理念を探る。さらに、子どもたちの読書生活の実情と読書資料の現状についての理解に基づき、子どもと本を結びつけ、読書の生活化を図る方法を探る。これらを通じて子どもたちの豊かな人間性の涵養に資するため、司書教諭の役割と自らの責務を中心に、活動の原理と方法、技能についても、具体的に体得してもらおう。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 読書の意義と目的
- 2 子ども読書実態と指導
- 3 読書資料の種類と活用
- 4 発達段階に応じた読書指導
- 5 子どもと本を結ぶための方法
- 6 読書指導推進活動と教員の責務
- 7 地域社会の関連施設等との連携

成績評価の方法

レポートと小テストによる平常点

参考書等

- 全国 SLA 編『学校図書館白書2 学校図書館と子どもの読書の現状と課題』
- 赤星隆子編著『読書と豊かな人間性』(樹村房)

その他

- この科目の受講は下記の1、2を終了してからが望ましい。
1. 学校経営と学校図書館 (前期)
 2. 学習指導と学校図書館 (前期)
- 講義・ビデオ・読みきかせ等の演習

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
学校図書館メディアの構成 (前期)	みなもと しょう きやう 源 昌 久	司書教諭2・3・4必	2

講義のねらい

本講義は、学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成を図る。

講義の内容・
授業スケジュール

1) 学校図書館メディアの概念的フレーム・ワーク 2) 分類法(表)の解説・演習 3) 目録の解説・演習 4) 資料組織の機械化 5) 多様な学習環境と学校図書館メディアの配置

履修上の留意点

予習・復習をしっかりと行ってほしい。

成績評価の方法

平常点および試験の成績を併せて評価する。

教 科 書

『日本十進分類法 改訂9版』(日本図書館協会)セット定価 6,000円
『日本目録規則 1987年版 改訂版2版』(日本図書館協会)3,500円

参 考 書 等

講義中に指示する。

そ の 他

必要に応じて、ビデオを活用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
学校図書館メディアの構成 (前期)	しの だ よう こ 篠 田 耀 子	司書教諭2・3・4必	2

講義のねらい

①多様化するメディアを学校図書館ではどのように収集し、保管・整備していったらよいか
(ア)教科指導上 (イ)児童・生徒の人間形成を考慮しての構成を考える。
②収集・保管・整備した資料を有効に活用されるべく、環境を整える方法(分類目録等)
本講座では、上記2項目について、演習を混じえて、基礎的な能力を養います。

講義の内容・
授業スケジュール

(1・2) 学校図書館におけるメディアの種類と特性
(3・4) 学校図書館メディアの構築
(5~8) 分類
(9~13) 目録

履修上の留意点

分類・目録の項では、演習を取り入れます。学校図書館では、まだまだ電算化されているところは少ないので、真剣に分類番号の決め方・目録カードの記入の方法など学んでもらいたいと思います。

成績評価の方法

5時間以上の欠席は、評価対象外となります。15分までの遅刻は認めますが、遅刻3回で1欠席とします。

試験は行いません。(定期試験)

分類と目録のところでは、演習を行ない、小テストを実施。演習を4回行なう予定ですが、1回も受けない場合とレポートを提出しない場合も評価対象外とします。

4年生の場合、分類・目録の講義をほとんど受講しないこととなりますので、補講を行ない、かつ実習校での学校図書館に関するレポートを提出してもらいます。

参 考 書 等

随時プリントを配布。

『新学校図書館学』編集委員会編『新学校図書館学2 学校図書館メディアの構成』(全国学校図書館協議会発行)1,400円

科目名	担当者名	配当学科	単位
情報メディアの活用 (後期)	みなもと しょう きみち 源 昌久	司書教諭2・3・4必	2

講義のねらい	学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。
講義の内容・ 授業スケジュール	1) 情報化社会と人間 2) 情報メディアの特性と選択 3) 視聴覚メディアの活用 4) 学校 図書館におけるコンピュータの活用 5) 情報検索
履修上の留意点	予習・復習をしっかりと行ってほしい。
成績評価の方法	平常点および試験の成績を併せて評価する。
教科書	(社)情報科学技術協会編『CD-ROM 版情報検索の演習』(日外アソシエーツ)
参考書等	講義中に指示する。
その他	必要に応じて、ビデオを活用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
情報メディアの活用 (後期)	しの だ よう こ 篠 田 耀 子	司書教諭2・3・4必	2

講義のねらい	学校図書館は、学校内における情報サービスや情報処理のためのセンターとなるべく施設で す。 メディアに対応する図書館をめざし、学校教育に必要なメディアを準備し、それが十分活用 される環境を整えなければなりません。「調べ学習」「総合学習」等での学校図書館の利用時に は、メディアスペシャリストとしての司書教諭の資質が問われる昨今であることを認識し、対 応できる能力を養う努力をする。とくにメディア・リテラシー教育は不可欠の指導分野であ る。インターネット利用上の留意点等、各自各種のメディアからの情報収集してのレポートは、 児童・生徒指導上たいへん重要なものです。
講義の内容・ 授業スケジュール	(1・2) 高度情報化社会と人間 (3・4) 情報メディアの特性と選択 (5～7) 視聴覚メディアの活用 (8・9) コンピュータ活用と情報検索 (10・11) メディア・リテラシー (12・13) 情報メディアと著作権
履修上の留意点	出欠席状況を重視しますので、遅刻・欠席には十分注意してください。
成績評価の方法	5時間(5回)以上の欠席は、評価対象外。15分までの遅刻は認めるが、その遅刻も3回で 1欠席とする。 レポートを2回提出。メディア・リテラシーに関するレポートと自分のメディア史の2本 で、各自相当の時間をかけないと仕上がらないレポートである。この2本のレポートと出欠席状 況を合わせて評価します。
参考書等	「新学校図書館学」編集委員会編『新学校図書館学5 情報メディアの活用』(全国学校図 書館協議会発行)1,400円 随時、プリント配布。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
学習指導と学校図書館 (前期)	やま だ さつ こ 山 田 節 子	司書教諭2・3・4必	2

講義のねらい

学習において学校図書館が果たすべき役割は大きい。学習図書館は、児童生徒が、「自分で調べて学ぶ」学習を中心に、教育活動のさまざまな場面で、メディアを積極的に利用するよう指導し、それを活用する能力の育成を図らなければならない。

この科目は、その原理と方法を学ぶと共に教師に対するサービス・支援のあり方に関し、理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 教育課程の展開と学校図書館
- 2 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択
- 3 児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成
- 4 学習課程における学校図書館メディア活用の実際
- 5 学習指導における学校図書館の利用
- 6 学校図書館における情報サービス
- 7 教師への支援と働きかけ

成績評価の方法

レポートと小テストによる平常点

参 考 書 等

- 「新学校図書館学」編集委員会編『学習指導と学校図書館』（全国SLA刊行）
- 朝比奈大作編著『学習指導と学校図書館』（樹村房）

そ の 他

講義・討論・ビデオ・演習

Ⅲ 社会教育主事講座

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育計画	〈萩原建次郎〉	133
生涯学習概論Ⅰ	〈豊田千代子〉	133
生涯学習概論Ⅱ	〈豊田千代子〉	134
社会教育実習	〈豊田千代子〉	134
社会教育実習	〈萩原建次郎〉	135

(2) 選択必修科目

社会教育行政	〈荒井隆〉	136
社会教育施設	〈萩原建次郎〉	137
成人学習論	〈荒井隆〉	138
ジェンダーと教育Ⅰ	〈高井葉子〉	138
ジェンダーと教育Ⅱ	〈高井葉子〉	139
職業教育Ⅰ	〈塩川正人〉	139
職業教育Ⅱ	〈塩川正人〉	140
社会体育Ⅰ	〈吉田実生〉	140
社会体育Ⅱ	〈吉田実生〉	140
教育の思想		140
教育と社会		140
発達と学習の心理学		141
教育とメディア		141
視聴覚教育	〈佐野博彦〉	141
教育社会学	〈伊藤茂樹〉	141
教育史	〈山本敏子〉	141
教育調査	〈鈴木規夫〉	141
社会心理学	〈坪井健〉	142
青少年文化	〈古関すま子〉	142
現代社会の諸問題と教育Ⅰ	〈鈴木朋実〉	143
現代社会の諸問題と教育Ⅱ	〈鈴木朋実〉	143
青少年問題研究	〈讃岐真佐子〉	144
青少年指導演習	〈休講〉	
博物館学Ⅰ(概論)	〈太田喜美子〉	144
博物館学Ⅱ(資料論)	〈岸上興一郎〉	144
情報メディアの活用	〈源昌久〉	144
情報メディアの活用	〈篠田耀子〉	144
読書と豊かな人間性	〈山田節子〉	144

(1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会教育計画	はぎ わら けんじろう 萩原 建次郎	社教主事2必	4

講義のねらい

社会教育・生涯教育のさまざまな学習場面で取り入れられている参加型による学習プログラムを体験し、受講者自らが学習プログラムを企画・運営していく力を養いたい。

講義の内容・授業スケジュール

内容構成を以下のように考えている。

- ①学習プログラムのしくみと構造
- ②学習プログラムの企画・立案力
- ③学習プログラムのデザイン力
- ④学習プログラムの運営力
- ⑤参加型学習の手法と実際

履修上の留意点

受講者数を見て判断するが、できるだけ参加型学習で行いたい。その場合、受講者の参加意欲が学習成果に反映されることを心にとめておいて欲しい。一定のグループで作業することが多いため、出席を重視する。

成績評価の方法

レポート、授業への参加度、出席状況などを総合して判断する。

教科書

廣瀬隆人、澤田実、林義樹、小野美津子『生涯学習支援のための参加型学習のすすめ方』（ぎょうせい）1,429円

その他

授業方法はワークショップ中心だが、必要に応じて講義も行う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
生涯学習概論 I (前期)	とよ た ちよこ 豊田 千代子	社教主事2必	2

講義のねらい

この授業では、ユネスコや OECD などの国際機関やわが国における生涯教育・生涯学習について、理念や思想、歴史、制度、政策、子どもやおとなの発達を支える学習といったさまざまな点から検討し、それを通して、今日求められている学校教育改革・社会教育改革の方向性について考えることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- ・生涯教育・生涯学習の理念・思想・歴史
- ・生涯教育・生涯学習の制度・政策
- ・生涯学習と学校教育（生涯学習の拠点としての学校、子どもの育つ学校・地域づくりなど）
- ・生涯学習と社会教育（生涯学習の拠点としての公民館、完全学校週5日制と子どもの居場所など）

成績評価の方法

レポート等により成績評価を行なう。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

適宜紹介する。

その他

この科目は、平成11年度までに「生涯学習概論」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生涯学習概論Ⅱ (後期)	とよ た ちよこ 豊 田 千代子	社教主事2必	2

講義のねらい

この授業では、学校教育と社会教育について、それぞれ理念、思想、歴史、制度等を検討し、これらの教育における今日的課題を整理するとともに、子どもや若者やおとなを対象とした学習活動に着目し、学習者の成長や発達につながる学習プロセスの組織化の方法等について考察することを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・生涯学習時代における学校教育
- ・学校教育の理念・思想・歴史・制度
- ・学校教育をめぐる今日的課題
- ・子どもの成長・発達と学習
- ・生涯学習時代における社会教育
- ・社会教育の理念・思想・歴史・制度
- ・社会教育をめぐる今日的課題
- ・子ども、若者、おとなの成長・発達と学習

成績評価の方法

レポート等により成績評価を行なう。

教 科 書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参 考 書 等

適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生涯学習概論」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会教育実習	とよ た ちよこ 豊 田 千代子	社教主事3必	4

講義のねらい

公民館、図書館などの社会教育施設や、教育委員会での実習をとおして、社会教育についての理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 事前指導
- ・実習の心がまえ
 - ・社会教育実践について
社会教育の具体的なイメージをつかむために、様々な社会教育実践を取りあげ、紹介する
- 訪問指導
- ・実習先訪問指導
- 事後指導
- ・実習のふり返り
 - ・実習をとおして考えたこと、学んだことなどについて報告してもらう。

成績評価の方法

- (1) 実習ノート (2) 実習報告 (3) 授業への参加度

教 科 書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参 考 書 等

適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 教 育 実 習	はぎ わら けんじろう 萩 原 建次郎	社教主事3必	4

講義のねらい

社会教育施設や教育委員会での実習をとおして、社会教育の実践に触れるとともに、社会教育への理解を深めることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

- ・実習事前指導として、社会教育実践の事例を調べて具体的イメージをつかみつつ、実習の意義や心がまえの理解を目的とした。
- ・実習中には個別訪問指導をおこなう予定である。
- ・実習の事後指導として実習ノートと体験レポートをもちより、お互いの体験を共有し、深め合う場をつくりたい。その中から「社会教育職員の役割や専門性」「学習課題」「学習者理解」などテーマを抽出して、社会教育への理解を深めていきたいと考えている。
- ・実習後に、受講生中心で実習報告書づくりを行う。

成績評価の方法

実習ノート、体験レポート、実習報告書、授業への参加度などを総合して判断する。

教 科 書

教科書・参考書はそのつど提示する。

参 考 書 等

教科書・参考書はそのつど提示する。

(2) 選択必修科目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会教育行政	<small>あら</small> 荒 <small>い</small> 井 <small>たかし</small> 隆	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

社会教育行政現場で永く実践を続けてきた立場からの講義により、実践的な社会教育の見方を身につけることを目指します。堅い印象の講義ですが、内容は具体的で柔らかいものですから安心して参加してください。理論的な課題にもふれますが、社会の現実と接する授業により、実際に生きて働く力を身につけることを目指します。

講義の内容・授業スケジュール

- ①私の社会教育行政の体験談 4月
- ②社会教育行政の法体系 5～6月
- ③東京23区の社会教育行政の特徴 7月
- ④社会教育行政の仕組みと働き 9～10月
- ⑤社会教育主事の具体的な仕事 11月
- ⑥社会教育行政の変革 12月

概ね以上の内容を軸に講義し、1年を通じて社会教育行政の具体像の把握を目指します。

履修上の留意点

社会教育の基礎知識があればより広く深く理解ができますが、初めて社会教育の講義に参加する場合でも、体験に基づきわかりやすい講義をしますので、安心して参加してください。

成績評価の方法

出席及び試験内容等をもって評価します。

教科書

特に使用しません。

参考書等

講義に関係する参考書を随時紹介しますので、理解を深めるため読んでください。

その他

固い講義ですが、中身はアットホームな雰囲気を生かし心が通いあう授業にします。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 教 育 施 設	はぎ わら けんじろう 萩 原 建次郎	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

社会教育施設の歴史と理念をひも解きながら、現在多様に展開している社会教育関連施設の現状やそこでの取り組みを理解し、社会教育施設の課題と展望を考察していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ①社会教育施設の歴史と理念
 - ・公民館の歴史と理念
 - ・図書館の歴史と理念
 - ・博物館の歴史と理念
 - ・社会体育施設の歴史と理念
- ②社会教育関連施設の現状と取り組み
 - ・青少年施設（少年自然の家・青年の家・児童館など）
 - ・女性センター
 - ・生涯学習センター
 - ・文化施設（市民ホール・市民会館）
 - ・学校教育施設（学校開放・大学開放）
 - ・スポーツセンター
- ③社会教育施設の課題と展望
 - ・子ども・若者の居場所づくり
 - ・施設職員の役割－ロビーワークの意義など
- ④世田谷区内の社会教育関連施設

履修上の留意点

夏休みなどを使って、世田谷区内の社会教育関連施設をフィールドワークし、報告書を作成する予定。

成績評価の方法

平常点、報告書より評価する。

教科書

そのつど紹介する。

参考書等

そのつど紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
成人学習論	あらい たかし 荒井 隆	社教主専2・3・4選	4

講義のねらい

成人の学習について、生涯学習時代といわれる今日、私たちはその具体的な姿を身近に見られるようになりました。講義では成人学習の実態を紹介するなどその実像の一端にふれて、成人の学習のリアリティに接し、生涯にわたり学習することの意義を理解することを目指します。

講義の内容・授業スケジュール

- ①学生の学習と比較した大人の学習について 4～5月
- ②成人の学習形態いろいろ 6～7月
- ③成人の学習事例～自分史～ 9～10月
- ④成人の学習事例～文字を獲得する学習～ 10～11月
- ⑤成人の学習のあり方 12月

履修上の留意点

実践に基づく授業です。本からの理解と異なり、できるだけ具体的で多様な方法を用いて学んでいきます。学生の学習と少し趣きの異なる成人の学習。自らの学習姿勢をみつめる機会にもなります。興味のある人の参加を期待しています。

成績評価の方法

出席及び試験内容等を参考に、総合的に評価します。

教科書

特に使用しません。

参考書等

授業で随時紹介します。理解を深めるため授業で使用する場合もあります。

その他

卒業後に生きて働く力を身につけることを目指します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
ジェンダーと教育Ⅰ (前期)	たか い よう こ 高井 葉子	社教主専2・3・4選	2

講義のねらい

私が担当する「ジェンダーと教育」は、前期と後期にあります。どちらか一つを受講することも可能ですが、可能な限り両方を受講して下さい。どちらも、貧困、差別、暴力など、現代社会が抱える問題をジェンダーや学校教育との関連で取り上げますが、特に、前期は、家族や子どもをめぐる社会問題をジェンダーとの関連で理解します。いずれも、学校教育、社会教育に携わる者にとって重要な問題ですが、単に理解するだけではなく、これらの問題にどのように取り組むことができるか、あるいは、どのように指導したらよいかを考える場にします。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容の柱は次の通りです。①近代家族とジェンダー ②家族・暴力・ジェンダー ③子育てとジェンダー ④子ども・学校・ジェンダー。授業でとりあげる具体的な問題は、「ドメスティック・バイオレンス」、「児童虐待」、「スクール・セクシュアル・ハラスメント」、「単親家族」などです。

成績評価の方法

出席(10%)、課題(発表、レポート)(50%)、小テスト(40%)。成績評価の条件については、最初の授業で詳しく説明します。

教科書

最初の授業時に説明します。

その他

この科目は、平成11年度までに「女性と学習」の単位を修得した者は、履修できません。この科目は、平成11年度以前入学生には、総合演習(13)の単位として認められません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
ジェンダーと教育Ⅱ (後期)	たか い よう こ 高 井 葉 子	社教主事2・3・4選	2

講義のねらい

前期の「ジェンダーと教育Ⅰ」では、ジェンダーに関連する具体的な問題をあらかじめ設定し授業をすすめました。後期の演習では、教育学の知見や理論を紹介しながら、教育とジェンダーの問題をより広い範囲で考えます。また、各テーマに関連した問題を受講者の関心領域から選び授業時に発表してもらいます。

講義の内容・授業スケジュール

この演習で扱う内容は次の通りです。
①教育制度とジェンダー ②教育投資とジェンダー ③教育機能とジェンダー ④学校文化とジェンダー

成績評価の方法

出席 (10%)、課題 (発表、レポート) (50%)、小テスト (40%)。成績評価の条件については、最初の授業で詳しく説明します。

教科書

最初の授業時に説明します。

その他

この科目は、平成11年度までに「女性と学習」の単位を修得した者は、履修できません。この科目は、平成11年度以前入学生には、総合演習 (14) の単位として認められません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
職業教育Ⅰ (前期)	しお かわ まさ と 塩 川 正 人	社教主事2・3・4選	2

講義のねらい

本授業の使命は「就職試験に成功する学生」を育てることである。どんな就職をするかは、学生諸君の大学四年間の「総決算」となる。悪い就職をすれば、四年間の大学生活の価値を失う。親の愛と期待に応えないことになる。就職は、諸君の人生を決める「最大の事業」である。二年、三年時に就職の本来の意味を、本気で考えることが、本授業のねらいである。講師は本業の経営コンサルタントの立場から、学生生活の意義と就職を成功するノウハウを伝えたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 企業とは何か、職業とは何か
2. 企業は学生に何を期待しているか。
3. 就職への準備。
4. 企業選択の基準。

履修上の留意点

1. 講師が企業で取り組んでいる資料を多数配布するため、資料保存用のバインダーが必要。
2. 授業内容は、講義が半分以下で、意見発表や討論の時間が多い。
3. 教員や公務員志望の諸君も就職試験の基本は同じ。就職に勝つノウハウを提供する授業。

成績評価の方法

筆記試験でなく、平常授業のそのものを評価する。

その他

この科目は、平成11年度までに「企業内教育・職業訓練」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
職業教育Ⅱ (後期)	しお かわ まさ と 塩川正人	社教主事2・3・4選	2

講義のねらい

前期に続き「就職」という、学生生活最大のイベントを、いかに成功するかを、本格的に考える。「企業とは何か」を、全角度から取り上げ、併せて就職試験の仮想体験を繰り返す。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容 1. 自己分析
2. 面接試験の実習
3. 論文試験の実習 など実習をベースにした講義展開をしたい。
講義の特徴 前期と同じですが、面接や自己アピールの仕方に重点をおいて取り組む。

成績評価の方法

前期同様に平常授業とレポートによって行う。

その他

この科目は、平成11年度までに「企業内教育・職業訓練」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会体育Ⅰ・Ⅱ (前期)(後期)	よし だ み き 吉田実生	社教主事2・3・4選	2

講義のねらい

人が人と生き、社会を形成してゆく時、何を基本にするかで、生み出すものが変わってゆきます。この授業では、「人間」とは何か、「共に生きる」とはどういうことなのかを、からだを通しての気づきから探ってみたいと思います。からだの感覚をひらいてゆくことで何が生まれ、どう展開してゆくのかを体験し、からだの中に隠れている可能性を各人が発見し、実感して行ってほしいと思っています。

講義の内容・授業スケジュール

感じること、さまざまな動きの体験、呼吸、重力の体験、人や物との関わりなど、具体的な実習を通して、「今、自分に起きていること」、「今、自分が経験していること」に気づいてゆきます。からだの内に潜んでいる叡智に心を傾けること、ここから変化が始まります。気づきを深めてゆくことで、自分自身を信頼し、他者を尊重しつつ、状況を拓き新しいものを生んでゆく力が育ってゆきます。

履修上の留意点

からだの内的感覚に基づく履修内容なので連続受講が必要です。

成績評価の方法

平常授業（レポートも含む）

参考書等

授業中に適宜紹介します。

その他

授業は実技を中心に行います。
からだをしめつけない、動きやすい服装で受講して下さい。

科目名	配当学科	単位
教育の思想	社教主事2・3・4選	2

(P.12～15) 参照

科目名	配当学科	単位
教育と社会	社教主事2・3・4選	2

(P.16～19) 参照

科目名	配当学科	単位
発達と学習の心理学	社教主事2・3・4選	2

(P.19～22) 参照

科目名	配当学科	単位
教育とメディア	社教主事2・3・4選	2

(P.26～28) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
視聴覚教育	佐野博彦	社教主事2・3・4選	4

(P.149) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育社会学	伊藤茂樹	社教主事2・3・4選	4

(P.72) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育史	山本敏子	社教主事2・3・4選	4

(P.73) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育調査	鈴木規夫	社教主事2・3・4選	4

(P.73) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会心理学	坪井 健	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

この講義は、個人の社会的行動、対人関係、集団行動と個人、集団心理現象など、われわれが日常的に出会うテーマについて、社会心理学の興味深い研究成果を紹介する。社会心理学は、元来社会学と心理学の境界科学であり、実験、テスト、観察、調査など心理学と社会学の研究方法が用いられており、社会学の領域から見れば、かなり心理学的色彩の強い研究が含まれる。この講義では、境界科学としての特徴を生かし、具体的テーマを中心に、ビデオ教材を利用したり、小実験や心理テストなど多彩な方法を用いて授業を展開したいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

1. はじめに - 講義の方針と受講の仕方 -
2. 社会的自己のはなし - 自己過程の社会心理 -
3. 他者との交わり - 友人関係と対人魅力 -
4. 対人関係の心理 - 援助行動と社会的影響 -
5. 集団の中の個人 - 同調行動と意思決定 -
6. 文化現象と個人 - 異文化と日本人 -
7. 現代社会と個人 - 現代人の社会心理 -
8. その他 (社会的認知、社会的欲求、態度変容、リーダーシップなど)

履修上の留意点

1. 授業中に、小実験や心理テストなどを行なうことがあるので、積極的に参加すること。
2. 講義の内容は、通年テーマの概略である。授業の流れとの関係で内容や順序は変更する。
3. 授業中は、配布資料を参考にノートを取り、さらに深く研究したい人は、紹介した文献を参考に自主的に学習内容を深めてもらいたい。

成績評価の方法

1. 出席＋毎時間の受講態度、感想、意見、質問など (20%)
2. 課題レポート・期末試験 (80%)

科目名	担当者名	配当学科	単 位
青少年文化	古関 すま子	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

現在の青少年文化の特徴として、友人達との体を通した遊びや交わりが消え、代わってテレビゲームなど、直接身体を介さず一人で遊ぶことが増えたことがあげられる。本講義ではこのような状況の中で、「身体的無意識の集会的カタルシス」という演劇・舞踊などの舞台芸術の持つ意味を考える。更に自ら演劇および身体表現の基礎を学び、今後の教職等における実践に結びつく体験とすることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

以下の内容を一年にわたって行う。
 学問的基盤－言語獲得の様相など人間の根源的社会性に関する発達心理学の基礎に触れる。
 また世界の舞踏や仮面劇など文化人類学的知見も広げ、「身体の記憶を通し、集会的無意識のカタルシスに向かう」という舞台芸術のダイナミズムを捉え、教育の場におけるその意味を把握する。
 具体的実践－シェークスピアなど幾つかの戯曲を学び、またビデオ鑑賞などを行う。身体感覚や表現力を高めるための、腹式呼吸・マチエール・摺り足歩行など5段階からなるレッスンを体験する。

履修上の留意点

動ける服装で。積極的に楽しんでください。

成績評価の方法

授業中の発表・レポート提出・実技の三つの総合点。

教科書

授業中に指示するが多くはプリント。

参考書等

授業中に指示するが多くはプリント。

その他

この科目は、平成11年度までに「児童文化」の単位を修得したものは、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
現代社会の諸問題と教育Ⅰ (前期)	鈴木朋実	社教主事2・3・4選	2

講義のねらい

現代社会の諸問題のなかでも、子どもの発達の基盤として重要な意味をもつ家族について、今日の諸問題を取り上げ、教育の観点から、その実態、背景、原因を解明し、有効な問題解決の方策をさぐることをねらいとしています。社会性の発達の遅れなど子どもの発達をめぐる問題、不登校・いじめ・校内暴力など学校における問題、その他の非行問題が社会的に憂慮されていますが、その背景には少子高齢化とともに大きく変容しつつある現代家族の在り方をめぐる問題があります。この点を十分に理解し、こうした問題にどのように対応すればよいかを考察するところに講義のポイントをおいています。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、次の3セクションに分けて行う予定です。

第1セクション：「家族集団と子どもの発達」－4月

第2セクション：「産業の発展にともなう家族の変容と教育機能の衰退」－5月

第3セクション：「現代の家族をめぐる問題の諸相と人間形成」－6・7月

履修上の留意点

新聞や書籍などで取り上げられている家族問題への関心を持つことが望まれます。

成績評価の方法

出席状況・レポート・試験により、総合的に評価します。

教科書

プリントを配布します。

参考書等

授業中に紹介します。

その他

授業方法－講義に討論場面・現職教員を招いての質疑応答を加える予定です。

科目名	担当者名	配当学科	単位
現代社会の諸問題と教育Ⅱ (後期)	鈴木朋実	社教主事2・3・4選	2

講義のねらい

現代の社会は急激な変化に伴って解決の難しい多くの問題を発生させていますが、これらの問題は、教育の在り方に直接的、間接的に重大な影響をおよぼしています。わが国の場合、社会的変化は、とりわけ、1960年代の経済成長政策以降、テンポを速め、激しさを増しています。

講義では、わが国の高度経済成長期以降の社会的変化の過程で生じた重要な問題と教育との関係を明らかにして、将来を展望し、問題解決の方途を探ることをねらいとしています。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、次の3セクションに分けて行う予定です。

第1セクション：「高度経済成長にともなう社会の諸問題と教育」－9月

第2セクション：「情報化にともなう問題と生涯学習」－10月、11月

第3セクション：「自由化をめぐる問題と教育」－12月

履修上の留意点

新聞に目を通し、社会問題・教育問題への関心を高めるとよいでしょう。

成績評価の方法

出席状況・レポート・試験により、総合的に評価します。

教科書

プリントを配布します。

参考書等

授業中に紹介します。

その他

授業方法－講義に討論場面を加えます。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
青少年問題研究	讃岐真佐子	社教主事2・3・4選	4

(P.75) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
博物館学Ⅰ(概論) (前期)	太田喜美子	社教主事2・3・4選	2

(P.150) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
博物館学Ⅱ(資料論) (前期)	岸上興一郎	社教主事2・3・4選	2

(P.151) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報メディアの活用 (後期)	源昌久	社教主事2・3・4選	2

(P.127) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報メディアの活用 (後期)	篠田耀子	社教主事2・3・4選	2

(P.127) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
読書と豊かな人間性 (後期)	山田節子	社教主事2・3・4選	2

(P.125) 参照

Ⅳ 博 物 館 学 講 座

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

視 聴 覚 教 育	〈佐野博彦〉	149
考 古 発 掘 実 習	〈酒井清治・飯島武次〉	150
博 物 館 学 I (概 論)	〈太田喜美子〉	150
博 物 館 学 II (資 料 論)	〈岸上興一郎〉	151
博 物 館 学 III (経 営 論・情 報 論)	〈岸上興一郎〉	151
博 物 館 実 習 I (館 務)	〈太田喜美子・飯島武次・湯浅隆〉	152
博 物 館 実 習 II (収 集)	〈太田喜美子・他〉	153
博 物 館 実 習 III (見 学)	〈太田喜美子・酒井清治・松本信道〉	153
教 育 の 思 想		154
教 育 と 社 会		154
生 涯 学 習 概 論 I	〈豊田千代子〉	154
生 涯 学 習 概 論 II	〈豊田千代子〉	154

(2) 選択必修科目

イ ン ド 仏 教 文 化 史	〈金沢篤〉	155
中 国 仏 教 文 化 史	〈永井政之〉	155
日 本 仏 教 文 化 史	〈袴谷憲昭〉	156
禪 美 術	〈村松哲文〉	156
仏 教 美 術	〈村松哲文〉	157
仏 教 民 俗 学	〈須藤寛人〉	157
日 本 民 俗 学	〈谷口貢〉	158
美 術 史 概 説	〈北野良枝〉	158
現 代 美 術	〈矢野陽子〉	159
地 形 学	〈小池一之〉	159
第 四 紀 学	〈鈴木毅彦〉	160
日 本 考 古 学 概 説	〈酒井清治〉	160
外 国 考 古 学 概 説	〈飯島武次〉	161
西 洋 文 化 史	〈石田恵子〉	161
日 本 文 化 史	〈吉田政博〉	162
考 古 学 特 講 I (日 本 歴 史 時 代)	〈酒井清治〉	163
考 古 学 特 講 II (日 本 歴 史 時 代)	〈休 講〉	
考 古 学 特 講 III (日 本 石 器 時 代)	〈設楽博己〉	163
考 古 学 特 講 IV (外 国 考 古 学)	〈休 講〉	
考 古 学 特 講 V (旧 石 器 時 代)	〈上敷領久〉	164
考 古 学 特 講 VI (環 境 考 古 学)	〈休 講〉	
考 古 学 特 講 VII (文 化 財・遺 跡 保 存)	〈矢野和之〉	164
西 域 美 術 史	〈松平美和子〉	165
宗 教 人 類 学	〈佐藤憲昭〉	165

(1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
視聴覚教育	佐野博彦	学芸員2・3必	4

講義のねらい

視聴覚教室は、言語を中心とした古来からの教育に対して、人間の感覚を基本におくことを重要視する思想から生まれてきた。抽象的においてすぐれている言語に対し、映像など視聴覚を基にした教材は、その具体性においてすぐれている。この視聴覚教材の持つ特質を利用して、教科書と黒板という従来の教育を超えて、より豊かな教育を行うことが視聴覚教室の目的である。それに加えて、テレビやインターネットが発達してきた現代の情報化社会においては、メディアを利用した教育は、「視聴覚教育」という概念を越えて、新たな「メディア教育」という地平にまで進んできている。

こうしたメディアを対象とした教育において、二つの考え方が存在する。一つはメディアを利用して効果的な教育を実践しようというもので、主に教科教育の面で古くから実践されてきたものである。一つは、現代のようにメディアが発達し、人間をとりまく環境のごとき存在になってきたとき、そのメディアを適切に理解し、批判していく能力を身につけようという考え方で、前者が「メディアで学ぶ」とすれば、後者は「メディアを学ぶ」という考え方であるといえよう。近年は、特にこの後者の考え方、すなわち、メディア・リテラシーの重要性が認識されてきた。

この講義では、こうした考えの下に、教育放送、コンピュータ、インターネットなどを利用して視聴覚教育が実践されている姿をできるだけVTRなどで紹介するとともに、現代の教育の情報化の実態、さらにはメディア・リテラシーの実践と考え方を紹介し、視聴覚教育の方法と意義を考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

視聴覚教育とはなにか／視聴覚教育の歴史的形成／映画の誕生～近代的コミュニケーション技術の登場～／映画の進化～見世物から芸術へ～／映画の教育利用／放送の誕生とその意味／テレビの登場／テレビの教育利用／放送教育の運動と思想／メディア・リテラシーの重要性／メディア・リテラシーの実践／コンピュータの登場／CAI～コンピュータの教育利用～／ツールとしてのコンピュータ／マルチメディアコンピュータの登場／マルチメディアとハイパーメディア／インターネットの登場／インターネット利用教育／視聴覚教育の意味／高度情報化社会とその捉え方／日本の情報化の現状／教育の情報化の現状／新しい教育課程と情報教育／情報リテラシーの重要性／情報化社会と生涯学習

成績評価の方法

評価はレポートによるが出席を重視する。

教科書

佐賀啓男編著『視聴覚メディアと教育』（樹村房）2002

参考書等

坂元昂監修文部科学省メディア教育開発センター編『教育メディア科学』（オーム社出版局）2001

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 発 掘 実 習	酒井 清治・飯島 武次	学芸員3・4必	2

講義のねらい

考古学の基本は発掘した資料から人類の歴史を考えることであるが、発掘技術の優劣により発掘資料の情報量も異なってくる。発掘現場で対応できる発掘技術の習得を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

考古発掘実習の授業は、通常の教場での授業と夏休みの野外考古発掘実習からなっている。

履修上の留意点

夏休みの野外考古発掘実習は実習先の都合もあり、夏休み直前まで場所と日程が決定しないのが通例である。従って履修者は、博物館実習等との関係をよく考えあわせ、夏休みの計画の中に、発掘実習と館務実習以外の計画を先行して予定しないこと。夏休みの私的な計画は、発掘実習と館務実習の期間が決定した後に計画を作ること。

授業と野外考古発掘実習においては、授業連絡・授業教程の関係から無届けの欠席、遅刻は一切認めない。またいかなる理由があっても年度の第1回の授業には出席すること。以上の件に反した学生に対しては、教師側の時々の判断で履修を禁止することがある。これは勝手な欠席・遅刻が該当年度の野外考古発掘実習の計画・実行を妨げるからで、履修学生の協力をお願いする。

成績評価の方法

成績評価は出席点と平常点および発掘実習と発掘日誌。

教 科 書

『考古学調査ハンドブックス1 野外編』（雄山閣）1984年

参 考 書 等

授業の中で資料を配付する。

そ の 他

通常は講義で、夏休みに野外発掘実習を行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
博物館学Ⅰ(概論)(前期)	太 田 喜美子	学芸員2必	2

講義のねらい

博物館学講座（学芸員課程）の必修科目である。博物館法施行規則によると、「博物館学」6単位が必修である。この「博物館学Ⅰ」は2単位であり、6単位を充たすためには、あとふたつの「博物館学Ⅱ・Ⅲ（岸上講師）、各2単位」も履修していただかないと次年度へ進めないの注意を要する。

この講義では、「博物館法」をテキストにして、博物館の意義、学芸員の仕事等を理解してもらい、いっぽう「博物館学Ⅱ・Ⅲ」では、実際の学芸員の仕事や博物館の事業について、岸上興一郎講師に講義していただいている。

履修上の留意点

この「博物館学Ⅰ」は、年度初めの第1週の授業で、駒澤大学にあって、学芸員資格を取得する手続きと方法について、細かく説明するので、必ず出席すること。途中で（2回や3回目）出席して、手続きその他質問に来て、第1回目の教室で説明したことを、欠席者に特に丁寧に説明することはないので注意しておいてもらいたい。

この授業は前期2単位の授業であるから、後期には無いはずであるが、実は後期になっても、数回教室に出席してもらうことにしている。したがって、水曜日3限目の後期については、「履修届」に書きこまないことをお勧めしたい。けれども、学科の必修科目にぶつかってしまうこともあるだろう。そういう方は、相談に来てほしい。

この「博物館学Ⅰ・Ⅱ」計4単位は、社会教育主事の選択科目にもなっているが、この場合も4単位履修していなければならないので、ⅠとⅡの両方を履修しないと通用しない。注意しておきたい。

成績評価の方法

試験による評価（詳細は、第1回目に説明する。）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
博物館学Ⅱ(資料論)(前期)	きし がみ こういちろう 岸 上 興一郎	学芸員2必	2

講義のねらい

博物館で扱う資料とは何であるのかを問う。

講義の内容・
授業スケジュール

博物館法および関連法でいう博物館資料について述べる。資料は多様な環境の中におかれている。それらの資料がいかなる過程をへて博物館に寄贈・寄託・借用・購入され、研究・収蔵そして展示されていくのかを事例をもとに展開する。

履修上の留意点

資料のもつ基礎情報を学芸員として熟知し、いかに展示空間に動と静の知的世界を構築するかを考えること。

成績評価の方法

授業態度・レポート提出。

教 科 書

(財)日本博物館協会編『博物館関係法令集』
必要に応じて関係資料を作成し配布する。

参 考 書 等

各大学・各博物館などから刊行されている『紀要』
(財)日本博物館協会編 月刊『博物館研究』

そ の 他

講義。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
博物館学Ⅲ(後期) (経営論・情報論)	きし がみ こういちろう 岸 上 興一郎	学芸員2必	2

講義のねらい

博物館は学芸職と事務職によって構成されている。その経営にあたっては、各個人の暗黙知、つまり各個人のもっている情報・知識の豊かさが結果を左右する。さらにはそれを言語化・明示化して組織内で共有し、有効活用することを形式知化という。ここを講義のポイントとする。この理論は博物館経営をより発展させる重要な鍵でもある。学芸員の経営関与を問う。

講義の内容・
授業スケジュール

各博物館は、その創設時の状況によって、公立・市立・財団など種々の組織形態をとってはいるが、形式知化は、すべての博物館に共通する経営理論である。ここでは、それによって積算された予算、その執行と展開などの事例にふれる。博物館のもつ本来の情報とは何か。情報と博物館および学芸員の倫理の問題を考える。

履修上の留意点

予算の仕組みおよび博物館資料のもつ情報と、そのあつかいを理解すること。

成績評価の方法

授業態度・レポート提出。

教 科 書

(財)日本博物館協会編『博物館関係法令集』
必要に応じて関係資料を作成し配布する。

参 考 書 等

各大学・各博物館などから刊行されている『紀要』
(財)日本博物館協会編 月刊『博物館研究』

そ の 他

講義。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
博 物 館 実 習 I (館 務)	おおた さま こ 太田喜美子・飯島 武次 ゆあさ たかし 湯浅 隆	学芸員3・4必	2

履修上の留意点

この授業は4月第1週から、最終講義まで、1回でも欠席・遅刻・早退すると、単位が取得不可能なので注意してほしい。この方法は、本学の博物館講座開設以来30数年間不変であるので、君だけ特別に単位を出しましょう、というわけにはいかない。

この講義時間に出るということは、君が企画専任者である特別展の開幕日開幕時に君がきちんと会場にいるかどうかということと同じに考えなさい、ということである。

毎週の授業の他に、主として、夏期休暇中に、一つの博物館で、学芸員実習を行う。この実習は、他の大学の実習生といっしょに行うため、他流試合的な楽しみももっているのですが、日頃の授業時と同じように、絶対に遅刻・欠席してはいけません。一度、そういうことをすれば「駒大には遅刻した学生がいる」と、10年ぐらいは言われ続けるので、注意してほしい。また、多くの実習博物館に本学出身の学芸員の方がいらっしやるので、その先輩に迷惑をおかけすることにもなる。実習は夏期に行う館が80%を占めるが、別の時期に行う館もあるので、夏休みに海外短期留学などする方も相談に来てほしい。

この科目は、本学の博物館講座の締括りになる実習なので、特に心を引き締めて履修していただきたい。「博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」・「博物館実習Ⅲ（見学）」に先だって、この科目を履修することはできない。つまり、この「博物館実習Ⅰ（館務）」を3年生次に履修して、「博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」あるいは「博物館実習Ⅲ（見学）」を4年生次に履修してはいけない、ということである。履修にあたっての細かい事柄は、その都度、教室で話をする。後期には実習した館の実習内容につき報告会をするので、きちんとまとめることを忘れぬよう。

成績評価の方法

授業態度・実習評価・発表能力による評価。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
博物館実習Ⅱ(収集)	太田喜美子・國見 徹 久保田昌希・小林 和幸 佐々木 真・瀧音 能之 中野 達哉	学芸員3・4必	2

講義のねらい

博物館活動の主たる3本柱のうちの「博物館資料の収集」の方法の勉強をする。博物館学芸員は、学芸員の個性を活かさなければならない面と、個性を殺さなければならない面がある。「博物館実習Ⅱ(収集)」では、一つの博物館が何年あるいは何十年にもわたって資料を収集し続けていても、恰かも、常に一人の人が収集してきたかともみえるような統一性が必要である。また、一つの展示をするにしても、その企画に参画する数人のスタッフの成果は、バラバラであってはならないのである。

その意味では、この「博物館実習Ⅱ(収集)」はあまりに個性豊かな人・あるいは協調性の乏しい人には、かなりきつまいようである。この実習は、必ず合宿して実施しているので、共同生活を知ろうとする意欲の有無がかなり影響をもっているらしい。

博物館学芸員を目指して履修している学生が、学芸員課程を断念するきっかけは、たいてい、この実習の直後であることが多い。つまり、合宿して収集実習を終えた時点で、これほど協調性が必要なら、自分には不向きである、と思いきんでしまうのであろう。そう自覚したら、確かに、君は学芸員に不向きなのかもしれない。そうした場合には、どんどん、個人的に相談に来てほしい。

また、本学で学芸員資格を取るための実習は、「Ⅰ(館務)」・「Ⅱ(収集)」・「Ⅲ(見学)」の3つが必修であるが、「Ⅱ(収集)」の代わりに、「考古発掘実習」を履修しても、学芸員課程の「実習Ⅱ(収集)」に読みかえることができる。ただし、発掘は、真夏の炎天下で1か月間参加することが必要なので、この科目を必修とする、考古学専攻生以外の方には勧められない。

この実習で、今年度予定しているのは、

1. 長野県北佐久郡望月町での近世文書調査と石仏収集調査実習。
2. 同上町での石仏収集調査実習。
3. 長野県飯田市周辺での石仏調査。

履修上の留意点

年度第1回目の授業に必ず出席のこと。

成績評価の方法

授業態度・実習評価

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
博物館実習Ⅲ(見学)	太田喜美子・酒井 清治 松本 信道	学芸員2・3必	2

講義のねらい

本学での博物館実習は、2年次に行うこの実習と、3・4年次で行う、「Ⅰ(館務)」と「Ⅱ(収集)」の3つが規定されている。

つまり、この実習は、君がこの課程で、初めて行なう、学外での実習ということになる。都内あるいは周辺の博物館で見学するのであるが、基本的には、見学館は10館。見学の度にレポートを提出する。そのレポートを添削して、原稿用紙の使い方から、字数のまとめ方等、かなり、しっかり、指導することになっている。

履修の方法は、なんととっても、学外の博物館見学であるから、当然、1コマ90分内では無理である。そのため、履修にあたっては、学生の都合を充分、考えに入れたうえで、できるかぎり柔軟に対応して、あぶれてしまう人がでないように留意するつもりである。そのために、相談しなければならないことがあるので、年度第1週には必ず出席してほしい。学生の都合を汲んでA~Dの4組ぐらいに分けて、異なる見学方法をとることになることと、今年度は、履修希望者が非常に多くなると予測されるので、第1週に、出席した人数で組分けしてしまう。結果的に、第1週に欠席すると、はみ出してしまうことになる。

この授業は、水曜日の3・4限を通して行うことになるのだが、3限目あるいは5限目に学科の必修科目とぶつかってしまうこともある。そのような問題をもつ人は、必ず、第1週に出席してほしい。第1週の授業終了後に、個人的に相談に来て、もう、対応不能なので、その場合は、翌年履修する以外に方法が無い。

成績評価の方法

レポート点による評価。

科目名	配当学科	単位
教育の思想	学芸員2必	2

(P.12~15) 参照

科目名	配当学科	単位
教育と社会	学芸員2必	2

(P.16~19) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
生涯学習概論Ⅰ (前期)	とよ た ちよこ 豊田千代子	学芸員2・3必	2

(P.133) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
生涯学習概論Ⅱ (後期)	とよ た ちよこ 豊田千代子	学芸員2・3必	2

(P.134) 参照

(2) 選択必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
インド仏教文化史	<small>かな</small> 金 <small>ざわ</small> 沢 <small>あつし</small> 篤	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

インド生まれの仏教を、広範で多岐多様なインド文化の史的展望の中でとらえてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

神や人間などが織りなす奇想天外なインドの物語世界の解説を皮切りに、仏教の出現と展開と衰頽にまつわる文化的トピックを論究する。

履修上の留意点

仏教や古今のインド文化に熱い関心を持つ学生諸君の主体的取り組みを期待する。

成績評価の方法

年度末試験などで総合的に判断する。

教科書

渡辺照宏著『仏教（第二版）』（岩波新書）740円

参考書等

教場で適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国仏教文化史	<small>なが</small> 永 <small>い</small> 井 <small>まさ</small> 政 <small>し</small> 之	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

仏教をさまざまな人間の営みの一環として捉えようとするのが本授業の中心となる。いささか具体的に述べるなら次のようになる。

すなわち今から約2500年前、インドに起った仏教は、紀元前後に中国へ伝来する。中国人にとっては異文化であった仏教は、少なからぬ変容を遂げつつ、中国に定着する。言うまでもなく定着した仏教は、中国人の理解した仏教ということとなる。

今年は、「仏教の葬送儀礼」にテーマを設定して論ずるものとした。

履修上の留意点

適宜プリントを配布し、参考文献を指示する。

成績評価の方法

レポート及び出席点によって成績を評価する。

参考書等

曹洞宗総合研究センター編『葬祭—現代的意義と課題—』1,300円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 仏 教 文 化 史	袴 谷 憲 昭 <small>はかま や のり あき</small>	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

下記の教科書により、仏教思想とはなにかという課題を断えず問いかけながら、日本における仏教文化の実態を検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

- I 仏教東漸—半跏思惟像
- II 「玉虫厨子」と捨身供養
- III 『往生要集』と地獄極楽
- IV 『一言芳談』と後世物語
- V 『日本史』における仏教
- VI 『新論』の国体論と仏教
- VII 仏教西来—靖国問題考

履修上の留意点

参加者には、文献を自ら読もうとすることが要求される。なお、必要に応じて資料を配布するが、資料の再発行は原則としてしないので、気をつけられたい。

成績評価の方法

学年末の定期試験による。ただし、参加者の状況によっては評価の方法の変更もありうる。

教 科 書

袴谷憲昭著『仏教入門』（大蔵出版）2004年

参 考 書 等

渡辺照宏『日本の仏教』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
禪 美 術	村 松 哲 文 <small>むら まつ てつ ふみ</small>	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

禅宗では、はじめ偶像を崇拜せず、自己の内面に仏性を悟ることを旨としていた。そのため仏像や仏画の類は制作されることがなかったが、宋代になると、僧侶たちが余暇に水墨画を描くようになり、これが次第に集団をつくり職人画家まで出現する。描かれる題材は、祖師像・禅会図・山水図など様々である。日本へは鎌倉時代以降、こうした禅宗絵画が伝わった。本講義では、中国から日本までの禅宗絵画を中心に解説し、枯淡玄幽を重んじる禅の美意識を考えたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- [前期] 講義ガイダンスと宋代の社会と仏教（1～3）
北宋の絵画（4～7）
南宋の絵画（8～11）
元の絵画（12～15）
- [後期] 日本における宋代絵画の受容（16～19）
元代絵画の受容（20～23）
画僧の活動（24～27）
題材別解読（28～30）

履修上の留意点

講義内容を留めるのみならず、講義の際に映すスライドなどもしっかり観察してもらいたい。また、博物館・美術館に見学に行く機会を多くつくること。

成績評価の方法

定期試験と出席点、レポートなどで総合的に評価する。

教 科 書

参考書・参考論文などは講義中に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 美 術	むら まつ てつ ふみ 村 松 哲 文	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

インド・中国・朝鮮・日本の仏教美術について、歴史的背景と照らし合わせながら概観する。仏像は、地域や時代によって、その作風などに相違が生ずることを理解してもらいたい。そして、その相違を自分で発見できるようになることが本講義の目標である。

講義の内容・授業スケジュール

- [前期] 仏教美術の世界 (1)
 インド・無仏時代 (2・3)
 インド・ガンダーラ仏とマトゥラー仏 (4・5)
 中国・初期の仏像 (6)
 中国・敦煌石窟 (7～9)
 中国・雲岡石窟 (10～12)
 中国・龍門石窟 (13～15)
- [後期] 中国・地域的な様式差 (16～17)
 朝鮮・三国の仏像 (18～20)
 朝鮮・統一新羅の仏像 (21)
 日本・飛鳥時代の仏像 (22～23)
 日本・白鳳時代の仏像 (24～25)
 日本・天平時代の仏像 (26～28)
 日本・平安時代の仏像 (29～30)

履修上の留意点

博物館・美術館・寺院に行き、多くの仏像を観察するように努めてもらいたい。

成績評価の方法

定期試験と出席点、レポートなどで総合的に評価する。

教 科 書

参考書・参考論文などは講義中に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 民 俗 学	す どう ひろ と 須 藤 寛 人	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

宗教学的視座を養うことが本講義の目的です。多くの日本人にとって、宗教は、必ずしも明確な形を持ったものではありません。しかし、人間や文化を理解することの、すべてではないにしても、その一部は宗教を理解することによって可能となるものであると考えられます。日本人の宗教とは何かを理解することは、日本人とは何かという問題に深く関わっていますし、ひいては自分とは何かを考えるための足がかりになると思われます。また、日頃、目にする出来事でも、そこに何かしらの宗教的意味が見いだされることがあります。視座を少し変えるだけで、それが可能になる場合もあります。本講義がそのための助けになればと思っています。

講義の内容・授業スケジュール

- 宗教とは何か？ 宗教学とは何か？ 宗教と呪術。聖と俗。
 - 儀礼。呪術。シャーマニズム。噂・怪談・都市伝説。
 - 日本人の他界観。諸宗教の歴史。日本の宗教。現代の宗教状況。
- 以上の三点を本講義の基軸とし、主要な概念や理論について解説をしていきたいと思ひます。また具体的な事例やタイムリーな話題を交えて講義をおこなっていききたいと思ひます。

履修上の留意点

できるだけ遅刻はしないで下さい。私語は慎んでください。携帯電話・PHS等は授業中は着信音がならないようにするか電源を切ってください。

成績評価の方法

夏期レポートを20%、学期末の定期試験80%とし、出欠状況を加味して総合的に評価します。

教 科 書

教科書は用いません。要点をまとめたプリントを配布します。

参 考 書 等

授業の流れに応じて、適宜、紹介したいと思います。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 民 俗 学	谷 口 貢	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識を把握できるようにしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことにしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の靈魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

成績評価の方法

夏期レポート及び小レポートを実施する予定。受講者の成績評価は、夏期レポートと小レポート、そして学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。出席を重視する。

教 科 書

使用しない。

参 考 書 等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』（吉川弘文館）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
美 術 史 概 説	北 野 良 枝	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

奈良時代から江戸時代に至る日本絵画の流れを、中国およびヨーロッパとの関係に留意しつつ概説する。美術の歴史を解説するにあたっては、常に作品を参照する必要があるため、授業では毎回スライドを使用する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 前期 奈良時代から室町時代の絵画
- (1) ガイダンス
 - (2) 絵画に関する基礎知識、法隆寺金堂壁画
 - (3)～(4) 仏教絵画
 - (5)～(6) 絵巻物
 - (7)～(8) 肖像画
 - (9)～(12) 室町時代の水墨画
- 後期 室町時代から江戸時代の絵画
- (13)～(14) 土佐派、狩野派
 - (15)～(16) 狩野永徳と桃山画壇
 - (17) 江戸時代の狩野派
 - (18)～(19) 琳派
 - (20)～(21) 浮世絵
 - (22) 南蘋派
 - (23) 文人画
 - (24) 秋田蘭画と司馬江漢
 - (25) 江戸から明治へ

履修上の留意点

ペンライトなどを持参し、スライドで映写する内容についてもノートをとることが望ましい。

成績評価の方法

学年末に筆記試験を実施し、その得点によって評価する。

そ の 他

毎回スライドを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現 代 美 術	矢 野 陽 子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

この授業では20世紀の美術を「現代美術」として取り上げます。20世紀初頭から次々と展開された大胆で革新的な試みは、従来の美術、すなわち外界の再現を目的とした絵画や人体を主たる題材とした彫刻とは大きく異なる作品を生みだしてきました。20世紀の主要な美術運動、芸術家とその作品を見て理解しながら、美術が技術革新やマスメディアの発達、大量消費型の生活といった同時代の様相とどのように関わっているかも考察していきます。

講義の内容・授業スケジュール

現代美術を理解するにあたって、まず19世紀後半の美術を簡潔に概観します。前期は20世紀初頭の二大運動であるフォーヴィスムとキュビスムを中心に話を進めます。色彩の使い方を大きく変えたフォーヴィスムと形態を問題にしたキュビスムとがその後の美術運動に与えた多大な影響を追っていきます。後期はシュルレアリスムから抽象美術、ポップアート、近年の動向を紹介します。

履修上の留意点

美術館や展覧会に行ったり、画集など見るなどして、現代美術に積極的に触れるように心がけてください。

成績評価の方法

夏休みの課題としてのレポートと学年末の試験と出席状況とを合わせて評価する予定。

教科書

講義時にプリントを配布します。

参考書等

美術出版社編『現代美術入門』（美術出版社）2,000円
そのほか授業中適宜紹介します。

その他

授業では毎回スライドを使用します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 形 学	小 池 一 之	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

地形学は、地表の形態とその形成過程を研究する学問で、山がちで変化に富む日本列島には種々の地形が分布している。このため、日本列島は地形研究の上では、世界的にみても好都合な場所である。世界の最先端の研究が多く排出している。まず、地形学の基礎的な概念から説明し、時に最先端の研究成果や地形変化事変（各種の災害など）にも言及する。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールの概要は次の通りである：

前期

地形学の成り立ち、地表を変化させる種々の営力と地形の分類、
地表水の働きと地表の変化（マスウェスティング、種々の河成地形）

後期

種々の河成地形、組織地形、海水の働きと地形、地球内部の力によって形成される地形（火山地形など）、地形発達

履修上の留意点

地理学の中ではかなり理学的（地球科学の1分野でもある）な色彩の強い学問分野である。高校時代に地学を履修していることが望ましい。

成績評価の方法

基本的には、学年末試験の成績で評価する。出席など平常点はあまり加味しないが、時に応じて簡単なテストや課題を課す。

教科書

貝塚爽平著（1998）『発達史地形学』（東京大学出版会）3,400円＋税

参考書等

貝塚爽平・小池一之ほか編（1985）『写真と図でみる地形学』（東京大学出版会）4,500円＋税
小池一之ほか訳（1984）『一般地質学2』（東京大学出版会）3,400円＋税

その他

授業は講義形式で最新の情報を知らせるプリント類を多く配布するとともにスライド、ビデオなどを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
第 四 紀 学	すずき たくや びこ 鈴 木 毅 彦	学芸員3・4選	4

講義のねらい

第四紀は最近200万年間のことをさす。この地質時代は人類、動植物、気候、地形など多くの事象が現在みられる姿を成立させた時代でもある。このような最近の地質時代を理解することは人類の動向も含めた地球の将来を予測することにもつながる。

本講義のねらいはこのような問題意識のもとに、第四紀の概要を理解することである。とくに全地球的な規模での歴史と日本列島特有な第四紀の諸現象についての理解を深めることに目的をおく。

講義の内容・授業スケジュール

講義前半では第四紀の基礎的概念を全般的に解説してゆく。主なテーマは第四紀の定義、氷河作用、地形・地質層序、火山灰編年、人類、動植物、年代測定などである。後半では日本列島の第四紀の主要な課題である、火山灰編年と第四紀地殻変動に焦点をあて、火山の地形と噴火、活断層、山地形成史などのテーマをとりあげる。

履修上の留意点

受講の際に高校の社会科で使用される地図帳を持参されたい。

成績評価の方法

おもには前期末のレポートと後期末の筆記試験

参 考 書 等

教科書は特に指定しないが、参考書として、日本第四紀学会編『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』（古今書院）2,233円をあげる。それ以外の参考書は講義中に紹介する。

そ の 他

講義では、ビデオ、OHP、液晶プロジェクターを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 考 古 学 概 説	さか い きよ し 酒 井 清 治	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本の考古学は発掘も膨大にあり日々新しい資料も蓄積されている。その資料はどのような意味があるのか、資料からどのようなことが分かるのか、日本の考古学の中に位置づけ考古学とは何かを理解してもらおう。

講義の内容・授業スケジュール

考古学の遺跡・遺物を時代を追って取り上げ、最新の資料も紹介しながら日本考古学を時代史的に概観する。前期は考古学とは何かにふれた後、旧石器時代から弥生時代まで、後期は古墳時代から歴史時代までを概観する。

履修上の留意点

遅刻厳禁

成績評価の方法

定期試験で採点。平常点も加味する。

参 考 書 等

鈴木公雄『考古学入門』（東大出版社）
安蒜雅雄『考古学キーワード』（有斐閣）
江上波夫『考古学ゼミナール』（山川出版社）
そのほか授業中に解説しながら紹介する。

そ の 他

講義の中でOHPを使用し、図や写真あるいは実物資料を利用し理解を深める。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
外国考古学概説	飯島武次	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

東洋考古学概説の講義を行う。地域的には中国を中心に話をし、中国考古学研究の現状を理解してもらう。

講義の内容・授業スケジュール

時代的には、旧石器時代から開始して、新石器時代・殷周時代・秦漢時代・南北朝時代を経て、隋唐時代までの講義を完了することを目標に授業をすすめていく。

履修上の留意点

欠席・遅刻をしないこと。

成績評価の方法

成績評価は学年末の試験で行うが、授業内容および試験の内容は、考古学専攻者としては一般的な常識であるのでよく勉強して臨むこと。

参考書等

飯島武次『夏殷文化の考古学研究』（山川出版社）1985年
 飯島武次『中国新石器文化研究』（山川出版社）1991年
 飯島武次『中国周文化考古学研究』（同成社）1998年
 飯島武次『中国考古学概論』（同成社）2003年

そ の 他

スライドやビデオを多用する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西洋文化史	石田恵子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

東洋に対する西洋文化のルーツをたどっていくと、ギリシャ・ローマの地中海世界を経て、古代西アジア地域の文化にまでたどっていくことが出来る。特に西アジアに起源する印章文化の展開を柱として、それにまつわる古代オリエントの歴史、印章の種類、役割の多様性などを紹介しつつ、ヨーロッパ世界に伝えられていった指輪型印章や封ロウをルネサンス時代まで追いつき、今日まで残る印章の意義を考える。

講義の内容・授業スケジュール

前期はメソポタミアで誕生したスタンプ印章の使用開始から円筒印章の登場、メソポタミアに栄えた円筒印章の変遷、その素材と技術、メソポタミア周辺の印章文化も紹介する。後期は書写材料・文字の変遷による円筒印章の終焉とスタンプ印章の復活、ギリシア・ローマ世界、ビザンチン・イスラム世界、中世ヨーロッパ及びそれ以降の印章及び印章に関わる文化を概観する。

履修上の留意点

広く興味を持って本や展覧会など見るようにすること。

成績評価の方法

出席点と課題レポート

教科書

特になし

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 文 化 史	よし だ まさ ひろ 吉 田 政 博	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本の文化の歴史が、社会の生産や生産組織の問題と深くかかわっていたことに留意し、朝廷・公家・武家ばかりでなく、民衆も文化の創造にかかわっていったことを、明らかにする。

講義の内容・
授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、鎌倉期から江戸期にかけての文化について講述する。つぎのような順序で授業を進めていく。

- ① 中世文化史研究の動向
- ② 中世文化の成立
- ③ 鎌倉新仏教と文化
- ④ 五山文学
- ⑤ 南北朝～室町文化
- ⑥ 北山文化の形成
- ⑦ 東山文化の展開
- ⑧ 中世の職能民
- ⑨ 禅宗と文化
- ⑩ 知識人の思想
- ⑪ 連歌師の旅
- ⑫ 京都と大名領国の文化
- ⑬ 桃山文化
- ⑭ 近世文化史研究の動向

履修上の留意点

復習が必要であることはもちろんであるが、例えば中世・近世の文化をテーマとした博物館・美術館での展示会を展観する機会を積極的に持ってもらいたい。受講する上では図書館所蔵の文化史・美術史に関する資料・ビデオ等を大いに活用していただきたい。また禅文化歴史博物館への見学・説明会を実施することとする。

成績評価の方法

定期試験の結果による。これに授業の出欠状況を加味する。

教 科 書

特に指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参 考 書 等

授業中に随時示していく。

科目名	担当者名	配当学科	単位
考古学特講Ⅰ 〔日本歴史時代〕	さか い きよ じ 酒 井 清 治	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

5世紀初頭に朝鮮半島から伝わった須恵器は、古墳時代の畿内政権あるいは各地の首長層と密接な関連があり、古墳時代あるいは古代を考える重要な土器である。この須恵器は全国各地で詳細な編年ができて、考古学的な年代決定の重要な資料となっている。また生産地である窯跡や工房が発見されており、消費地との需給関係が分かる。さらに須恵器生産は古墳時代においてきわめて政治的に生産が開始されており、須恵器生産地から生産体制を解明する材料となっている。

当時の手工業史としての須恵器生産史や流通史を解明することにより須恵器から古墳時代、古代を考える。また、朝鮮半島の土器生産と比較し、土器から見た生産体制の違いを考えてみる。

講義の内容・授業スケジュール

須恵器や窯跡に関する論文を紹介しながら、須恵器生産・流通・歴史的背景を概観する。

履修上の留意点

遅刻しないこと

成績評価の方法

定期試験とレポート、平常点

教科書

授業の中で適宜紹介する

参考書等

中村浩『須恵器』（ニュー・サイエンス社）
中村浩『和泉陶器窯の研究』（柏書房）
山田邦和『須恵器生産の研究』（学生社）

その他

授業はOHPを利用して講義で行うが、遺物の観察法についても実物を見ながら解説する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
考古学特講Ⅲ 〔日本石器時代〕	した ら ひろ み 設 楽 博 己	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

考古学の年代論 弥生時代が500年さかのぼるのではないか、という新聞記事は記憶に新しい。でもなぜなのか、知っている人は少ないだろう。日本に前期・中期旧石器時代があったという詐欺に、日本考古学がまんまとだまされてしまったのはなぜか。年代には相対年代と絶対年代がある。考古学独自の年代決定方法は相対年代の決定にとくに有効であるが、歴史学の基礎になる実年代を求めていくには自然科学的手法の助けを借りなくてはならない。考古学により実年代がどのように決められてきたのか、現在の年代論の到達点と問題点をさぐるとともに、AMS法という高精度な炭素14年代測定法によって純粋考古学の年代観が大きく揺さぶられている状況を紹介し、これからの考古年代論のあるべき姿をともに考える。

講義の内容・授業スケジュール

前期 ①AMS法による高精度編年とはなにか ②考古学的手法による年代決定法
③自然科学的方法による各種の年代測定 ④前期・旧石器捏造問題と年代論
後期 ①縄文時代の土器編年と実年代 ②弥生時代の実年代を論じる ③古墳時代の始まりと邪馬台国問題 ④考古学と年代論

履修上の留意点

考古学の基礎は年代論にあるので、しっかりと講義を聞いてほしい。講義中の私語厳禁。真剣に聞いている者の迷惑になる者は退席を願うので要注意。

成績評価の方法

年度末の試験による評価。

科目名	担当者名	配当学科	単位
考古学特講 V 〔旧石器時代〕	かみしきりょう 上敷領 ひまし 久	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

旧石器時代研究は、他の時代と比較して資料が極端に少ない中で、主に石器の観察によって進められます。本講義では様々な石器観察の視点と分析方法等について研究史を辿りながら再検討し、現代旧石器研究の現状と課題を整理します。さらに分析対象とする地域を選んで検出遺構・出土遺物の分析を行い、そこから先史時代社会を復元していく方法論を考えます。

講義の内容・授業スケジュール

4月・5月は旧石器時代の研究史を振り返ることによって、現在の諸問題の所在を明らかにすることから始めます。6月・7月は基本的な石器の観察と分析方法、および遺跡の研究方法について学びます。9月・10月は旧石器時代研究に必要な周辺諸科学の問題について検討します。11月・12月はまとめとして都内多摩地区を流れる野川流域の遺跡を分析し旧石器時代の社会について考えます。

履修上の留意点

旧石器時代研究の基本は何よりも「石器」を良く観察する事です。概説書や報告書の写真・図面だけで満足せず、可能な限り自分の目で実物を見ること。あるいは旧石器時代の発掘現場の情報を探索し、その感触を体験する事が強く望まれます。

成績評価の方法

年度末の定期試験で、講義中にキーワードとして重点的に説明した内容について、論述形式の試験を行います。なお、出欠状況も評価の参考とします。

参考書等

講義中の内容に沿った文献を適宜紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
考古学特講 VII 〔文化財・遺跡保存〕	やの かつゆき 矢野和之	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

近年、遺跡の保存と活用の必要性が叫ばれている。考古学、歴史学専攻の学生は、将来地方自治体の教育委員会に籍をおき、文化財保護行政に携わるケースが多いと思われる。

このため、単に遺跡の発掘調査のみならず遺跡整備や遺跡博物館の計画を担当するものと考えられるので、文化財の保存計画の基本となる理念、計画プロセス、保存技術等を理解しておく必要がある。

講義の内容・授業スケジュール

- ・文化財の保存と活用の理念
 - ・日本建築史（古代）概要
 - ・遺構とその上部構造体の復元
 - ・保存計画概論
 - ・保存科学、保存工学概論
 - ・まちづくりと文化財
 - ・計画策定の実務
 - ・国内の事例
 - ・海外の事例、文化財保存の国際機関
- 以上を一部演習を混じえながら講義する。

履修上の留意点

特にないが、人文系の知識だけでなく、理科系の知識も必要となる。

成績評価の方法

試験、演習提出物

教科書

なし

参考書等

適宜指示

その他

講義は、スライド、OHP、ビデオ（保存工事の記録等）を使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
西域美術史	まつ だいら みわこ 松 平 美和子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

広義の西域をシルクロードととらえ、西欧から日本まで広がる文化圏で、どのような美術があらわれ発展していったかを考える。

講義の内容・授業スケジュール

前期 シルクロード上の代表的遺跡をとり上げ、その美術について考える。ペルセポリス、バーミヤン、キジール、敦煌などの他、東南アジアの美術もとり上げる。
後期 シルクロード上で生まれ発達したガラス工芸の東西交流について考えたい。具体的には、古代ガラス、ローマングラス、ササングラス、中国のガラスなどをみていく。

成績評価の方法

夏期休暇後のレポート、学年末のレポート試験の評価に出席状況を加味する。

教科書

プリントを随時配布する。

参考書等

講義時に紹介する。

その他

毎時間スライドを、時にビデオも用いる。

科目名	担当者名	配当学科	単位
宗教人類学	さ とう のり あき 佐 藤 憲 昭	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

宗教人類学は、文化人類学の視点と方法から諸民族の宗教文化について比較研究をする学問である。そして、その営為を通して「人間とは何か」という問題に答えようとするものである。本年度は、人類に根源的・普遍的な文化のひとつに数えられている「シャーマニズム」を取り上げ、宗教人類学の考え方について習得することを目指したい。

シャーマニズムとは、神霊と直接交流をしながら、予言、託宣、祭儀、治病行為などの役割を果たす人物（＝シャーマン）を中心とする宗教現象である。この現象はあらゆる宗教と結びつく性格を具えている。内外の事例を紹介しながら、多角的に考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、1. 文化人類学・宗教人類学・宗教民族学、宗教民俗学、2. フィールドワーク、3. 人類学の方法論的特色、4. アニマ（霊）とマナ（力）、5. 民俗宗教の特質、6. 呪術—宗教的職能者の分類などについて具体的に考察する。後期は、1. シャーマニズム研究史、2. シャーマンの特質、3. 脱魂文化と憑霊文化、4. 都市のシャーマニズム、6. シャーマニズムと仏教文化などのテーマのもとに考えてみたい。

履修上の留意点

欠席をする場合（または欠席をした場合）には、欠席届（形式は任意）を提出することが望ましい。

成績評価の方法

学年末のレポートで評価する。合格の基準は、1. 講義内容を踏まえていること、2. 参考文献を読みこなしていること、3. みずからの言葉で論じていること、の三点にある。なお、不合格の場合には、出席点を加算して最終評価を行う予定。

教科書

使用しない。

参考書等

授業中に適宜紹介する。

V 社会福祉主事講座

V 社会福祉主事講座

(1) 必修科目

社会福祉原論〈伊藤秀一〉	171
社会福祉原論〈船水浩行〉	172

(2) 選択科目

法学（福祉）〈小林弘人〉	173
社会福祉発達史〈林千代〉	173
社会保障論〈船水浩行〉	174
社会福祉計画論〈川廷宗之〉	175
公的扶助論〈伊藤秀一〉	176
障害者福祉論〈桐原宏行〉	177
老人福祉論〈東條光雅〉	178
児童福祉論〈澁谷昌史〉	179
女性福祉論〈林千代〉	180
医療福祉論〈坂野憲司〉	180
地域福祉論〈豊田宗裕〉	181
社会学（福祉）〈武山梅乘〉	182
心理学（福祉）〈高橋良博〉	182
国際社会福祉論〈休講〉	
リハビリテーション論〈向後礼子〉	183
家庭福祉論〈武山梅乘〉	183
保健福祉論〈休講〉	

(1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会福祉原論	伊藤秀一 <small>いとう しゅういち</small>	社会福祉主事2必	4

講義のねらい

社会福祉は、かつて、慈善事業、社会事業と呼ばれていたものが、今日では、社会を構成する「社会制度」のひとつになったものである。そして、その制度の内容は、今日的貧困をかかえながら、人間性を回復するために他からの援助を必要とする人に対し、対人関係を媒介として、有形無形のサービスを提供することである。

本講では、社会福祉の理念、概念、歴史、制度等広く概観することを目的とする。また、この講義は、1年次の必修科目であるため、社会福祉の基礎知識を整理するとともに、制度的改革の続く社会福祉の今日的な動向と課題についても把握する。

講義の内容・授業スケジュール

(前期)

- ①社会福祉の理念
- ②社会福祉の概念
- ③社会福祉の歴史（イギリス・日本）

(後期)

- ④社会福祉の制度
- ⑤社会福祉の分野
- ⑥社会福祉の方法

履修上の留意点

講義の内容は極めて広範囲にわたるので、指定されたテキスト以外の参考文献等を活用しながら各自学習を深めてほしい。

成績評価の方法

評価は、年度末の定期試験と出席状況等を勘案して行う。

教科書

仲村優一著『社会福祉概論』（誠信書房）

参考書等

随時紹介する。

その他

ビデオ教材を活用したり、受講者による意見発表会等も行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 福 祉 原 論	ふな 船 みず 水 ひろ 浩 ゆき 行	社会福祉主事2必	4

講義のねらい

「社会福祉」という言葉は、現代社会ではとてもポピュラーな言葉となっている。新聞、テレビ等においても、しばしば目にし、また耳にする。選挙があれば、国政・地方、首長・議員いずれのレベルでも多くの候補者がその充実を公約に掲げる。

しかしながら、どちらかと言うとそのイメージだけが先行し、改めて「社会福祉とは何なのであろうか」とか、「社会福祉の援助や活動とはどのようなものなのであろうか」とか、「社会福祉の基盤となっている考え方はどのようなものなのであろうか」とか、「現代社会において何が求められているのであろうか」といったことを問われた時、多くの人々はなかなか上手く答えることができないのが現実と思われる。

一方、わが国の社会福祉は、現在、「社会保障構造改革」「社会福祉基礎構造改革」「介護保険の創設」等のキーワードに代表されるように、大きな転換期を迎えている。

本講の主題は、上記にあげたような社会福祉を学んでいくにあたってのベースとなる諸点を学習し、わが国における社会福祉のあり方を考察していくことにある。

講義の内容・
授業スケジュール

以下の諸点を柱として授業を展開する。

現代社会における私たちの生活と社会福祉

・社会福祉をどうとらえるか、私たちの生活と社会福祉の課題など

社会福祉のしくみ

・社会福祉の制度体系、財政など

社会福祉とその理論の史的展開過程

・欧米における社会福祉の展開、わが国における社会福祉の展開など

社会福祉の分野

・生活保護、高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉など

社会福祉の実践方法

・社会福祉実践の専門性、基本原則など

成績評価の方法

各学期末の試験、課題レポート、出席状況、等の総合評価により実施します。詳細は、授業時に提示します。

教 科 書

財団法人厚生統計協会 編集、発行『国民の福祉の動向』（最新版）

参 考 書 等

随時、紹介します。

(2) 選択科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
法学 (福祉)	小林弘人	社会福祉主事2・3・4選	4

講義のねらい

社会福祉法制として理解されている各種の法令の意義・内容を理解することを目標とする。具体的には、社会福祉の組織、活動、財政、争訟に関する法令の解説をなるべく平易に説明をする。

講義の内容・授業スケジュール

[目標]

- 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。
- 2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解させる。

[内容]

- 1 社会生活と法
- 2 憲法
 - 1) 基本原理 2) 基本的人権 3) 地方自治
- 3 民法
 - 1) 総則 2) 物権 3) 契約 4) 不法行為 5) 親族 6) 相続
- 4 行政法
 - 1) 行政行為 2) 行政不服審査 3) 行政訴訟 4) 行政手続き 5) 地方行政組織

成績評価の方法

出席状況と年三回位のレポートの提出および定期試験を勘案し、総合評価する。

教科書

小林弘人著『高齢化社会における社会福祉の法』(創成社)

参考書等

授業時間中に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会福祉発達史	林千代	社会福祉主事2・3・4選	4

講義のねらい

いつの時代にも人々の生活不安は、自然の変化と社会の変動によって生じる。社会の変動期には、常に多くの生活問題が発生し、大多数の人々は、生活困難におちいった。それに対応する社会福祉は一定の歴史的産物であること、そしてその理解に立って本質を把握し、現状と今後の方向を考える力をつけたい。

講義の内容・授業スケジュール

主に、英国と日本を中心に、資本主義社会の成立とともに生成した社会事業から社会福祉へ至る歩みを講述する。さらに、こんにちの福祉社会をも検証したい。単に事実の羅列ではなく、対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす思想、それらの関連などを立体的、構造的にとらえるというのが本講義の内容である。なお今も存在しつづける慈善(事業)をもとり上げたい。

特に日本の場合、社会福祉(事業)の前段階は、厚生事業といった。きわめて日本的特質を示すものとして深い考察が必要であると考えている。

履修上の留意点

熱心にとり組もうという意欲を持ってもらいたい。

成績評価の方法

最後にレポート提出を課す。

教科書

特に無い。

参考書等

その都度紹介する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 保 障 論	ふな みず ひろ 浩 行 船 水 浩 行	社会福祉主事2・3・4選	4

講義のねらい

現代社会における私たちの生活は、多くの場合、働いて収入を得ることによって成り立っている。これにより、食べるもの、着るもの、住むところなどを手に入れる。しかし、働く力を失った人、働く機会に恵まれない人など、所得を得ることができない人々はどうするのであろうか。また、人々の生活そのものを荒廃させかねない、病気やケガになったらどうするのであろうか。

社会保障は、このような所得の欠乏、疾病への対応として、所得と医療の保障を主たる目的に形成されてきた。そして、現代社会においては、各国それぞれの文化、社会・経済の状況等の諸要因により、構造、形態、財源等に相違は見られるものの、人々の生活の維持、向上のために必要不可欠の政策であり、制度となっている。

本講義では、この社会保障が、どのような考え方に基づいて形成されてきたものであるのかを踏まえた上で、①現代社会における社会保障の役割と意義はどのような点にあるか、②「社会保障構造改革」という言葉に代表されるように、転換期を迎えているわが国の社会保障制度の課題はどのようなものであるのか、を中心に考察していく。

講義の内容・
授業スケジュール

※以下の諸点を主要な内容とする。

- 1 現代社会と社会保障
- 2 社会保障制度の体系
- 3 年金保険
- 4 医療保険
- 5 介護保険
- 6 労働保健（労災保険、雇用保険）
- 7 民間保険
- 8 社会保障の運営管理
- 9 「社会保障構造改革」と今後の社会保障制度

成績評価の方法

学期末毎の試験、レポート課題、出席状況等を勘案し、総合評価します。

教 科 書

福祉士養成講座編集委員会編『改訂 社会福祉士養成講座5 社会保障論』（中央法規）

参 考 書 等

総理府社会保障制度審議会事務局編『社会保障統計年報』（法研）
厚生省大臣官房政策課監修『社会保障入門』（中央法規）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会福祉計画論	かわ たい もと ゆき 川 廷 宗 之	社会福祉主専2・3・4選	4

講義のねらい

- ①この科目では『社会福祉』と『社会計画』の二つの問題を扱う。
- ②社会福祉計画論は、本来は社会福祉援助技術の内容の一つを構成する専門的領域であるが、この授業では、専門に直接ふれるのではなく、その前提としての社会福祉の基本的な問題を含めて解説する。
- ③社会福祉計画を必要とする現代日本の社会福祉問題について、その内容の理解を図る。
- ④問題対応的なサービス提供から予防福祉的な側面が強調され、その結果、計画化が促進される現代の状況について理解を図る。
- ⑤『社会福祉計画』は、市民個々人の『福祉 (Well Being)』の保障を目指すのであるから、個々人の『福祉計画』を前提にした統合としての『社会福祉計画』として、総合的な理解を深める。

講義の内容・授業スケジュール

- ①前期は、『社会福祉計画』の前提となる『日本の社会福祉』が扱おうとしている様々な福祉課題について学ぶ。
- ②後期は、福祉問題の解決を目指す『社会福祉計画』の詳細について学ぶ。

履修上の留意点

- ①この講義では、開講第1回目に全体のスケジュール等を説明するので、第1回には必ず出席していただきたい。
- ②講義を中心として進めるが、時に授業中に討論を行うこともあるので、積極的な主体的な参加を期待します。
- ③学習者である皆さんの主体的な学習態度を尊重すべく、質問重視の授業を進めるので、関連事項について積極的な質問を期待します。

成績評価の方法

- ①前期末、後期末のレポートの成績を中心に、主体的な出席への評価を含めて成績評価を行う。
- ②前期末のレポート課題は、前期の講義に含まれる社会福祉計画が対応することになる「日本の福祉問題」を自分自身の生活課題に引きつけて論じる課題が出題される。
- ③後期のレポート課題は、社会福祉計画論の理論的課題について、テキストの課題の中から各自自由に選択して、まとめる課題が出題される。
- ④前期レポートと後期レポートは、それぞれ40%と50%の比率で成績評価に反映される。残り10%は、出席状況等を勘案する。

教科書

定藤文弘・坂田周一・小林良二編集『社会福祉計画』（有斐閣）定価2,200円

参考書等

- ①高田真治『社会福祉計画論』（誠信書房）1979年
- ②R. パールマン A. グリン著 岡村重夫 監訳 『コミュニティ・オーガニゼーションと社会計画』（全国社会福祉協議会）1980年
- ③全社協編『地域福祉計画——理論と方法——』（全国社会福祉協議会）1984年

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
公 的 扶 助 論	伊 藤 秀 一 いとう しゅういち	社会福祉主事2・3・4選	4

講義のねらい

本講の中心的テーマは、わが国の社会保障制度体系における生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。このような問題意識のもとに、慈恵的救済から権利的保障へと歩んできた公的扶助の歴史を始め、現行法の目的、原理、原則、現行制度の組織機構、行政運営等を、総合的に検討する。また、近年、注目されている権利擁護、ソーシャル・インクルージョン等にも言及する。

講義の内容・授業スケジュール

(前期)

- ①開講にあたって
- ②公的扶助とは何か(社会保障制度体系における位置を中心として)
- ③公的扶助の歴史的発展過程(イギリス・日本)

(後期)

- ④公的扶助の法制度(目的・原理・原則・扶助の種類・動向・最低生活保障水準)
- ⑤福祉事務所の制度運営と相談援助
- ⑥低所得対策の概要
- ⑦イギリスにおける福祉権活動・運動の動向

履修上の留意点

指定されたテキスト以外の参考文献や新聞記事等を活用しながら学習を深め、『学生参加』型の授業を心掛けたいと考えているので、貧困問題に対する関心をもってほしい。

成績評価の方法

評価は、レポート課題及び年度末の定期試験と出席状況等を勘案して行う。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編『新版 社会福祉士養成講座 6 公的扶助論』(中央法規)

参考書等

随時紹介する。

その他

ビデオ教材を活用したり、受講者による意見発表会等も行う。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
障害者福祉論	きり桐 ほん原 ひろ宏 ひろゆき行	社会福祉士専2・3・4選	4

講義のねらい

障害者福祉は、障害者が一人の人間として生活していく過程のなかで、その固有の問題をとらえ、それを権利の視点に立って把握していくことが必要になる。

この授業では、障害者援助を担うための専門職に必要な基礎的事項の学習が中心となる。具体的には、現代社会における障害の概念、障害者福祉の理念などの基礎となる考え方についての理解の促進、現行の障害者施策や障害者の相談援助活動の原則等についての知識の獲得などを旨とする。

講義の内容・授業スケジュール

<前期内容>

- ・障害特性の理解（視覚障害，聴覚言語障害，運動障害，内部障害，知的障害）（第1回～第7回）
- ・障害者福祉の理念（ノーマライゼーション，リハビリテーション等）（第8回～第9回）
- ・障害の概念（障害の構造的理解）（第10回）
- ・障害者の実態（第11回）
- ・障害者福祉の歴史（第12回～第13回）

<後期内容>

- ・障害者福祉の施策（障害者福祉に関連する法律の理解，障害者福祉における行政の役割，障害者プラン，支援費制度等）（第1回～第5回）
- ・障害者福祉サービス（身体障害者，知的障害者，精神障害者，障害児の各領域別福祉サービスの理解）（第6回～第9回）
- ・障害者福祉の分野別課題（保健・医療，教育，雇用，権利擁護，所得保障，バリアフリー等）（第10回～第13回）

成績評価の方法

前期終了時点での中間評価試験及び年度末試験を総合して評価する。

教科書

- ・『障害者福祉論』（コレール社）2,500円
- ・授業内容により補足資料を配布する。

参考書等

授業のなかで随時指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
老 人 福 祉 論	とう じょう みつ まさ 東 條 光 雅	社会福祉専2・3・4選	4

講義のねらい

老人虐待の多発、家族介護の深刻化、社会保険料の負担増、老齢年金の減額、介護保険の導入等、老年期や高齢者に関する事柄が、近年富にマスメディアを賑わしている。こうした事柄が騒がれる背景は、世界一の「人生80年」という長寿化の進行と急激な少子化による日本社会の高齢化である。

わが国の高齢化の度合いはいよいよ欧米社会のそれに匹敵するまでとなり、今世紀には人類未曾有の高齢社会を迎えようとしている。その時に高齢者となるのは、現在“青・壮年期”にある人々である。これから一層高度化してゆく高齢社会、深刻化してゆく高齢者問題にどのように準備し対応してゆくかは、日本社会にとって大変重要な問題である。

本講義では、社会的対応策としての老人福祉の制度・政策についてのみでなく、対象者理解の観点から高齢者や老年期の特性をも含み、幅広く講じてゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 前期
- ・人口高齢化の意味
 - ・高齢者問題の背景
社会変動、家族変動
 - ・高齢者の生活問題
 - ・老化と老年期の身体疾患、身体障害、精神障害
 - ・高齢者の保健福祉ニーズ
ニーズ把握の方法、保健福祉ニーズの種類
- 後期
- ・老人保健福祉法制と関連施策
近年の制度及び政策の動向、老人保健法、老人福祉法、介護保険法、関連施策
 - ・老人保健福祉の供給システムと財源
供給システムとは、供給システムの仕組み（含む、シルバーサービス）、財源、マンパワー
 - ・在宅サービスの制度と処遇
在宅サービスの制度的枠組み、在宅サービスの歴史・理念・目標、在宅サービスの種類、在宅サービスにおける援助事例
 - ・施設サービスの制度と処遇
入所（入院）施設の種類と概要、社会福祉分野の入所施設、保健・医療分野の入所（入院）施設、施設における処遇、施設サービスにおける援助事例
 - ・地域及び住環境の整備と福祉機器

履修上の留意点

この授業は講義形式で進めてゆくが、適宜受講生に対して講義内容に関する質問をしたり、意見発表をしてもらうことがある。授業態度に問題がある場合には退室してもらうことがあるので、気を引き締めて履修してもらいたい。

成績評価の方法

原則的には、前期試験と年度末定期試験の平均点をもって評価する。

教科書

教科書は初回講義時に指示する。

参考書等

参考書等については必要に応じてその都度紹介する。

その他

ほぼ毎回プリント資料を配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
児 童 福 祉 論	しづ や ま さ し 澁 谷 昌 史	社会福祉主事2・3・4選	4

講義のねらい

子ども家庭福祉の基礎を形成する思想、歴史、現行制度及び子どもを取り巻く諸問題の実態について幅広く学習する機会を提供し、児童福祉の基礎知識を形成することを目的とする。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 子ども家庭福祉の理念－不登校への対応事例を通して
2. 子ども家庭福祉の歴史
3. 子ども家庭福祉各論～健全育成
4. 子ども家庭福祉各論～保育
5. 子ども家庭福祉各論～子育て支援
6. 子ども家庭福祉各論～子ども虐待
7. 子ども家庭福祉各論～社会的養護
8. 子ども家庭福祉各論～ひとり親家庭

履修上の留意点

児童福祉法及び児童虐待防止法はインターネットからでも入手できるので、何らかの形で入手しておいて欲しい。

成績評価の方法

期末試験によって評価する。試験会場へのノートや配布資料の持込は不可。なお、出題形式は、論述ではなく、議論する前提としての知識を習得したかを客観的に評価できるように、選択式・短答式を採用する。

教 科 書

植木信一編著『保育ライブラリ シリーズ「保育・福祉を知る」児童福祉』（北大路書房）

参 考 書 等

柏女霊峰『現代児童福祉論』（誠信書房）
 全国保育団体連絡会・保育研究所編『保育白書 2003』（草土文化）
 そのほか随時紹介する。

そ の 他

少人数であれば討論法を用いるが、そうでなければ講義形式で授業を進める。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
女性福祉論	はやし 林 千代	社会福祉主事2・3・4選	4

講義のねらい

歴史を省みるに、女性は社会構造の所産である性差別を根底に社会的、経済的、精神的なしわよせを受けてきた。女性問題としての発生がそれである。女性が当面する生活上の困難や矛盾に対して、社会福祉のかかわる部分はきわめて大きい。社会福祉の分野で唯一女性に対応してきた婦人保護事業を基底に、社会構造の変動と共に複雑に多様化し、かつ重複して現れる女性の生活上の諸問題とその対応策について学ぶことを目的とする。それは、男性と共に考えるべき課題であり、社会福祉の分野において男と女の地平を求めることにはかならない。

講義の内容・授業スケジュール

1. 女性福祉に関する先行理論の検証と概念規定
2. 社会福祉事業としての婦人保護事業
3. 売春防止法の成立について
4. 婦人保護事業の現状と女性の生活問題
5. その他の女性生活問題
母子世帯の暮らし、女と老い、福祉労働と女性などなど
6. 男性と女性のあり方を考える

履修上の留意点

熱心に考えようとする学生の参加を希望する。

成績評価の方法

最後にレポート提出を課す。

教科書

特に無い。その都度資料を配布する。

参考書等

林千代・慈愛会編『慈愛寮に生きた女性たち』（東京創文社）
林千代編『母子福祉を拓く』（ドメス出版）

その他

視聴覚機材を用いる予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
医療福祉論	さかの 坂 野 憲 司	社会福祉主事2・3・4選	4

講義のねらい

医療福祉の分野は、個々のサービスについての論議から政策の論議まで広い範囲の論議を含んでいる。本講義では医療ソーシャルワーカーを目指す学生を念頭に置いて、ソーシャルワーク実践の視座から医療福祉の諸問題を捉え直すと同時に、医療ソーシャルワークの実際について講義したいと考えている。学生が、実践的な視点から医療福祉問題に対処し得る創造力を身に付けることが本講義の目標である。

講義の内容・授業スケジュール

- (前期) 医療福祉と医療ソーシャルワークの理解
 (1～2) 医療と福祉の接点 (3～6) 医療福祉の理念
 (7～10) 医療福祉の歴史と現状 (11～13) 医療ソーシャルワークに必要な知識
 (後期) 医療ソーシャルワークの実際
 (14～16) ソーシャルワーク関係 (17～18) 面接の基本
 (19～20) 外来・入院におけるソーシャルワーク
 (21～22) 退院とケアマネジメント (24～) 事例から学ぶ(個別援助から地域援助まで)

履修上の留意点

講義への主体的参加を望みます。

成績評価の方法

定期試験の成績および出席によって評価する。

教科書

山川哲也著『改訂版臨床医療ソーシャルワーク』（精神書房）2,500円

科目名	担当者名	配当学科	単位
地域福祉論	とよだむねひろ 豊田 宗裕	社会福祉主事2・3・4選	4

講義のねらい

地域福祉論で学習すべきポイントは、大きく分けて以下の3点である。本講義ではこれらについて、われわれが生活している地域そのものの持つ特色を明らかにしたうえで、福祉問題の出現過程について学び、その解決のための手段や考え方を理解する。

- (1) 総論としての地域福祉の枠組み（地域福祉とはどのようなものか。何故必要なのか）
 - ①地域福祉論の概念、②地域福祉の歴史的展開、③コミュニティの捉え方・考え方
 - ④現在の地域福祉施策の特徴
- (2) 各論としての地域福祉の各種制度や援助方法（地域福祉施策の内容と提供方法）
 - ①地域福祉サービスの種類とその提供方法、②サービス提供組織やその仕組み
 - ③福祉ニーズの把握や組織化活動の展開方法
- (3) 現在および将来的な地域福祉に関連した施策の動向と展望
 - ①地域福祉に関連した、経済的・社会的な動向と展望、②計画づくりと福祉制度
 - ③これからの方向性

講座には、様々な年次の学生がいることを考慮し、なるべく具体的な、かつ実践に役立つ内容を盛り込んで、講義を進めたい。併せて、本科目は社会福祉士試験の指定科目ということもあり、試験の内容も考慮して講義を行いたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

講義スケジュール（番号は授業回数ではない）

	講義テーマ	講義内容
1	地域福祉と生活問題	地域福祉の考え方と現代の生活問題
2	地域福祉とコミュニティ	地域社会の変遷とコミュニティの形成 住民の社会参加の状況とコミュニティ 他
3	地域福祉理念の変遷	地域福祉理念の歴史的変遷
4	地域福祉の概念とその範囲	地域福祉の代表的な考え方とその類型
5	地域福祉のサービス体系	地域福祉サービス体系の考え方とその基本理念 地域福祉活動の体系とその内容 他
11	地域福祉の推進方法	地域援助技術の必要性と社会福祉計画 他
16	福祉教育の推進	福祉教育の考え方とその推進
17	地域福祉の財源	地域福祉の財源と共同募金の理解 等
21	地域福祉の推進組織	社会福祉協議会、行政、各種団体・機関 非営利団体の活動とNPO法 他
24	地域福祉のマンパワー	ボランティア活動とその動き 地域における地域福祉のマンパワー（民生委員を中心に）

成績評価の方法

出席回数、試験期間内の定期試験および授業時間中に課すレポートの提出（随時）の双方の状況により、判定する。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編『地域福祉論』（中央法規出版）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会学 (福祉)	たけやま うめ のり 武 山 梅 乗	社会福祉主事2・3・4選	4

講義のねらい

主として社会福祉士及び社会福祉主事をを目指す学生を対象に社会学の基礎的な知識を提示し、現代社会における今日的な諸問題について理解することを通じて、より広い視点から〈社会福祉〉を展望する視点を養ってもらうことを目的としています。

講義の内容・授業スケジュール

- (前期) I. 社会学の基礎概念：(1)行為論 (2)役割論、(3)自我とアイデンティティ、(4・5)組織と官僚制、(6)ネットワークとボランティア、(7)社会階層と社会移動
 II. 現代社会論：(8・9)逸脱とラベリング、(10・11)ジェンダーとフェミニズム、(12・13)医療化と差別論
 (後期) III. 現代家族論：(14)家族制度と核家族化、(15)ライフサイクルとライフコース、(16)未婚化と結婚の意義
 IV. 地域社会論：(17)アーバンイズムとコミュニティ、(18)国土計画と過疎・過密、(19)まちづくりとQOL
 V. 国家とエスニシティ：(20)国民国家としての〈日本〉、(21)エスニシティとしての〈沖縄〉
 VI. 社会変動論：(22)近代化と資本主義、(23)大衆社会論と社会的性格、(24)産業社会論、(25)消費社会と企業文化・福祉文化、(26)公害と環境問題

成績評価の方法

出席状況、講義期間中に課すレポートの内容、定期試験の結果から総合的に評価します。

教科書

教科書は特に指定しません。随時配布するプリントに従って講義を進めます。

参考書等

参考書は講義期間中に随時指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
心理学 (福祉)	たか はし よし ひろ 高 橋 良 博	社会福祉主事2・3・4選	4

講義のねらい

本講義のねらいとして以下の項目を目標としている。

- 1 心理学の基本概念をふまえ、人間理解のための基本的知識の理解と習得。
- 2 乳幼児期・児童期・青年期・壮年期・高齢期など人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴についての理解。
- 3 援助を要する人々とかかわって行くための心理的援助技術の概要の理解と習得をはかり、援助者としての資質を高めるための自己理解をもとめる。

講義の内容・授業スケジュール

講義の予定としては、以下の項目についてふれて行く予定である。

- 1 人間の心理学的理解 ①心理学の定義と、領域および研究法 ②欲求・動機づけ ③感情・情動 ④感覚・知覚・認知 ⑤学習・記憶・思考 ⑥知能・創造性 ⑦人格 ⑧適応と不適応
- 2 人間の成長・発達の心理 ①発達段階と生涯発達 ②発達課題と高齢期 ③発達の障害と発達援助
- 3 人間理解のための心理学理論と技法 ①基礎理論；心理学的援助技術の基本的人間観 ②心理測定と診断
- 4 心理的援助技法の概要 ①心理療法（総論）心理療法の歴史と種類 ②心理療法（各論）精神分析・カウンセリング・家族療法・行動療法・認知療法・森田療法・自律訓練法など

成績評価の方法

筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点（講義への出席状況や、参加度）などを総合して評価を行う。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座 心理学』（中央法規）2,500円（税別）

科目名	担当者名	配当学科	単位
リハビリテーション論	こうご せいこ 向後 礼子	社会福祉主事2・3・4選	4

講義のねらい

リハビリテーションには、医学・教育・職業・社会の4領域があるが、本講義では、職業リハビリテーションを中心に障害者が社会の中で働くということの意味を考える。併せて、障害者の就労を支える仕組みについて学ぶ。また、バリアフリーや障害理解の問題に関して、自分なりの考えを深めていく。

履修上の留意点

履修者には、リハビリテーション論で採りあげられるさまざまな問題を単なる知識として覚えるのではなく、自らの問題として考えてほしい。

成績評価の方法

講義中の小課題に対する回答と試験により評価する。なお、出席状況を加味する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

講義中に随時指定する。

その他

基本的に講義形式で進める。履修人数によっては、履修者に発表などの活動を行ってもらう。また、ビデオ等の視聴を含む。

科目名	担当者名	配当学科	単位
家庭福祉論	たけやま うめ のり 武 山 梅 乗	社会福祉主事2・3・4選	4

講義のねらい

家族の諸問題を女性、子ども、高齢者という観点から概観した上で、〈家族福祉〉の限界を指摘し、家族という枠組みを超えて地域、行政、NPO、企業等を巻き込みながら展開される〈家庭福祉〉の可能性について模索することを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

- (前期) I. 家庭福祉の視点：(1)家庭福祉の視点、(2)世帯構造と核家族化、(3・4)家族制度とは、(5)核家族の機能と構造、(6)家族周期とライフコース、(7)イエ制度と〈近代家族〉
- II. 女性と家庭福祉：(8・9)フェミニズムからみた家族—母性、専業主婦、中絶、(10)女性労働と育児、(11)母子家庭の諸問題、(12・13)夫婦別姓と婚姻の意義
- (後期) III. 子どもと家庭福祉：(14)児童福祉の体系にみる〈こども〉観、(15)消費としての子育てと〈地域〉における子育て、(16)児童虐待
- IV. 高齢者と家庭福祉：(17)ライフサイクルの変化にみる高齢者の諸問題、(18・19)家族と高齢者介護、(20)高齢者にとっての居住福祉
- V. 国家・地域と家庭福祉：(21)日本における家族政策と福祉国家論、(22)在宅福祉と〈地域〉、(23)家庭—地域福祉という枠組み
- VI. 民間社会福祉と家庭福祉：(24)家庭福祉の市場性、(25・26)非営利セクターと家庭福祉—配食サービスを事例として

成績評価の方法

出席状況、講義期間中に課すレポートの内容、定期試験の結果から総合的に評価します。

教科書

教科書は特に指定しません。随時配布するプリントに従って講義を進めます。

参考書等

参考書は講義期間中に随時指示します。

